

令和2年10月5日提出の資料から2頁及び3頁に一部追記をし、140から144頁を追加している。
また、2頁の誤記を修正している。

敦賀発電所2号炉

ボーリング柱状図の記事欄に係るご指摘への回答

令和2年9月24日提出の資料からの修正箇所

及び

令和2年10月5日提出の資料からの追記箇所

令和2年10月30日

日本原子力発電株式会社

令和2年9月24日提出の資料からの誤記修正(1/2)

No.	資料番号	修正頁	修正内容			頁
			修正箇所	修正前 (令和2年9月24日)	修正後	
1	本編	22	分析2-2	評価結果を	評価結果で	4,5
2	補足説明資料1	1-1-28	148	枠上部が消えている	枠の修正	6,7
3	補足説明資料1	1-1-29	156	枠上部が消えている	枠の修正	8,9
4	補足説明資料1	1-2-6	26	枠上部が消えている	枠の修正	10,11
5	補足説明資料1	1-2-20	108	枠上部が消えている	枠の修正	12,13
6	補足説明資料1	1-3-7	31	枠上部が消えている	枠の修正	14,15
7	補足説明資料1	1-5-4	15	不要な枠がついている	枠の削除	16,17
8	補足説明資料1	1-5-15	85	枠上部が消えている	枠の修正	18,19
9	補足説明資料1	1-6-5	10	垂円礫主体	垂角礫～垂円礫主体	20,21
10	補足説明資料1	1-6-5	10	垂鉛	垂円	20,21
11	補足説明資料1	1-6-17	64	44.24～44.53:	44.24～44.53m:	22,23
12	補足説明資料1	1-6-18	73	45.36～45.39:	45.36～45.39m:	24,25
13	補足説明資料1	1-6-19	76	46.12～46.17:	46.12～46.17m:	26,27
14	補足説明資料1	1-6-31	137	伴わない	伴わない	28,29
15	補足説明資料1	1-6-32	144	割れ目1～2cm間隔	割れ目は1～2cm間隔	30,31
16	補足説明資料1	1-6-33	151	伴わない	伴わない	32,33
17	補足説明資料1	1-6-36	164	伴わない	伴わない	34,35
18	補足説明資料1	1-6-37	173	伴わない	伴わない	36,37
19	補足説明資料1	1-6-39	189	はさまれない	はさまない	38,39
20	補足説明資料1	1-6-40	194	挟在物	挟雑物	40,41
21	補足説明資料1	1-6-43	211	岩片間には	岩片間は	42,43
22	補足説明資料1	1-6-43	212	密着度の	密着度が	42,43
23	補足説明資料1	1-7-8	6	割れ目がやゝ少なく	割れ目やゝ少なく	44,45
24	補足説明資料1	1-7-32	96	上下位よりもさらに	上下位よりも更に	46,47
25	補足説明資料1	1-7-34	107	白濁化	白濁化	48,49

No.	資料番号	修正頁	修正内容			頁
			修正箇所	修正前 (令和2年9月24日)	修正後	
26	補足説明資料1	1-7-38	123	動脈	同脈	50,51
27	補足説明資料1	1-7-38	123	淡緑色シルトから細砂脈はさむ。	淡緑色シルト～細砂脈はさむ。	50,51
28	補足説明資料1	1-7-49	171	岩片中には主せん断目と同方向	岩片中には主せん断面と同方向	52,53
29	補足説明資料1	1-8-3	1	埋戻土	:埋戻土	54,55
30	補足説明資料1	1-8-3	2	3.5m	3.50m	54,55
31	補足説明資料1	1-8-3	2	盛土	:盛土	54,55
32	補足説明資料1	1-8-3	2	砂	:砂	54,55
33	補足説明資料1	1-8-4	3	砂礫	:砂礫	56,57
34	補足説明資料1	1-8-4	3	砂	:砂	56,57
35	補足説明資料1	1-8-4	3	砂礫	:砂礫	56,57
36	補足説明資料1	1-8-5	4	砂	:砂	58,59
37	補足説明資料1	1-8-5	4	10.05m	10.05	58,59
38	補足説明資料1	1-8-7	9	幅1～2m/mm	幅1～2m/m	60,61
39	補足説明資料1	1-8-8	13	割れ目ぞい5～15m/m	割れ目ぞい幅5～15m/m	62,63
40	補足説明資料1	1-8-11	23	23.71～24.53m	23.71～24.53	64,65
41	補足説明資料1	1-8-12	28	破碎帯	:破碎帯	66,67
42	補足説明資料1	1-8-12	30	砂状の基質を	砂状の基質と	66,67
43	補足説明資料1	1-8-12	31	破碎帯	:破碎帯	66,67
44	補足説明資料1	1-8-13	34	破碎帯	:破碎帯	68,69
45	補足説明資料1	1-8-17	52	すでに	既に	70,71
46	補足説明資料1	1-8-17	53	～42.40m 上下端	～42.40mは上下端	70,71
47	補足説明資料1	1-8-18	55	破碎帯	:破碎帯	72,73
48	補足説明資料1	1-8-19	58	コア観察カードの1行目が青枠に入っていない※	枠の修正	74,75
49	補足説明資料1	1-8-29	104	破碎帯	:破碎帯	76,77
50	補足説明資料1	1-8-30	111	～83.74m 硬さ「C」	～83.74mには硬さ「C」	78,79

※:No.48については令和2年10月5日提出の資料において「青枠に入っていない」となっていたため、「青枠に入っていない」に修正している。

令和2年9月24日提出の資料からの誤記修正(2/2)

No.	資料番号	修正頁	修正内容		頁	
			修正箇所	修正前 (令和2年9月24日)		修正後
51	補足説明資料1	1-8-30	111	岩片間の砂状～	:岩片間の砂状～	78,79
52	補足説明資料1	1-8-32	120	破碎帯	:破碎帯	80,81
53	補足説明資料1	1-8-33	125	厚さ	厚	82,83
54	補足説明資料1	1-8-33	127	94.25m～	94.25～	82,83
55	補足説明資料1	1-8-34	129	60° 割れ目に厚さ1m/m	60° 割れ目に厚1m/m	84,85
56	補足説明資料1	1-8-34	133	脈状から	脈状～	84,85
57	補足説明資料1	1-8-35	140	マンガン鉱染の黒っぽい	マンガン鉱染のため黒っぽい	86,87
58	補足説明資料1	1-8-37	143	103.24m, 203.48m	103.24m, 103.48m	88,89
59	補足説明資料1	1-8-42	160	全体も軟化	全体が軟化	90,91
60	補足説明資料1	1-8-43	169	60° 割れ目厚さ2m/m	60° 割れ目厚2m/m	92,93
61	補足説明資料1	1-8-45	175	厚さ1～4m/mではさむ。	厚さ1～4m/mはさむ。	94,95
62	補足説明資料1	1-8-45	177	破碎帯(主せん断面)	:破碎帯(主せん断面)	94,95
63	補足説明資料1	1-8-47	186	厚さ1～2m/mm	厚さ1～2m/m	96,97
64	補足説明資料1	1-8-49	196	析出	晶出	98,99
65	補足説明資料1	1-8-54	220	80～90° mゆ着割れ目	80～90° のゆ着割れ目	100,101
66	補足説明資料1	1-8-59	235	良く密着	よく密着	102,103
67	補足説明資料1	1-9-3	1	φ10～100mmの角礫から垂角礫が多い	φ10～100mmの角礫～垂角礫が多い	104,105
68	補足説明資料1	1-9-4	2	7.45m～7.70m	7.45～7.70m	106,107
69	補足説明資料1	1-9-10	16	20.02m付近 付近きわめて小規模～	20.02m付近 きわめて小規模～	108,109
70	補足説明資料1	1-9-20	81	60° 幅20mmで	60° 幅20mm～30mmで	110,111
71	補足説明資料1	1-9-23	100	86.96～88.03m	86.96m～88.03	112,113
72	補足説明資料1	1-9-28	129	113.43mの割れ目沿いに劣化が沿いに劣化が見られ～	113.43mの割れ目沿いに劣化が見られ～	114,115
73	補足説明資料1	1-9-31	145	127.00～127.83m	127.00～127.83	116,117
74	補足説明資料1	1-10-6	13	表石	長石	118,119
75	補足説明資料1	1-10-7	20	割れ目沿い及び	割れ目沿いおよび	120,121

No.	資料番号	修正頁	修正内容			頁
			修正箇所	修正前 (令和2年9月24日)	修正後	
76	補足説明資料1	1-10-8	23	高角度厚割れ目	高角度割れ目	122,123
77	補足説明資料1	1-10-11	38	砂粒化している	砂状化している	124,125
78	補足説明資料1	1-10-12	39	破碎帯	:破碎帯	126,127
79	補足説明資料1	1-10-12	40	社交する	斜交する	126,127
80	補足説明資料1	1-10-12	43	割れ方向には	割れ目面には	126,127
81	補足説明資料1	1-10-13	44	破碎帯	:破碎帯	128,129
82	補足説明資料1	1-10-13	46	破碎帯	:破碎帯	128,129
83	補足説明資料1	1-10-14	51	∠60°	∠64°	130,131
84	補足説明資料1	1-10-15	52	挟む。	挟在。	132,133
85	補足説明資料1	1-10-16	56	厚さ7～0mm	厚さ7～10mm	134,135
86	補足説明資料1	1-10-17	60	割れ目間に	割れ目面に	136,137
87	補足説明資料1	1-10-17	60	10YR9/6	10YR4/6	136,137
88	補足説明資料1	1-10-19	64	破碎帯	:破碎帯	138,139
89	補足説明資料1	1-10-19	67	46.32m	46.33m	138,139

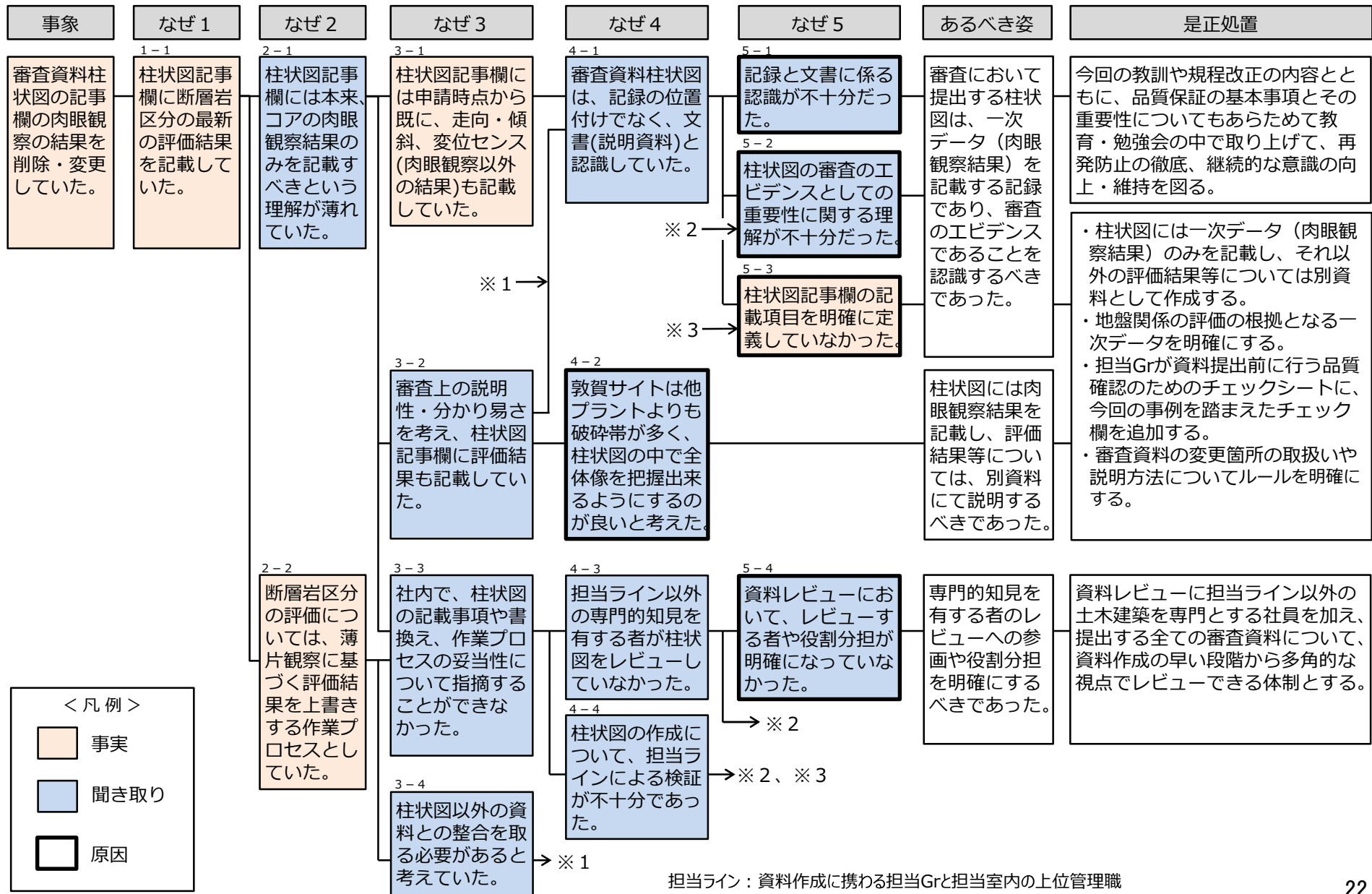
令和2年10月5日提出の資料からの追記箇所

No.	資料番号	追記頁	追記内容	頁
1	本編	4	■本日の審査会合のために令和2年9月24日に提出した資料に誤記があったことに関しては、敦賀発電所2号炉の審査資料の記載の不備に関する不適合がこれまでに4件発生していることを踏まえ、これらの共通原因の分析を進めている。	140,141
2	本編	26	敦賀発電所2号炉の審査資料の記載の不備に関する不適合がこれまでに4件発生していることを踏まえ、これらの共通原因の分析を進めている。	142,143

■ 不適合管理の概要：不適合 1「柱状図の肉眼観察結果を削除・変更していた」について

修正前

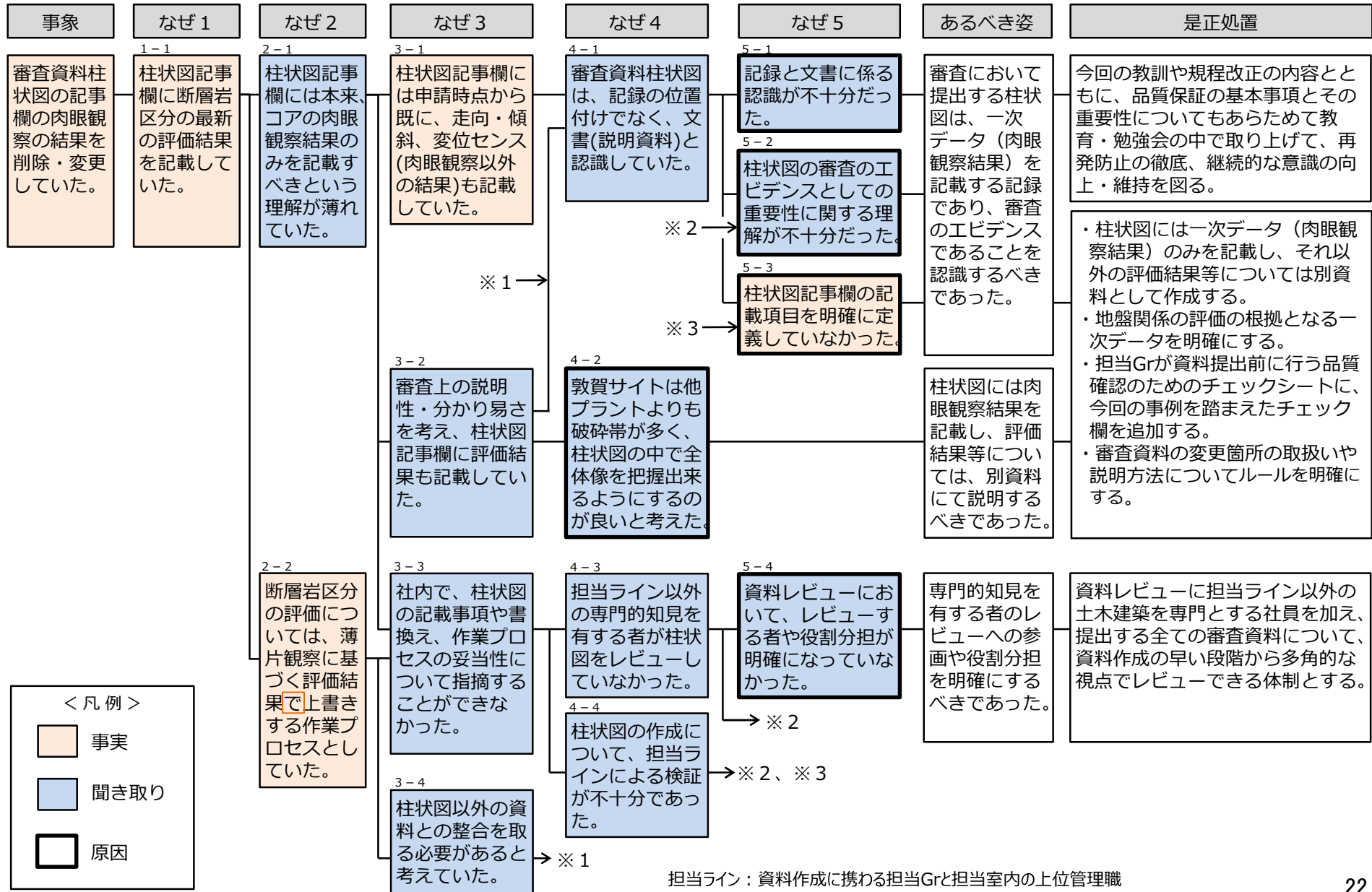
○ 追加の原因分析、是正処置



■ 不適合管理の概要：不適合 1「柱状図の肉眼観察結果を削除・変更していた」について

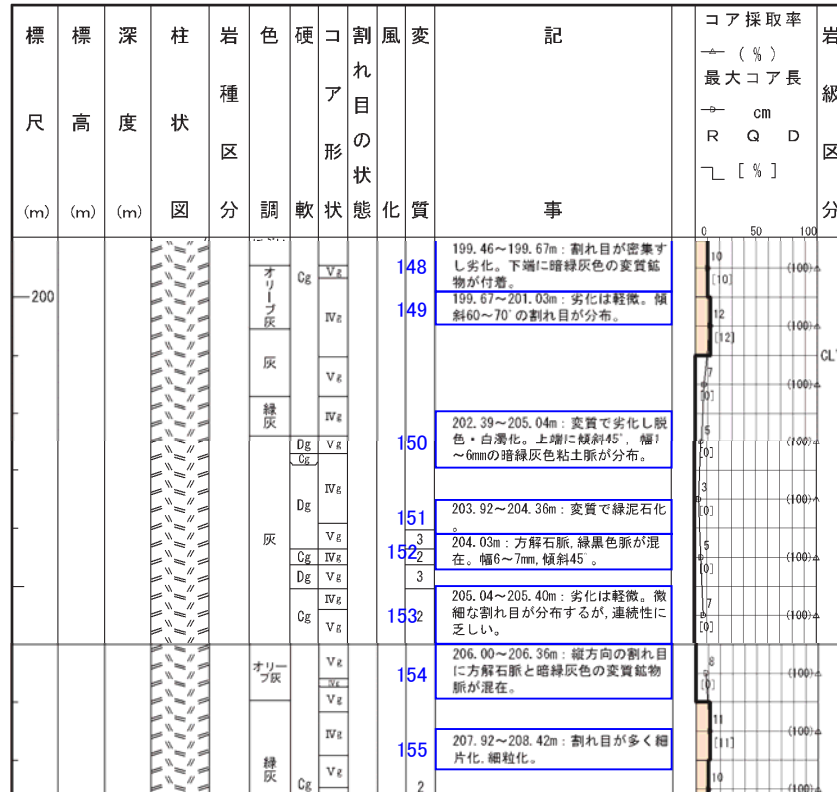
修正後

○ 追加の原因分析、是正処置



報告書作成用柱状図
(H26年9月)

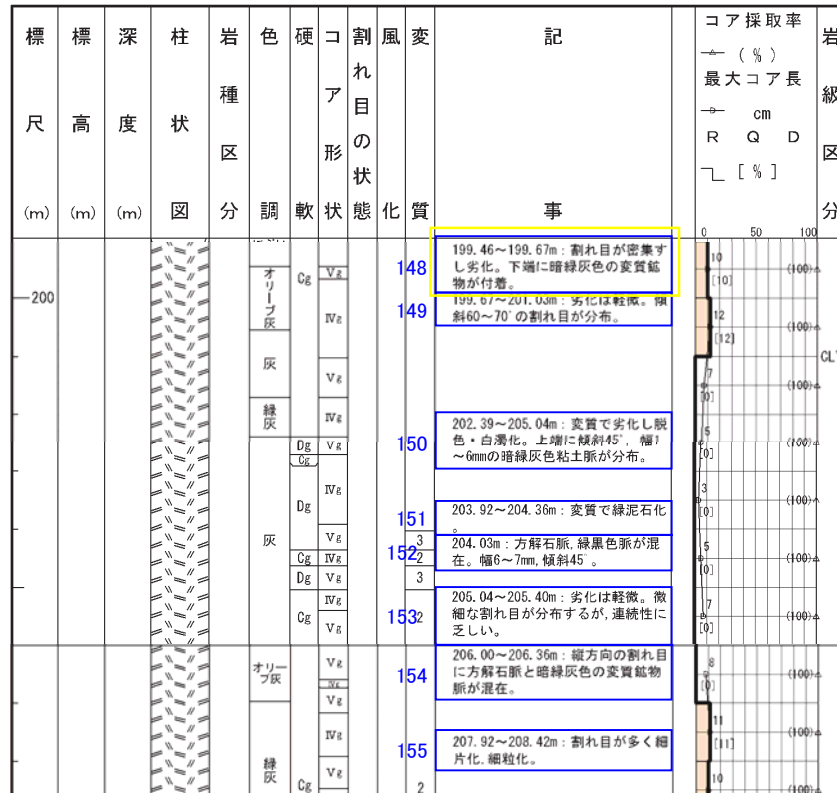
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
148	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
149	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
150	・劣化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部で粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
151	・表現の見直し(緑泥石化→緑色に変色)。
152	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
153	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
154	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
155	・細片化、細粒化については、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

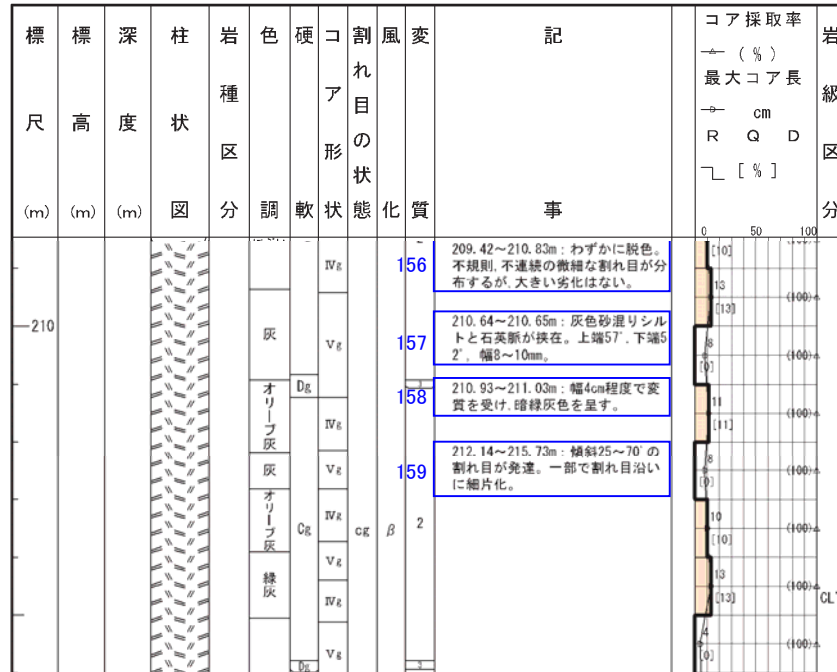
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
148	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
149	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
150	・劣化程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部で粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
151	・表現の見直し(緑泥石化→緑色に変色)。
152	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
153	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
154	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
155	・細片化、細粒化については、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

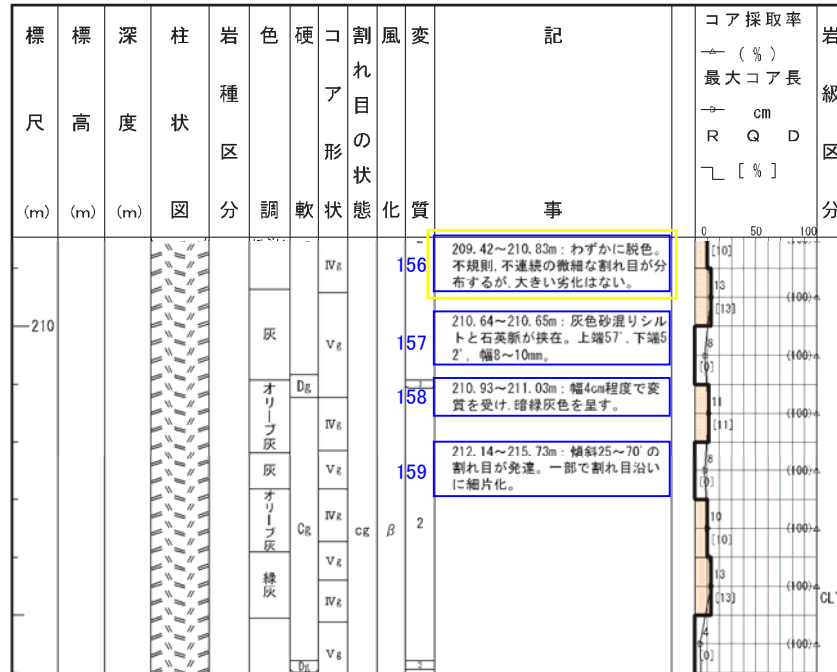
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
156	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
157	・砂混じりシルトを挟むが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鉍物脈については、補足的なものであるため削除。
158	・色調については、補足的なものであるため削除。
159	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・細片化しているが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
156	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
157	・砂混じりシルトを挟むが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鉍物脈については、補足的なものであるため削除。
158	・色調については、補足的なものであるため削除。
159	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・細片化しているが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

申請書用柱状図

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分
	-16.05	27.25	礫混り砂シルト	シルト質砂	暗緑灰					26 27.25~27.94m: シルト質砂 細粒砂が主で、シルト及び中粒砂が全体に混入。貝殻を多量に含む。	100	(100)	
	-16.54	27.94	シルト質砂	礫質砂	暗緑灰					27 27.94~29.29m: 礫・シルト質砂 植物片が点在。下部は礫・シルト分が少なくなる。 28.42m付近にのみ貝殻片が混入。	100	(100)	
	-17.49	29.29	礫質砂	礫質砂	暗緑灰					28 29.29~30.25m: 礫質砂 中~粗粒砂が主で、径2~5mm程度の石英を30%程度含む。	100	(100)	
30	-18.17	30.25	有機質砂	砂	黒褐色					29 30.25~35.58m: 砂質土主体(Ga11層)	100	(100)	
	-18.73	31.04	礫混り砂	砂	灰					30 31.04~32.00m: 有機質砂 細粒砂~中粒砂が主で径2~5mmの石英が混入。下部は径50mmの礫が分布。31.08mに有機物が濃集。	100	(100)	
	-19.41	32.00	砂	砂	灰白					31 31.04~32.00m: 礫混り砂 細~中粒砂が主で径2~4mmの細礫が混る。下部は礫質で径50mmの垂円礫を含む。 31.08m付近: 有機物が混る。	100	(100)	
	-20.79	33.95	礫質砂	砂	灰					32 32.00~33.95m: 砂 細~中粒砂が主で部分的にシルト、粗粒砂が混る。 32.05~32.27m: 有機物が混入する	100	(100)	
	-21.94	35.58	礫質砂	砂	灰					33 33.95~35.58mm: 礫質砂 細~粗粒砂が主で径2~10mmの垂角礫を含む。礫率20~30%。 33.95~34.16m: 礫が多い。 34.16~34.35m: 細粒砂主体。	100	(100)	

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事
	-16.05	27.25	シルト質砂	灰		100						26 27.25~27.94m ・シルト質砂である。
	-16.54	27.94	礫・シルト質砂	灰		100						27 27.94~29.29m ・礫・シルト質砂である。
	-17.49	29.29	礫質砂	灰		100						28 29.29~30.25m ・礫質砂である。 ・中~粗粒砂が主体である。
30	-18.17	30.25	有機質砂	灰		100						30 30.25~31.04m ・有機質砂である。 ・細粒砂~中粒砂が主体である。
	-18.73	31.04	礫混り砂	灰		100						31 31.04~32.00m ・礫混り砂である。
	-19.41	32.00	砂	灰		100						32 32.00~33.95m ・砂である。
	-20.79	33.95	礫質砂	灰		100						33 33.95~35.58mm ・礫質砂である。 ・細~粗粒砂が主体である。
	-21.94	35.58	砂	灰		100						35.58~42.82m ・砂である。

記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
26	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
27	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
28	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、中~粗粒砂主体であることを記載。
29	・区間毎の性状を個別に記載しているため、礫質土主体とのまとめ書きについては削除。
30	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、細粒砂~中粒砂主体であることを記載。
31	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
32	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
33	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、細~粗粒砂主体であることを記載。 ・33.95~35.58mmは33.95~35.58mの誤り。 ^{※2}

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

申請書用柱状図

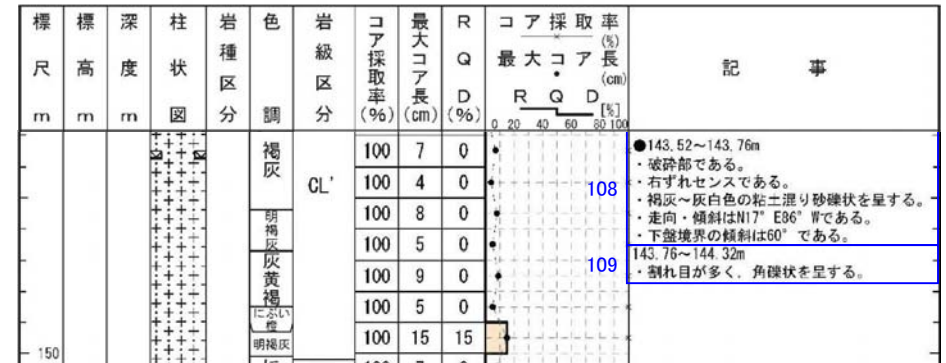
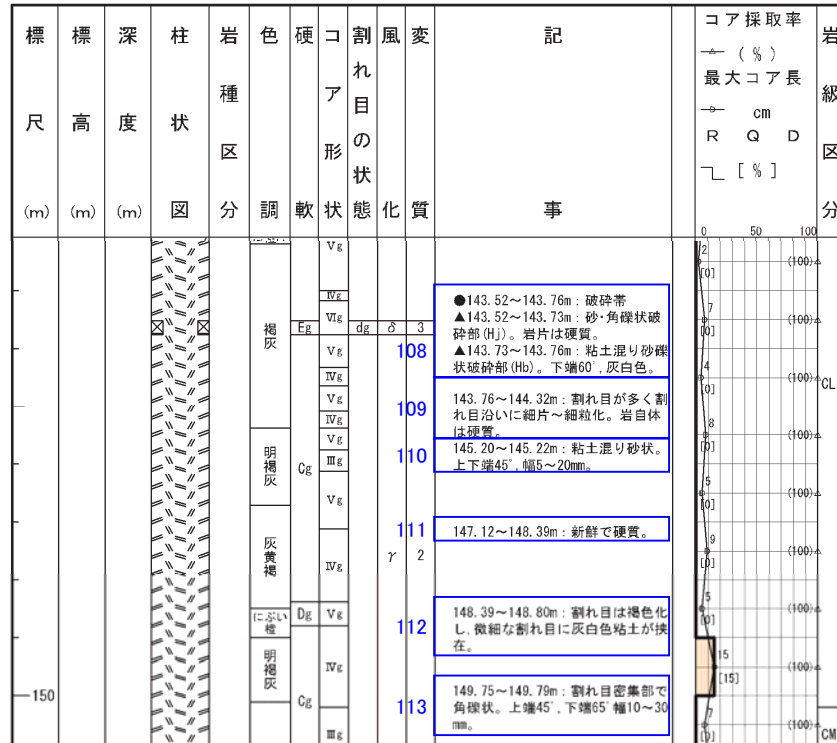
標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分
	-16.05	27.25	礫混り砂質シルト							26 27.25~27.94m: シルト質砂 細粒砂が主で、シルト及び中粒砂が全体に混入。貝殻を多量に含む。	100		
	-16.54	27.94	シルト質砂							27 27.94~29.29m: 礫・シルト質砂 植物片が点在。下部は礫・シルト分が少なくなる。 28.42m付近にのみ貝殻片が混入。	100		
	-17.49	29.29	礫質砂							28 29.29~30.25m: 礫質砂 中~粗粒砂が主で、径2~5mm程度の石英を30%程度含む。	100		
	-18.17	30.25	有機質砂							29 30.25~35.58m: 砂質土主体(Ga11層)	100		
	-18.73	31.04	礫混り砂							30 30.25~31.04m: 有機質砂 細粒砂~中粒砂が主で径2~5mmの石英が混入。下部は径50mmの礫が分布。31.08mに有機物が濃集。	100		
	-19.41	32.00	砂							31 31.04~32.00m: 礫混り砂 細~中粒砂が主で径2~4mmの細礫が混る。下部は礫質で径50mmの垂円礫を含む。 31.08m付近: 有機物が混る。	100		
	-20.79	33.95	礫質砂							32 32.00~33.95m: 砂 細~中粒砂が主で部分的にシルト、粗粒砂が混る。 32.05~32.27m: 有機物が混入する	100		
	-21.94	35.58								33 33.95~35.58mm: 礫質砂 細~粗粒砂が主で径2~10mmの垂角礫を含む。礫率20~30%。 33.95~34.16m: 礫が多い。 34.16~34.35m: 細粒砂主体。	100		

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事
	-16.05	27.25	シルト質砂		灰		100					26 27.25~27.94m ・シルト質砂である。
	-16.54	27.94	シルト質砂		灰		100					27 27.94~29.29m ・礫・シルト質砂である。
	-17.49	29.29	礫質砂		灰		100					28 29.29~30.25m ・礫質砂である。 ・中~粗粒砂が主体である。
	-18.17	30.25	有機質砂		灰		100					30 30.25~31.04m ・有機質砂である。 ・細粒砂~中粒砂が主体である。
	-18.73	31.04	礫混り砂		灰		100					31 31.04~32.00m ・礫混り砂である。
	-19.41	32.00	砂		灰		100					32 32.00~33.95m ・砂である。
	-20.79	33.95	礫質砂		灰		100					33 33.95~35.58mm ・礫質砂である。 ・細~粗粒砂が主体である。
	-21.94	35.58			灰		100					35.58~42.82m ・砂礫である。

記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
26	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
27	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
28	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、中~粗粒砂主体であることを記載。
29	・区間毎の性状を個別に記載しているため、礫質土主体とのまとめ書きについては削除。
30	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、細粒砂~中粒砂主体であることを記載。
31	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
32	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
33	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、細~粗粒砂主体であることを記載。 ・33.95~35.58mmは33.95~35.58mの誤り。 ^{※2}

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

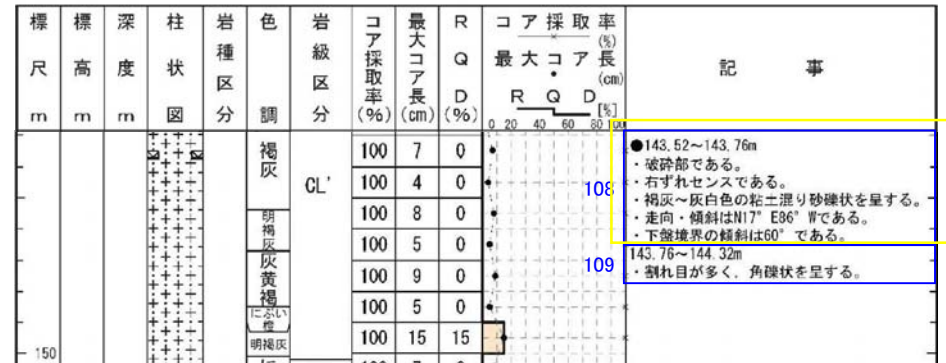
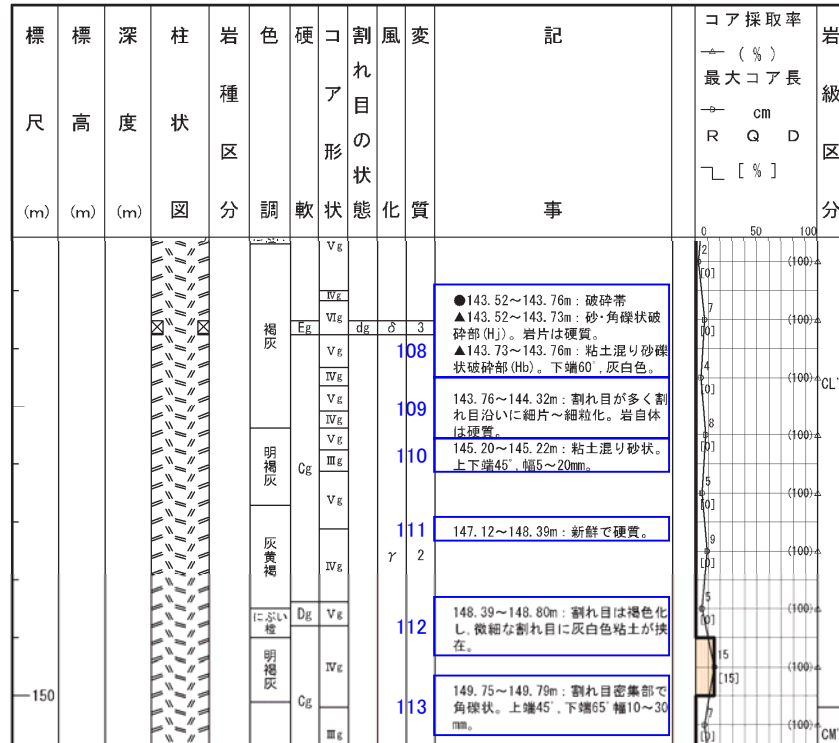
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
108	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 表現の見直し(砂・角礫状及び粘土混じり砂礫状→粘土混じり砂礫状) “色調”欄に基づき褐灰と記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 砂・角礫状部の岩片の硬軟は補足的なものであるため、岩片は硬質との記載については削除。
109	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
110	<ul style="list-style-type: none"> 粘土混じり砂状を呈するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。
111	<ul style="list-style-type: none"> 硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
112	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目に粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。
113	<ul style="list-style-type: none"> 角礫状を呈するが、連続性に乏しいことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

申請書用柱状図



●143.52~143.76m
 ・破砕部である。
 ・右ずれセンスである。
 ・褐灰～灰白色の粘土混り砂礫状を呈する。
 ・走向・傾斜はN17° E86° Wである。
 ・下盤境界の傾斜は60°である。

143.76~144.32m
 ・割れ目が多く、角礫状を呈する。

記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
108	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 表現の見直し(砂・角礫状及び粘土混じり砂礫状→粘土混じり砂礫状) “色調”欄に基づき褐灰と記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 砂・角礫状部の岩片の硬軟は補足的なものであるため、岩片は硬質との記載については削除。
109	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
110	<ul style="list-style-type: none"> 粘土混じり砂状を呈するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。
111	<ul style="list-style-type: none"> 硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
112	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目に粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。
113	<ul style="list-style-type: none"> 角礫状を呈するが、連続性に乏しいことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分
											25.78~38.07m: 玉石混り砂礫主体 (Gs層)		
											25.78~29.53m: 玉石混り砂礫 径10~100cm程度のアブライト、花崗斑岩の垂角~垂円礫を5~60%含む。基質は径2~5mmの細礫を含む不均質な砂。		
											26.94~28.00m: 上下位に比べて礫率が低く、礫は径10~20mm、最大径40mmの垂角~垂円礫が主。基質は細~粗粒砂。		
											29.53~30.29m: シルト混り砂 細~中粒砂が主。部分的に径2~5mの細礫が混る。		
	-13.78	29.53		玉石混り砂礫	灰黄								
	-14.32	30.29		シルト混り砂	にぶい黄橙								

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D	記事
							100						25.00m~25.78m ・砂礫である。
							100					32, 33	25.00~29.53m ・玉石混り砂礫である。 ・径10~100mmのアブライト、花崗斑岩の垂角~垂円礫を含む。
							100						
							100						
							100						
							100					34	29.53~30.29m ・シルト混り砂である。
							100						30.29~38.07m ・玉石混り砂礫である。 ・径10~100mmのアブライト、花崗斑岩の垂角~垂円礫を含む。
							100						
							78						
							72						
							100						35.72~36.70m ・花崗斑岩の礫である。
							100						

記事	報告書作成用柱状図 (H26年9月) ⇒ 申請書用柱状図
31	・区間毎の性状を個別に記載しているため、玉石混り砂礫主体とのまとめ書きについては削除。
32, 33	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく、目立つことから、礫の特徴として、礫径、礫種、円磨度を記載。 ・上端深度25.78m→25.00m ^{*1} ・径の単位cm→mm ^{*3}
34	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 R Q D cm ↳ [%]	岩級区分
											25.78~38.07m: 玉石混り砂礫主体 (Gs g1層)		
											25.78~29.53m: 玉石混り砂礫 径10~100cm程度のアブライト、花崗斑岩の垂角~垂円礫を5~60%含む。基質は径2~5mmの細礫を含む不均質な砂。		
											26.94~28.00m: 上下位に比べて礫率が低く、礫は径10~20mm、最大径40mmの垂角~垂円礫が主。基質は細~粗粒砂。		
											29.53~30.29m: シルト混り砂 細~中粒砂が主。部分的に径2~5mmの細礫が混る。		
	-13.78	29.53		玉石混り砂礫	灰黄								
	-14.32	30.29		シルト混り砂	にぶい黄橙								

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記事
							100						25.00m~25.78m ・砂礫である。
							100					32, 33	25.00~29.53m ・玉石混り砂礫である。 ・径10~100mmのアブライト、花崗斑岩の垂角~垂円礫を含む。
							100						
							100						
							100					34	29.53~30.29m ・シルト混り砂である。
							100						30.29~38.07m ・玉石混り砂礫である。 ・径10~100mmのアブライト、花崗斑岩の垂角~垂円礫を含む。
							100						
							78						
							72						
							100						35.72~36.70m ・花崗斑岩の礫である。
							100						

記事	報告書作成用柱状図 (H26年9月) ⇒ 申請書用柱状図
31	・区間毎の性状を個別に記載しているため、玉石混り砂礫主体とのまとめ書きについては削除。
32, 33	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく、目立つことから、礫の特徴として、礫径、礫種、円磨度を記載。 ・上端深度25.78m→25.00m ^{*1} ・径の単位cm→mm ^{*3}
34	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分
	-0.80	11.12	赤褐色							11.12~12.04m: 礫混り砂シルトの混る不均質な砂を主とし、径2~5mmの細礫が混入。	0		
	-1.18	11.66	灰白							11.66~11.79m: スライム。	50		
	-1.28	11.79	灰							12.04~12.69m: 有機物混り砂。細~中粒砂が主。有機物は20~30°で傾斜。	100		
	-1.45	12.04	灰							12.69~13.09m: 有機物混り砂質シルト。	100		
	-1.91	12.69	暗褐色							シルト~中粒砂からなり、全体に有機物が混入。	100		
	-2.20	13.09	砂礫							13.09~13.86m: シルト混り砂。細粒砂が主。	100		
	-2.74	13.86	砂礫							13.86~16.24m: 砂礫(Csg1層)。礫は径2~40mm、最大径330mmの垂角~垂円礫を50~70%含む。基質はシルトの混る不均質な砂。	100		
	-4.42	16.24	花崗							16.24~60.65m: 花崗斑岩 (Gp)。斑晶は径3~8mmの石英・長石が主で、径2~5mmの黒雲母が混入。石基は優白質。	100		
			花崗							16.24~19.89m: 強風化・変質部である。淡く赤色を帯びた灰白色を呈する。	100		
			花崗							18.68~19.89m: 変質著しく、割れ目、岩組織はほとんど残留しない。	100		
			花崗							19.89~20.29m: 微細な割れ目が0.2~1cm間隔で網目状に発達。幅0~1mmの粘土を伴う。硬質。	100		
			花崗							20.29~20.90m: 風化・変質の影響が弱くなる。	100		

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事
	-0.80	11.12	砂礫		黄褐色		100					8.83~9.54m ・有機物混り砂である。
	-1.45	12.04	砂礫		灰白		87					9.54~11.12m ・砂礫である。 ・径2~50mmの花崗斑岩礫を含む。
	-1.91	12.69	砂礫		灰		100					11.12~12.04m ・礫混り砂である。
	-2.20	13.09	砂礫		灰		100					12.04~12.69m ・有機物混り砂である。 ・細粒~中粒砂が主体である。
	-2.74	13.86	砂礫		灰		100					12.69~13.09m ・有機物混り砂である。 ・細粒~中粒砂が主体である。
			砂礫		灰白	D'	100	0	0			13.09~13.86m ・シルト混り砂である。
			砂礫		明褐色		100	0	0			13.86~16.24m ・砂礫である。
			砂礫		灰白		100	2	0			16.24~60.65m ・花崗斑岩である。
			砂礫		明褐色		100	0	0			16.24~19.89m ・強風化、変質部である。
			砂礫		灰白		100	4	0			

記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
16	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、細粒~中粒砂が主体であることを記載。
17	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
18	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
19	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
20	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間ではないため削除。
21	・色調については、補足的なものであるため削除。
22	・変質の程度については、当該区間の周囲と差異が認められないことから削除。
23	・硬軟や割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部に粘土を挟在するが、系統的でなく連続性や直線性に乏しいことから削除。
24	・変質の程度については、当該区間の周囲と差異が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図

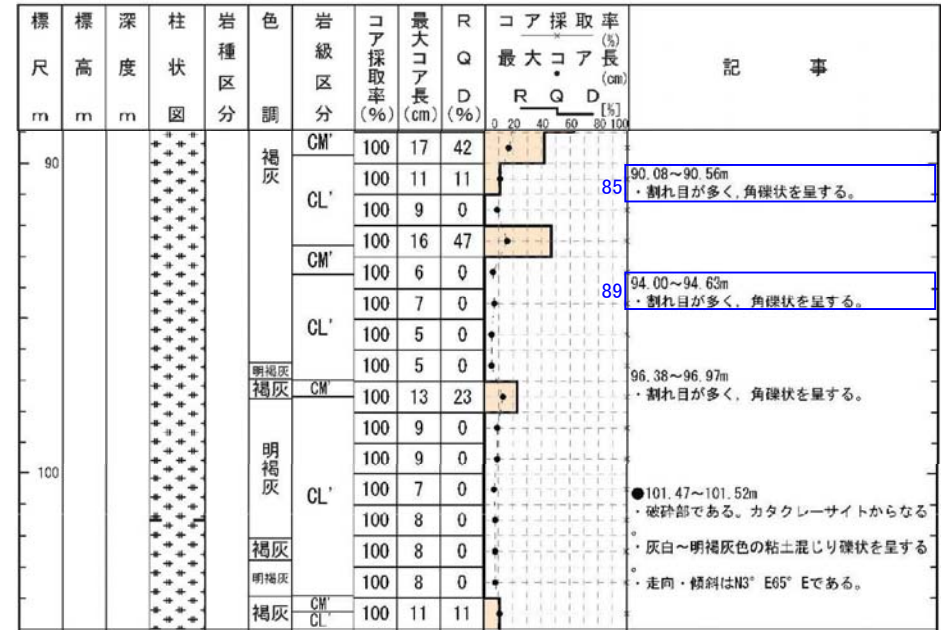
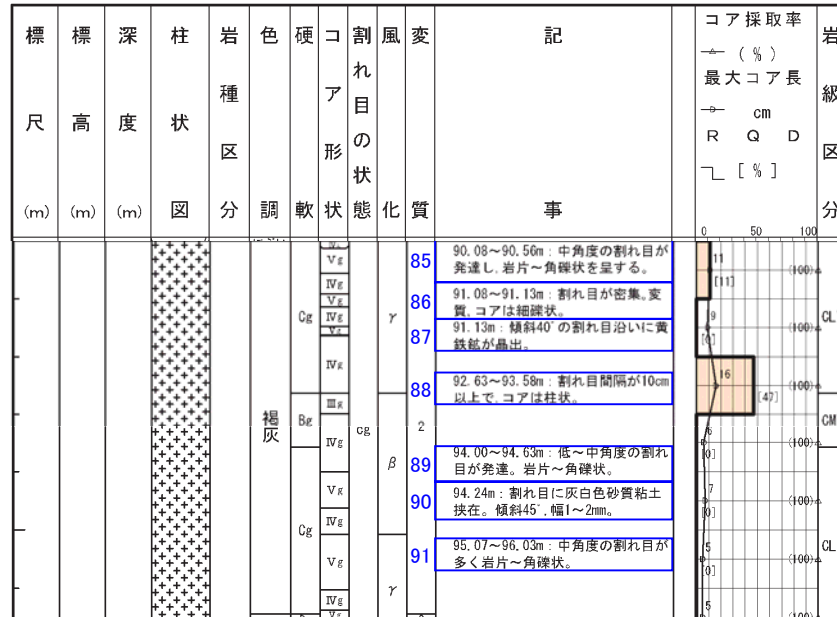
標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分
	-0.80	11.12	赤褐色							11.12~12.04m: 礫混り砂シルトの混る不均質な砂を主とし、径2~5mmの細礫が混入。	0		
	-1.18	11.66	灰白							11.66~11.79m: スライム。	50		
	-1.28	11.79	灰							12.04~12.69m: 有機物混り砂。細~中粒砂が主。有機物は20~30°で傾斜。	100		
	-1.45	12.04	灰							12.69~13.09m: 有機物混り砂質シルト。	100		
	-1.91	12.69	暗褐色							シルト~中粒砂からなり、全体に有機物が混入。	100		
	-2.20	13.09	砂礫							13.09~13.86m: シルト混り砂。細粒砂が主。	100		
	-2.74	13.86	砂礫							13.86~16.24m: 砂礫(Csg1層)。礫は径2~40mm、最大径330mmの垂角~垂円礫を50~70%含む。基質はシルトの混る不均質な砂。	100		
	-4.42	16.24	花崗							16.24~60.65m: 花崗斑岩(Gp)。斑晶は径3~8mmの石英・長石が主で、径2~5mmの黒雲母が混入。石基は優白質。	100		
			花崗							16.24~19.89m: 強風化・変質部である。淡く赤色を帯びた灰白色を呈する。	100		
			花崗							18.68~19.89m: 変質著しく、割れ目、岩組織はほとんど残留しない。	100		
			花崗							19.89~20.29m: 微細な割れ目が0.2~1cm間隔で網目状に発達。幅0~1mmの粘土を伴う。硬質。	100		
			花崗							20.29~20.90m: 風化・変質の影響が弱くなる。	100		

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事
	-0.80	11.12	砂礫		黄褐色		100					8.83~9.54m
	-1.45	12.04	砂礫		黄褐色		87					・有機物混り砂である。
	-1.91	12.69	砂礫		灰白		100					9.54~11.12m
	-2.20	13.09	砂礫		灰白		100					・砂礫である。
	-2.74	13.86	砂礫		灰白		100					・径2~50mmの花崗斑岩礫を含む。
			砂礫		灰白		100					11.12~12.04m
			砂礫		灰白		100					・混り砂である。
			砂礫		灰白		100					12.04~12.69m
			砂礫		灰白		100					16.24~19.89m
			砂礫		灰白		100	0	0			・有機物混り砂である。
			砂礫		灰白		100	0	0			・細粒~中粒砂が主体である。
			砂礫		灰白		100	0	0			13.09~13.86m
			砂礫		灰白		100	0	0			・シルト混り砂である。
			砂礫		灰白		100	2	0			13.86~16.24m
			砂礫		灰白		100	0	0			・砂礫である。
			砂礫		灰白		100	4	0			16.24~60.65m
			砂礫		灰白		100	0	0			・花崗斑岩である。
			砂礫		灰白		100	0	0			16.24~19.89m
			砂礫		灰白		100	0	0			・強風化、変質部である。

記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
16	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、細粒~中粒砂が主体であることを記載。
17	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
18	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
19	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
20	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間ではないため削除。
21	・色調については、補足的なものであるため削除。
22	・変質の程度については、当該区間の周囲と差異が認められないことから削除。
23	・硬軟や割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部に粘土を挟在するが、系統的でなく連続性や直線性に乏しいことから削除。
24	・変質の程度については、当該区間の周囲と差異が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

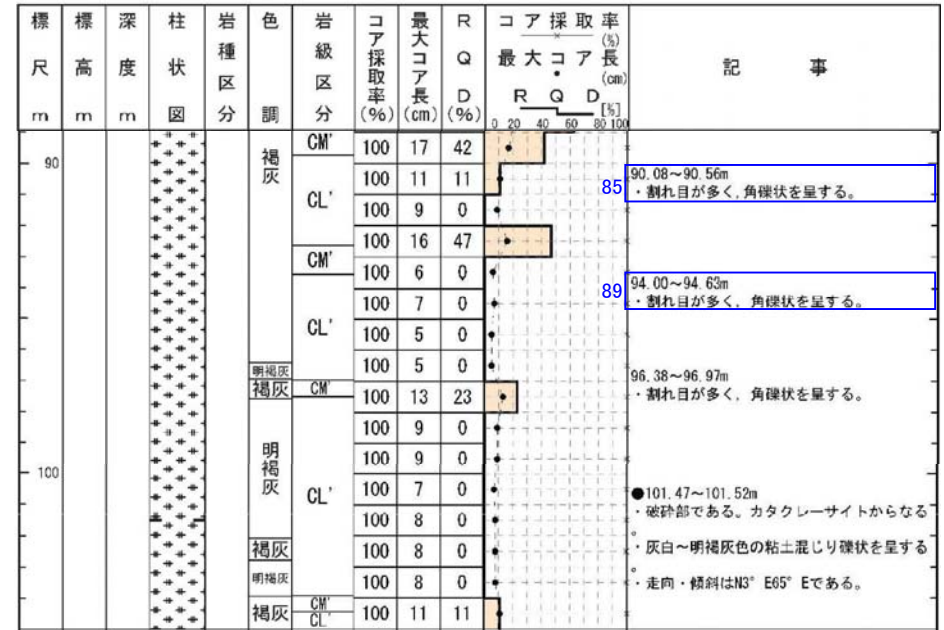
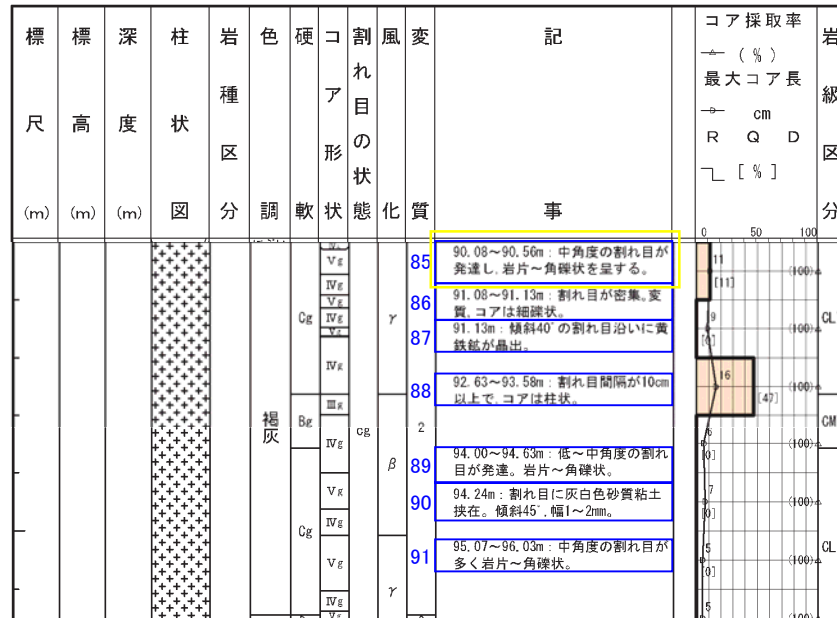
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図 (H26年9月) ⇒ 申請書用柱状図
85	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
86, 87	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
88	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
89	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
90	・砂質粘土を挟在するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。
91	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
85	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
86, 87	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
88	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
89	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
90	・砂質粘土を挟在するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。
91	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	イベント 地層境界	スケッチ	マーカ 火山灰 堆積物 土壌 炭素 朱漆	地質名	色調	堆積構造・特徴等
	8.60				9		8.00~8.60m スライムのため判別不可
	9.50				9		8.60~9.50m ・礫率30~40%でクサリ礫や半クサリ礫を多く含む ・砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂 ・9.25~9.35m付近はスライムのため判別不可 ・9.25~9.35m付近に黒色土(土壌)に挟まれた砂層が認められる黒色土層砂層 共に55°傾斜し全体の幅は10cm(黒色土2cm砂4cm下2cm) ・黒色土層(上下)中に植物片が認められる 礫種GP 礫径2~30mmの垂円礫主体 9.50~10.00m スライムのため判別不可 10.00~10.65m ・礫率70~80%で半クサリ礫を一部含む ・砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・径0.5~1cmの石英が多く含まれる 礫種GP一部AP含む 礫径2~100mmの垂角礫~垂鉛礫主体一部最大径200mmの巨礫あり 10.65~11.05m スライムのため判別不可 11.05~11.85m ・礫率50~60%でクサリ礫~半クサリ礫を含む ・砂は0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・径0.5~1cmの石英が多く含まれる 礫種GP 礫径2~100mmの垂角礫~垂円礫主体 11.85~12.00m スライムのため判別不可
	10.00				10		9.50~10.00m スライムのため判別不可
	10.50				10		10.00~10.65m ・礫率70~80%で半クサリ礫を一部含む ・砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・径0.5~1cmの石英が多く含まれる 礫種GP一部AP含む 礫径2~100mmの垂角礫~垂鉛礫主体一部最大径200mmの巨礫あり
	11.00				10		10.65~11.05m スライムのため判別不可
	11.20				10		11.05~11.85m ・礫率50~60%でクサリ礫~半クサリ礫を含む ・砂は0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・径0.5~1cmの石英が多く含まれる 礫種GP 礫径2~100mmの垂角礫~垂円礫主体 11.85~12.00m スライムのため判別不可

スケッチ: 礫はクサリ● 半クサリ○ 硬質○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アブライトAp 等
境界 明瞭—— 不明瞭--- 亀裂は赤線、角度、赤線等

記事内容
9 8.00~8.60m スライムのため判別不可
8.60~9.50m ・礫率30~40%でクサリ礫や半クサリ礫を多く含む ・砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂 ・8.75~8.85m付近はスライムのため判別不可 ・9.25~9.35m付近に黒色土(土壌)に挟まれた砂層が認められる黒色土層砂層 共に55°傾斜し全体の幅は10cm(黒色土2cm砂4cm下2cm) ・黒色土層(上下)中に植物片が認められる 礫種GP 礫径2~30mmの垂円礫主体 9.50~10.00m スライムのため判別不可 10.00~10.65m ・礫率70~80%で半クサリ礫を一部含む ・砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・径0.5~1cmの石英が多く含まれる 礫種GP一部AP含む 礫径2~100mmの垂角礫~垂鉛礫主体一部最大径200mmの巨礫あり 10.65~11.05m スライムのため判別不可 11.05~11.85m ・礫率50~60%でクサリ礫~半クサリ礫を含む ・砂は0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・径0.5~1cmの石英が多く含まれる 礫種GP 礫径2~100mmの垂角礫~垂円礫主体 11.85~12.00m スライムのため判別不可
10 10.00~10.65m ・礫率70~80%で半クサリ礫を一部含む ・砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・径0.5~1cmの石英が多く含まれる 礫種GP一部AP含む 礫径2~100mmの垂角礫~垂鉛礫主体一部最大径200mmの巨礫あり

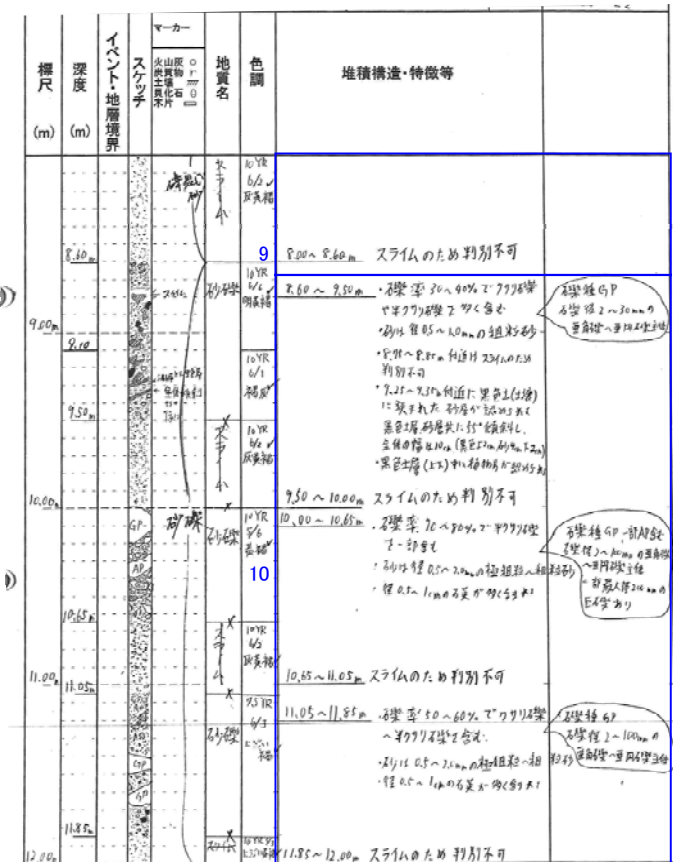
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取 率 (%) 最大コア 長 (cm)	記事
10	11.15	8.60		砂礫			100	100	100	100	8.00~7.15m ・最大径200mmの礫を含む。 ・粒径じり砂である。 7.15~7.30m ・有機質土である。 ・分級途中の有機物を多く含む。 7.30~8.60m ・粒径じり砂である。 8.60~12.15m ・砂礫である。 ・一部有機質土の薄層を挟む。 12.10~12.45m ・砂である。 ・少量のくさり礫を含む。
	11.20	9.50		砂礫			100	100	100	100	8.9
	11.25	10.00		砂礫			100	100	100	100	10, 11
	11.30	10.65		砂礫			100	100	100	100	
	11.35	11.05		砂礫			100	100	100	100	
	11.40	11.85		砂礫			100	100	100	100	
	11.45	12.00		砂礫			100	100	100	100	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
9	・堆積物の記載は、盛土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。
10, 11	・堆積物の記載は、盛土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・区間内で特異な色調を示し、目立つことから、有機質土の薄層について記載。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ○ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アブライトAp 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線、角度、糸線等

記事内容	
9	8.00~8.60m スライムのため判別不可 8.60~9.50m ・礫率30~40%でクサリ礫や半クサリ礫を多く含む ・砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂 ・8.75~8.85m付近はスライムのため判別不可 ・9.25~9.35m付近に黒色土(土壌)に挟まれた砂層が認められる黒色土層砂層共に5°傾斜し全体の幅は10cm(黒色土2cm砂4cm下2cm) ・黒色土層(上下)中に植物片が認められる 礫種GP 礫径2~30mmの垂角礫~垂円礫主体 9.50~10.00m スライムのため判別不可 10.00~10.65m ・礫率70~80%で半クサリ礫を一部含む ・砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・径0.5~1cmの石英が多く含まれる 礫種GP一部AP含む 礫径2~100mmの垂角礫~垂円礫主体一部最大径200mmの巨礫あり 10.65~11.05m スライムのため判別不可 11.05~11.85m ・礫率50~60%でクサリ礫~半クサリ礫を含む ・砂は0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・径0.5~1cmの石英が多く含まれる 礫種GP 礫径2~100mmの垂角礫~垂円礫主体 11.85~12.00m スライムのため判別不可
10, 11	8.00~8.60m スライムのため判別不可 8.60~9.50m ・礫率30~40%でクサリ礫や半クサリ礫を多く含む ・砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂 ・8.75~8.85m付近はスライムのため判別不可 ・9.25~9.35m付近に黒色土(土壌)に挟まれた砂層が認められる黒色土層砂層共に5°傾斜し全体の幅は10cm(黒色土2cm砂4cm下2cm) ・黒色土層(上下)中に植物片が認められる 礫種GP 礫径2~30mmの垂角礫~垂円礫主体 9.50~10.00m スライムのため判別不可 10.00~10.65m ・礫率70~80%で半クサリ礫を一部含む ・砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・径0.5~1cmの石英が多く含まれる 礫種GP一部AP含む 礫径2~100mmの垂角礫~垂円礫主体一部最大径200mmの巨礫あり 10.65~11.05m スライムのため判別不可 11.05~11.85m ・礫率50~60%でクサリ礫~半クサリ礫を含む ・砂は0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・径0.5~1cmの石英が多く含まれる 礫種GP 礫径2~100mmの垂角礫~垂円礫主体 11.85~12.00m スライムのため判別不可

標尺	標高	深	柱	岩	色	岩	コ	最	R	コ	採	率	最	大	コ	長	事
m	m	m	図	分	調	分	取	大	Q	取	取	(%)	長	長	(%)	長	記
							(%)	(cm)	(%)				R	Q	D	(%)	事
	11.15	8.00					100										最大径200mmの礫を含む。 6.80~7.15m 7.15~7.30m ・有機質土である。 ・分級途中の有機物を多く含む。 7.30~8.60m 8.60~9.25m ・砂層である。 ・一部有機質土の薄層を含む。 12.10~12.45m ・砂である。 ・少量のくさり礫を含む。
	11.05	9.50					100										8, 9
	10.65	10.00					100	1	0								10, 11
	11.85	11.85					100	1	0								

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
9	・堆積物の記載は、盛土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。
10, 11	・堆積物の記載は、盛土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・区間内で特異な色調を示し、目立つことから、有機質土の薄層について記載。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

層番号	深度	層名	地質	色	傾斜	細区分		備考
						細区分	細区分	
64	44.24	破砕帯						
65	44.24~44.31	Hb						
66	44.31~44.68	Hj						
67	44.68~44.83	Hb						
68	44.83~44.96	Hj						

基盤岩コア観察カード	
記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
64	●44.24~44.53:破砕帯(主せん断面44.31m) 44.24~44.31m:Hb 上端、幅1m/灰赤色軟質粘土で5~13°で湾曲して、下端35°で少し湾曲して連続。φ2~3m/m石英粒、φ5~10m/m(最大25m/m)Gp岩片を30%程度含む半固結状の「礫質粘土」、色調は灰黄(2.5Y7/2)、厚さ45~65m/m。
65	44.31m:Hc-1 上下端とも35°で直線的に連続、φ1m/mの石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質な粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR4/2)、厚さ1~2m/m
66	44.31~44.53m:Hj 上端35°で直線的に、下端70°で波打って連続。φ5m/m前後の粘土化したGp岩片と岩片間は白色軟質の脈状~網状粘土脈からなる粘土混じり岩片状からなる。色調は灰褐(7.5YR6/2)~淡黄(2.5Y8/3)、厚さ140~200m/m
67	●44.53~44.83m:破砕帯(主せん断面44.66m) 44.53~44.66m:Hj 上端70°で波打って、下端65°で直線的に連続。φ5~10m/m粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなり粘土混じり岩片状を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/4)~灰白色(2.5Y8/2)、厚さ55m/m。
68	44.66~44.68m:Hc-1 55°で上端直線的、下端は一部で波打って連続。φ1m/m石英粒ごく少量(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)、上下端側に主せん断面と同方向に幅1~2m/m、長さ5~10m/mの脈状のマンガニ染染部を伴う。色調は灰黄褐色(10YR4/2)、厚さ4~5m/m
69	44.68~44.70m:Hb 上端65°で一部波打って、下端50~70°で湾曲して連続。φ2m/m石英粒φ3~5m/m粘土化岩片を計20~30%含む半固結状の礫質粘土状を呈する。色調は明赤灰(2.5Y7/2)~灰白色(5YR8/1)、厚さ10~20m/m
70	44.70~44.83m:Hj 上端50~70°、下端75~85°でいずれも湾曲して連続。下端は幅1m/m以下の灰黄褐色(10YR4/2)軟質粘土脈。φ5~10m/m粘土化岩片と岩片間の脈状~網状白色~浅黄色軟質粘土脈からなり、全体として、粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐(7.5YR6/2)~淡黄色(2.5Y8/3)、厚さ20~50m/m。岩片間の基質部には黒褐色のマンガニ染染部が点在する。

記事内容	
64	●44.24~44.53:破砕帯(主せん断面44.31m) 44.24~44.31m:Hb 上端、幅1m/灰赤色軟質粘土で5~13°で湾曲して、下端35°で少し湾曲して連続。φ2~3m/m石英粒、φ5~10m/m(最大25m/m)Gp岩片を30%程度含む半固結状の「礫質粘土」、色調は灰黄(2.5Y7/2)、厚さ45~65m/m。
65	44.31m:Hc-1 上下端とも35°で直線的に連続、φ1m/mの石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質な粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR4/2)、厚さ1~2m/m
66	44.31~44.53m:Hj 上端35°で直線的に、下端70°で波打って連続。φ5m/m前後の粘土化したGp岩片と岩片間は白色軟質の脈状~網状粘土脈からなる粘土混じり岩片状からなる。色調は灰褐(7.5YR6/2)~淡黄(2.5Y8/3)、厚さ140~200m/m
67	●44.53~44.83m:破砕帯(主せん断面44.66m) 44.53~44.66m:Hj 上端70°で波打って、下端65°で直線的に連続。φ5~10m/m粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなり粘土混じり岩片状を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/4)~灰白色(2.5Y8/2)、厚さ55m/m。
68	44.66~44.68m:Hc-1 55°で上端直線的、下端は一部で波打って連続。φ1m/m石英粒ごく少量(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)、上下端側に主せん断面と同方向に幅1~2m/m、長さ5~10m/mの脈状のマンガニ染染部を伴う。色調は灰黄褐色(10YR4/2)、厚さ4~5m/m
69	44.68~44.70m:Hb 上端65°で一部波打って、下端50~70°で湾曲して連続。φ2m/m石英粒φ3~5m/m粘土化岩片を計20~30%含む半固結状の礫質粘土状を呈する。色調は明赤灰(2.5Y7/2)~灰白色(5YR8/1)、厚さ10~20m/m
70	44.70~44.83m:Hj 上端50~70°、下端75~85°でいずれも湾曲して連続。下端は幅1m/m以下の灰黄褐色(10YR4/2)軟質粘土脈。φ5~10m/m粘土化岩片と岩片間の脈状~網状白色~浅黄色軟質粘土脈からなり、全体として、粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐(7.5YR6/2)~淡黄色(2.5Y8/3)、厚さ20~50m/m。岩片間の基質部には黒褐色のマンガニ染染部が点在する。

層番号	深度	層名	色	傾斜	最大コア長	R	Q	D	最大コア長	記事
64	44.24	破砕帯			100	8	0		40.32~42.7m ・砂礫状を呈する。 42.74~42.26m ・変質し、淡黄色粘土化している。	
65	44.24~44.31	Hb			100	2	0		●42.41~42.49m ・破砕部である。 ・右ずれ断面センスである。	
66	44.31~44.68	Hj			100	1	0		・にぶい黄褐色の硬質粘土~灰白色の硬質粘土状~にぶい黄褐色の粘土混じり層状を呈する。	
67	44.53	破砕帯			100	2	0		・にぶい黄褐色硬質粘土 累計厚15mm ・走向・傾斜はN65°Eである。 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は15°である。	
68	44.66	Hc-1			100	1	0		●44.24~44.53m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる	
69	44.68	Hb			100	4	0		・灰黄褐色の粘土状~灰黄~灰褐~淡黄色の粘土混じり層状を呈する。	
70	44.70	Hj			100	5	0		・灰黄褐色粘土 累計厚2m ・走向・傾斜はN65°Eである。 ・上盤境界の傾斜は55°~13°、下盤境界の傾斜は70°である。	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
64~66	<ul style="list-style-type: none"> ・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなること記載。 ・表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
67~70	<ul style="list-style-type: none"> ・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなること記載。 ・表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率、マンガニについては、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

Table with columns for core observation data including depth (m), diameter (cm), and lithological descriptions. Includes a title '基盤岩コア観察カード'.

Table with columns for article content (記事内容) and core observation data. Includes detailed descriptions for sections 64, 65, 66, 67, 68, 69, and 70.

Table for application form columnar diagram (申請書用柱状図) with columns for scale, depth, lithology, color, and core data. Includes a '記事' (Notes) column with detailed annotations.

Table with columns for core observation data, including a section for depth 69.

Table with columns for '記事' (Notes) and 'コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図'. Contains detailed notes for sections 64~66 and 67~70.

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地層・地質 位置	地層 名称	細区分		RQD	岩質	色	構造	備考	観察者	観察日	観察時間	観察場所	観察深度	観察内容			
				岩級区分	岩種区分														
																	71	44.83~45.36m: D	
																		72	●45.36~45.39m: 破碎帯(主せん断面45.39m)
																		73	45.36~45.39: Hj 上端や不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。φ5m前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)、厚さ5~10m/m。 45.39m: Hc-2 上下端とも65°で直線的に連続。一部で厚さ1m/mの2本のガウジに分枝~取れんする。φ1~2m/m石英粒5~10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR6/2)、厚さ2m/m
																		74	45.39~46.12m: D 幅1m前後の軟質な白色粘土脈が多い。

記事内容	
71	44.83~45.36m: D
72	●45.36~45.39m: 破碎帯(主せん断面45.39m)
73	45.36~45.39: Hj 上端や不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。φ5m前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)、厚さ5~10m/m。 45.39m: Hc-2 上下端とも65°で直線的に連続。一部で厚さ1m/mの2本のガウジに分枝~取れんする。φ1~2m/m石英粒5~10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR6/2)、厚さ2m/m
74	45.39~46.12m: D 幅1m前後の軟質な白色粘土脈が多い。

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア	最大	R	コア	最大	記事
m	m	図	区分	調	区分	採取率	コア長	Q	採取率	コア長	
						(%)	(cm)	D	(%)	(cm)	
50					D'	100	4	0			●44.74~44.53m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる
					CL'	100	6	0			・灰褐色の粘土状~灰黄~灰褐色~淡黄色の粘土混じり礫状を呈する。
					D'	100	5	0			・灰褐色粘土。累計厚2m
					D'	100	2	0			・走向・傾斜はN41°E69°である。
					D'	100	4	0			・傾斜は35°である。
					D'	100	3	0			・上盤境界の傾斜は5°~13°。下盤境界の傾斜は70°である。
					CL'	100	7	0			●44.53~44.53m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる
					D'	100	5	0			・灰褐色の粘土状~明赤灰~灰白色の硬質粘土状~にぶい橙~灰白~淡黄色の粘土混じり礫状を呈する。
					CL'	100	6	0			・灰褐色粘土。累計厚5m
					D'	100	5	0			・走向・傾斜はN56°Eである。
					D'	100	2	0			・傾斜は65°である。
					CL'	100	8	0			・上盤境界の傾斜は70°。下盤境界の傾斜は70°~85°である。
60					D'	100	13	13			●45.36~45.39m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる
					CM'	100	10	10			・灰褐色の砂質粘土状~にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈する。
					D'	100	10	10			・灰褐色砂質粘土。2m
					D'	100	16	16			・走向・傾斜はN43°E70°である。
					CM'	100	10	10			・傾斜は65°である。
					CL'	100	9	9			・上盤境界の傾斜は52°。下盤境界の傾斜は65°である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
71	・岩級とその区間については「岩級区分」欄に示しているため削除。
72, 73	<ul style="list-style-type: none"> ・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) ・φ1~2mmの石英粒5~10%含むとの記載があるが、より径の小さい砂粒子も含むため、砂質粘土状と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破碎部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破碎度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
74	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、「岩級区分」欄で示していることから削除。 ・粘土脈については、いずれも直線性や連続性に乏しいことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地層・地層位置	地質	細区分										観察深度 (m)	観察内容	
				粘土質砂	砂質粘土	シルト質粘土	シルト	シルト質砂	砂	粗砂	中砂	細砂	軽石			角礫
4.6	45.36														71	44.83~45.36m: D
															72	●45.36~45.39m: 破砕帯(主せん断面45.39m)
															73	45.36~45.39m: Hj
															74	45.39~46.12m: D

記事内容
71 44.83~45.36m: D
72 ●45.36~45.39m: 破砕帯(主せん断面45.39m)
73 45.36~45.39m: Hj 上端や不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。φ5m前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)、厚さ5~10m/m。 45.39m: Hc-2 上下端とも65°で直線的に連続。一部で厚さ1m/mの2本のガウジに分枝~取れんする。φ1~2m/m石英粒5~10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR6/2)、厚さ2m/m
74 45.39~46.12m: D 幅1m前後の軟質な白色粘土脈が多い。

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	コア採取率	最大コア長	記事
m	m	図	区分	調	区分	(%)	(cm)	D (%)	R (%)	最大コア長 (cm)	記事	
50					D'	100	4	0				●44.24~44.53m 破砕部である。カタクレーサイトからなる
					CL'	100	6	0				灰褐色の粘土状~灰黄~灰褐~淡黄色の粘土混じり礫状を呈する。
					D'	100	5	0				灰褐色粘土。累計厚2m 走向・傾斜はN43°E70°である。 傾斜は65°である。
					D'	100	4	0				上盤境界の傾斜は5°~13°。下盤境界の傾斜は70°である。
					CL'	100	3	0				●44.53~44.53m 破砕部である。カタクレーサイトからなる
						100	5	0				灰褐色の粘土状~明赤灰~灰白色の硬質粘土状~にぶい橙~灰白~淡黄色の粘土混じり礫状を呈する。
					CL'	100	6	0				灰褐色粘土。累計厚5m 走向・傾斜はN56°Eである。 傾斜は65°である。
					D'	100	2	0				上盤境界の傾斜は70°。下盤境界の傾斜は70°~85°である。
					CL'	100	8	0				●45.36~45.39m 破砕部である。カタクレーサイトからなる
						100	13	13				灰褐色の砂質粘土状~にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈する。
					CM'	100	10	10				灰褐色砂質粘土。2m 走向・傾斜はN43°E70°である。 傾斜は65°である。
						100	10	10				上盤境界の傾斜は52°。下盤境界の傾斜は65°である。
					CM'	100	16	16				
					CL'	100	10	10				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
71	・岩級とその区間については「岩級区分」欄に示しているため削除。
72, 73	<ul style="list-style-type: none"> ・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) ・φ1~2mmの石英粒5~10%含むとの記載があるが、より径の小さい砂粒子も含むため、砂質粘土状と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
74	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、「岩級区分」欄で示していることから削除。 ・粘土脈については、いずれも直線性や連続性に乏しいことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

層 尺 (m)	深 度 (m)	層 位 階 級	地 質 記 号	地 質 記 号	細区分				RQD	最大コア長	岩 級 区 分	記事
					基盤岩	砂岩	泥岩	頁岩				
05	78.87										129	
06	79.02										130	
07	79.27										131	
08	79.69										132	
09	79.96										133	
10	80.23										134	
11	80.30										135	
12	80.66										136	
13	81.17										137	
14	81.82											
15	82.51											
16	82.62											
17	82.94											
18	84.09											
19	84.92											
20	85.38											

記事内容
78.87～82.51m: CL 78.87～79.27m 硬さ「D」主体。長石の白濁化が多い。 79.02m 55° 厚さ3m/m褐色砂～φ2m/m細片化岩片はさむ 79.27～80.66m 硬さ「C」主体 上端側の79.27～79.59mは硬さ「B」を堅硬 79.69～79.95mは褐色化するが珪化のため硬さ「C」と硬質 79.96～80.23m 45° 前後の割れ目が多い。 これらの割れ目には褐色粘土やマンガン厚さ0.5～3 m/m ではさんでいる。
80.30～80.40m 割れ目ぞいに砂状化が進む。 80.30～80.35mはコアチューブ引き上げ時に発生した角礫状コア 80.66～81.87m 硬さ「D」中に硬さ「c」のφ2～3cm岩片が断片的に分布 80° 前後の高角度割れ目が多い。
81.17m 55° 割れ目に厚さ10～15m/m で砂と褐色粘土はさむ。 挟在物中と割れ目周辺にφ0.5 m/m 以下の微細な黄鉄鉱伴う。
81.82～81.87m間は風化で締った砂礫状呈する。
81.87～82.51m 割れ目ぞいに砂状化する部分も含まれる。
82.51～82.62m: D 風化で砂状化する。φ0.5～1cmのGp岩片が礫状に分布する
82.62～82.94: CL 割れ目沿いに砂状化進む。一部で幅1～2m/m白色粘土脈はさむ
82.94～84.09: CM ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる 割れ目の挟雑物は少ない。 83.30～83.47m 長石の一部が白濁化する。
84.07～84.09m 上端45°、下端65° 割れ目で囲まれ、砂状化～細片状化する。 厚さ1～10m/mで厚さ3 m/mレンズ状の淡黄色軟質粘土とマンガン鉱染伴う。
84.09～84.92m: CH 60～80° の高角度の「ゆ着割れ目」を伴うが、密着度は高くハンマーの打撃でも分離しない。
84.50m 36° 割れ目の一部に厚さ2～3m/mのマンガンを伴う。 84.82～84.92m 割れ目交差部で一部片状コア、岩片自身は堅硬で劣化や挟在物は伴わない。 84.92～85.38m: CL

層 尺 (m)	深 度 (m)	層 位 階 級	地 質 記 号	地 質 記 号	細 区 分	RQD	最大 コア 長 (cm)	岩 級 区 分	記事
05	78.87								129
06	79.02								130
07	79.27								131
08	79.69								132
09	79.96								133
10	80.23								134
11	80.30								135
12	80.66								136
13	81.17								137
14	81.82								
15	82.51								
16	82.62								
17	82.94								
18	84.09								
19	84.92								
20	85.38								

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
129, 130	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、「岩級区分」欄に示しているため削除。 長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 一部割れ目に砂や粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 変色、割れ目の傾斜、マンガン、割れ目沿いの鉱物晶出については、補足的なものであるため削除。 80.30～80.40mで割れ目沿いに砂状化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
131～137	<ul style="list-style-type: none"> 記載漏れのため比較対象無し。※2

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

層 尺 (m)	深 度 (m)	層 位 階 級	岩 種	色	岩 質	細区分		RQD	最大コア長	岩級区分	記事
						基盤岩	砕岩				
0.00	0.00										
0.00	0.00										129
0.00	0.00										130
0.00	0.00										131
0.00	0.00										132
0.00	0.00										133
0.00	0.00										134
0.00	0.00										135
0.00	0.00										136
0.00	0.00										137

記事内容
78.87~82.51m: CL 78.87~79.27m 硬さ「D」主体。長石の白濁化が多い。 79.02m 55° 厚さ3m/m褐色砂~φ2m/m細片化岩片はさむ 79.27~80.66m 硬さ「C」主体 上端側の79.27~79.59mは硬さ「B」を堅硬 79.69~79.95mは褐色化するが珪化のため硬さ「C」と硬質 79.96~80.23m 45° 前後の割れ目が多い。 これらの割れ目には褐色粘土やマンガン厚さ0.5~3 m/m ではさんでいる。
80.30~80.40m 割れ目ぞいに砂状化が進む。 80.30~80.35mはコアチューブ引き上げ時に発生した角礫状コア 80.66~81.87m 硬さ「D」中に硬さ「c」のφ2~3cm岩片が断片的に分布 80° 前後の高角度割れ目が多い。
81.17m 55° 割れ目に厚さ10~15m/m で砂と褐色粘土はさむ。 挟在物中と割れ目周辺にφ0.5 m/m 以下の微細な黄鉄鉱伴う。
81.82~81.87m間は風化で締った砂礫状呈する。
81.87~82.51m 割れ目ぞいに砂状化する部分も含まれる。
82.51~82.62m: D 風化で砂状化する。φ0.5~1cmのGp岩片が礫状に分布する
82.62~82.94: CL 割れ目沿いに砂状化進む。一部で幅1~2m/m白色粘土脈はさむ
82.94~84.09: CM ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる 割れ目の挟雑物は少ない。 83.30~83.47m 長石の一部が白濁化する。
84.07~84.09m 上端45° , 下端65° 割れ目で囲まれ、砂状化~細片状化する。 厚さ1~10m/mで厚さ3 m/mレンズ状の淡黄色軟質粘土とマンガン鉱染伴う。
84.09~84.92m: CH 60~80° の高角度の「ゆ着割れ目」を伴うが、密着度は高くハンマーの打撃でも分離しない。
84.50m 36° 割れ目の一部に厚さ2~3m/mのマンガンを伴う。 84.82~84.92m 割れ目交差部で一部片状コア、岩片自身は堅硬で劣化や挟在物は伴わない。
84.92~85.38m: CL

層尺	深度	層位階級	岩種	色	岩質	細区分	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	記事
m	m													

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
129, 130	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、「岩級区分」欄に示しているため削除。 長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 一部割れ目に砂や粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 変色、割れ目の傾斜、マンガン、割れ目沿いの鉱物晶出については、補足的なものであるため削除。 80.30~80.40mで割れ目沿いに砂状化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
131~137	<ul style="list-style-type: none"> 記載漏れのため比較対象無し。※2

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 φ (m)	深度 (m)	境界 位置 層位	地 中 心 位置	地 質 記 号	相区分				崩れ 状態	風 化 深 度	R Q D	最大 コア 長 (cm)	採取 率 (%)	記事
					崩れ 状態	崩れ 状態	崩れ 状態	崩れ 状態						
91.16	91.16			Gp									147	91.16m 91.20m、低角と高角割れ目が交差し、径10m/m前後の細岩片状に砕けている。下端にマンガン鉱染伴う。
92.32	92.32			Gp									148	92.32m 53° 割れ目ぞいにφ0.5m/m前後の雲母(セリサイト?)が晶出している。
93.53	93.53			Gp									149	93.53~94.00m: D 割れ目ぞいに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。
94.00	94.00			Gp									150	94.00~95.85m: CL
94.07	94.07			Gp									151	94.07~94.88m 上下端65°で貫入するアプライト 上下端とも割れ目化し、破碎や変質粘土は伴わない。貫入面(65°)に60°斜交~直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。φ1~2m/mのカンラン石斑晶が多く、一部で流理構造(65~60°)をもつ。直上と直下のGpに破碎や変質は与えていない。

記事内容
91.16~91.25m 低角と高角割れ目が交差し、径10m/m前後の細岩片状に砕けている。下端にマンガン鉱染伴う。
92.32m 53° 割れ目ぞいにφ0.5m/m前後の雲母(セリサイト?)が晶出している。
93.53~94.00m: D 割れ目ぞいに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。
94.00~95.85m: CL
94.07~94.88m 上下端65°で貫入するアプライト 上下端とも割れ目化し、破碎や変質粘土は伴わない。貫入面(65°)に60°斜交~直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。φ1~2m/mのカンラン石斑晶が多く、一部で流理構造(65~60°)をもつ。直上と直下のGpに破碎や変質は与えていない。

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	コア採取率	最大コア長	記事
m	m	m	図	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(cm)	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
147~151	・記載漏れのため比較対象無し。※2

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

層 号	層 厚 (m)	地 質 記 号	地 質 説 明	細区分										基 盤 岩 コ ア 観 察 カ ー ド 記 事 ・ 破 碎 性 状 ・ 特 徴 ス ケ ッチ 等		
				割れ目 の 方 向	割れ目 の 径	割れ目 の 深さ	割れ目 の 形状	割れ目 の 長さ	割れ目 の 幅	割れ目 の 間隔	割れ目 の 密度	割れ目 の 分布	割れ目 の 特徴		割れ目 の 備考	
91	0.00														147	91.16~91.25m 低角と高角割れ目が交差し、径10m/m前後の細岩片状に砕けている。 下端にマンガン鉱染伴う。
92	0.00														148	92.32m 53° 割れ目ぞいにφ0.5m/m前後の雲母(セリサイト?)が晶出している。
93	0.00														149	93.53~94.00m: D 割れ目ぞいに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。
94	0.00														150	94.00~95.85m: CL
95	0.00														151	94.07~94.88m 上下端65° で貫入するアプライト 上下端とも割れ目化し、破碎や変質粘土は伴わない。 貫入面(65°)に60° 斜交~直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。φ1~2m/mのカンラン石斑晶が多く、一部で流理構造(65~60°)をもつ。 直上と直下のGpに破碎や変質は与えていない。

記事内容
91.16~91.25m 低角と高角割れ目が交差し、径10m/m前後の細岩片状に砕けている。 下端にマンガン鉱染伴う。
92.32m 53° 割れ目ぞいにφ0.5m/m前後の雲母(セリサイト?)が晶出している。
93.53~94.00m: D 割れ目ぞいに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。
94.00~95.85m: CL
94.07~94.88m 上下端65° で貫入するアプライト 上下端とも割れ目化し、破碎や変質粘土は伴わない。 貫入面(65°)に60° 斜交~直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。φ1~2m/mのカンラン石斑晶が多く、一部で流理構造(65~60°)をもつ。 直上と直下のGpに破碎や変質は与えていない。

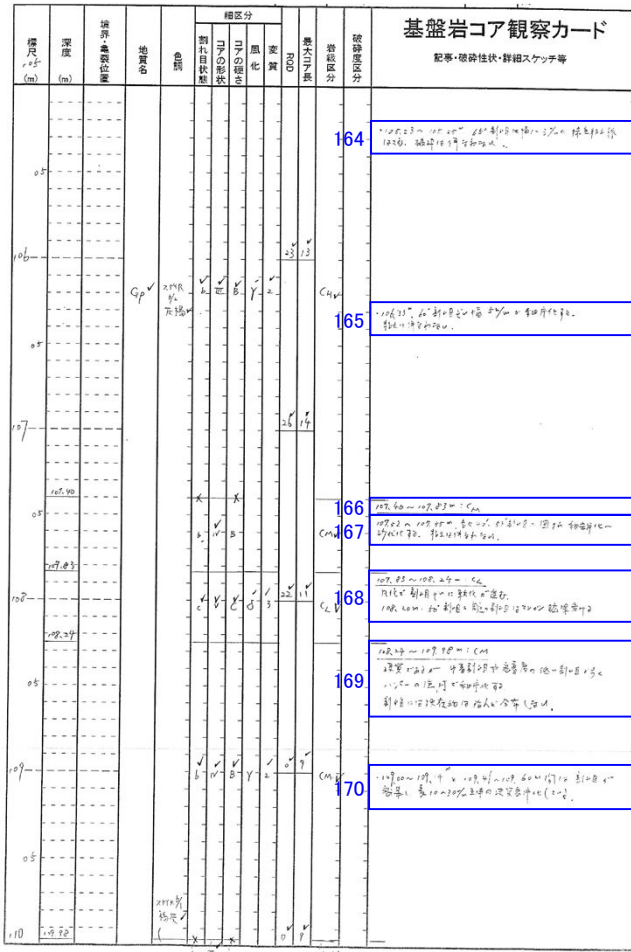
標 尺	標 高	深 度	柱 状	岩 種	色	岩 級	コ ア 採 取 率	最 大 コ ア 長	R	Q	D	コ ア 採 取 率	最 大 コ ア 長	記 事
m	m	m	図	分	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(cm)	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
147~151	・記載漏れのため比較対象無し。※2

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
164 105.23~105.25m 65° 割れ目は幅1~3m/mの緑色粘土脈はさむ。破碎は伴わない。
165 106.33m 60° 割れ目ぞい幅5m/mが細片化する。粘土は伴わない。
166 107.40~107.83m: CM
167 107.52~107.55m 各々40°、53° 割れ目に囲まれ細岩片化~砂状化する。粘土は伴わない。
168 107.83~108.24m: CL 風化で割れ目ぞいに軟化が進む。 108.20m 50° 割れ目と周辺の割れ目はマンガン鉱染を受ける。
169 108.24~109.98m: CM 硬質であるがゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が多くハンマーの強打で細片化する。 割れ目には挟在物は殆んど分布しない。
170 109.00~109.14mと109.41~109.60m間は割れ目が密集し、長10~30m/m主体の硬質岩片化している。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	

記事	コア観察カード (H27年8月) ⇒ 申請書用柱状図
164~170	・記載漏れのため比較対象無し。※2

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

層位 深さ (m)	層名	色	細区分				備考	記事番号
			割れ目の 性状	割れ目の 長さ	風化	実質		
109.98	SPR	灰褐色	B	3			171	
110.43	CL						172	
110.74	CM						173	
111.13							174	
111.37							175	
111.51							176	
111.56							177	
111.60							178	
111.75							179	
111.83							180	

記事内容
171 109.98~110.43m:CH ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を含まない棒状コアからなる。
172 110.43~110.74m:CL 岩片は硬いが、割れ目の一部で砂状化する。
173 110.74~112.83m:CM 30~60°とこれに直交~斜交する50~70°割れ目が主体 割れ目交差部の一部では岩状化するが劣化は伴わない。 112.04m以浅は堅硬で割れ目挟在物は殆んど分布しない。
174 111.13~111.37mは暗緑色化、111.37~11.54mはにぶい橙色を割れ目方向と調和的に50~60°で示す。 前者は緑泥石化が進んだ区間、後者はカリ長石が多く晶出する区間である。 両色調境界部はよく密着し、破碎や変質は伴わない。 112.04m以深は硬さ「C」主体で、一部の割れ目ぞいは風化で薄く砂状化する。 粘土化や粘土脈は分布しない。全体にマンガン鉱染を軽微に受け、割れ目の面ぞいは薄く黒褐色化する。 112.83~113.51m:CL 割れ目ぞいに砂状化が進むことが多い 113.03~113.31m 消滅したり、消滅しかかっている割れ目も分布する。 113.10~113.13m コアチューブ引上げ時に乱され、礫状コア化している。
175 ●113.51~113.60m:破碎帯(主せん断面113.56m)
176 113.51~113.56m:Hj 上端55°で、下端66°でいずれも波打って連続。φ5~10m/m硬さDの岩片で、岩片間は薄く粘土化~砂状化し、「粘土混じり岩片状」呈する。 色調は灰褐色(7.5YR6/2)、厚さ20~35m/m 113.56m:Hc-1 66°で上下端とも小さく波打って連続。途中で厚さ1m/m粘土に分歧。 φ1m/m石英粒わずかに含む軟質粘土(ガウジ)。 色調は灰白色(7.5YR8/2)、厚さ1~2m/m。
177 113.56~113.60m:Hj 上端66°で小さく波打ち、下端63°、幅1m/m以下のにぶい橙色(7.5YR7/4)の直線的な軟弱粘土脈として連続。φ5~10m/m岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり「粘土混じり岩片状」呈する。色調は灰褐色(7.5YR6/2)厚さ15~20m/m。
178 113.60~114.00m:D 硬さ「C」「D」岩片含むが全体として軟化著しい。
179 114.00~114.75m:CL 高角と低角度割れ目が交差し概ね30m/m以下に岩片化。 割れ目の一部は砂状化~マンガン鉱染受ける
180 114.75~115.52m:D 風化著しく大半が砂状化し、砂礫状を呈する。

標尺	深さ	柱状	岩種	色調	岩区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア長	採取率	記事
m	m	m	図	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
171~180	・記載漏れのため比較対象無し。※2

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

深尺 (m)	深度 (m)	境界高さ位置	地質	地層	細区分				最大コア長 (cm)	RQD	岩級区分	記事
					割れ目性状	開口性状	風化	その他				
119.30	120.78									CM	187	
120.78	122.00									CH	188	
122.00	125.06									CM	189	
125.06	124.54										190	

記事内容
119.30～120.78m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化するが、割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。
120.78～122.00m: CH 130～140m間でゆ着割れ目が約10m/m間隔で分布。
122.00～125.06m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。すでに開口割れ目化するものも多い。割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。
123.38m 割れ目交差部で幅2～3m/m細片状化するが、風化砂状部や粘土化部ははさまれない。
124.54m 55° 割れ目面に厚0.5m/m、軟弱灰緑色粘土がフィルム状に付着する。

深尺 (m)	深度 (m)	柱状	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R (%)	最大 コア長 (cm)	最大 コア長 (cm)	記事
			灰褐		CM'	100	15	25			B
					CH	100	24	34			
					CM'	100	5	0			119.30～138.00m ・硬質であるが、全体に割れ目が多く、岩片～短柱状を主体とする。 125.06～125.20m ・割れ目面に細片状を呈する。 ・割れ目には挟在物は見られない。 127.16～127.25m ・僅10m前後の角礫状を呈する。
					CM'	100	8	0			
					CM'	100	6	0			
					CM'	100	10	10			
					CM'	100	8	0			
					CM'	100	9	0			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
187	・記載漏れのため比較対象無し。※2
188	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況・風化状況については、補足的なものであるため削除。
189	・細片化が見られるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
190	・粘土の挟在が見られるが、幅狭く、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
B	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質である、岩片～短柱状を主体とすると記載。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界 地層 位置	地層名	色調	割れ目 状況	コア 形状	風化	高角	最大 径	破砕 区分	基盤岩コア観察カード	
											記事・破砕性状・詳細スケッチ等	記事
125.06	125.06										191	125.06~125.28m: CL 着割れ目などから分離・細片化している。砂や粘土ははさまない。
125.28	125.28										192	125.28~127.68m: CM 開口割れ目と平行方向の着割れ目や密着度の低い割れ目を含んでいる。ハンマーの強打で一部は分離・細片化する。ごく一部(下記127.16~127.25m間)でごく薄く風化する以外はほとんど新鮮、未風化。
127.16	127.16										193	127.16~127.25m間はφ10m/前後で角礫化している。下端の45°割れ目面には幅10m/mがφ2~5m/mで細礫状化し、風化で淡褐色化する。
127.68	127.68										194	127.68~128.08m: CL 厚さ5~10m/m程度の片状コア主体で挟在物は下部の128.05~128.08mがφ3~5m/m硬質岩片を含む「礫質砂」状を呈する以外、砂、粘土などはさまない。
128.08	128.08										195	128.08~128.64m: CM 各割れ目面は薄く淡褐色化し直上よりも風化するが、砂や粘土など挟在物は認められない。
128.64	128.64										196	128.64~128.88m: CL φ10m/m前後に細かく砕けた角礫状コアで、各割れ目面には砂が付着することがある。割れ目ぞいに風化が進行していると推定される。
128.88	128.88										197	128.88~129.91m: CM 60~70°の高角度と30~40°の低角度割れ目の交差部ではφ10m/m前後に片状~角礫状するが、砂状部や粘土化部ははさまない。

記事内容
191 125.06~125.28m: CL 着割れ目などから分離・細片化している。砂や粘土ははさまない。
192 125.28~127.68m: CM 開口割れ目と平行方向の着割れ目や密着度の低い割れ目を含んでいる。ハンマーの強打で一部は分離・細片化する。ごく一部(下記127.16~127.25m間)でごく薄く風化する以外はほとんど新鮮、未風化。
193 127.16~127.25m間はφ10m/m前後で角礫化している。下端の45°割れ目面には幅10m/mがφ2~5m/mで細礫状化し、風化で淡褐色化する。
194 127.68~128.08m: CL 厚さ5~10m/m程度の片状コア主体で挟在物は下部の128.05~128.08mがφ3~5m/m硬質岩片を含む「礫質砂」状を呈する以外、砂、粘土などはさまない。
195 128.08~128.64m: CM 各割れ目面は薄く淡褐色化し直上よりも風化するが、砂や粘土など挟在物は認められない。
196 128.64~128.88m: CL φ10m/m前後に細かく砕けた角礫状コアで、各割れ目面には砂が付着することがある。割れ目ぞいに風化が進行していると推定される。
197 128.88~129.91m: CM 60~70°の高角度と30~40°の低角度割れ目の交差部ではφ10m/m前後に片状~角礫状するが、砂状部や粘土化部ははさまない。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
191	・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着の程度については、補足的なものであるため削除。
192	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・割れ目の開口状況・密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・風化の程度については、岩級区分に含めて示しているため削除。
193	・割れ目の傾斜、変色については、補足的なものであるため削除。 ・細礫状部の幅については、ばらつきがあるため削除。
194	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・片状コア主体で、一部で礫質砂状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
195	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・割れ目の変色、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。 ・風化の程度については、当該区間の周囲との差が明瞭ではないことから削除。
196	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・割れ目沿いの風化については、補足的なものであるため削除。 ・角礫状を呈し、一部で砂が付着するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
197	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄に示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで細片化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

深度 (m)	地層 名称	地層 番号	地層 区分	細区分				RQD	最大 コア長 (cm)	岩盤 強度 区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				崩壊	風化	変質	割れ目				
139.82										209	●139.82~139.88m破砕帯(主せん断面139.82m)
139.82										210	139.82m:Hc-1
139.82										211	52°で直線的に連続。肉眼的には石英粒、岩片を含まない軟弱粘土(ガウジ)。色調は暗緑灰(5G3/1)~灰褐色(7.5YR4/1)、厚さ0.5~1m/m 139.82~139.88m:Hj 52°で上下端とも直線的に連続。φ3~5m/mに細かく岩片化。岩片間には砂状(粗粒砂主体)。岩片の多くは主せん断面方向に配列している。全体に「砂混じり岩片状」を呈する。色調は暗緑灰色(10G3/1)。厚さ40m/m 139.88~139.95m:D 主せん断面と平行に近い割れ目が多い。岩組織は残留する。 139.95~140.03m:CL 硬さ「C」岩片主体。 140.03~141.27m:CM 坚硬だが割れ目が多い。コア長10cm以下の短棒状コア主体 割れ目挟在物は分布しない。 141.27~142.31m:CL ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目が多い 141.55m以浅では割れ目に風化起因の砂や暗緑灰色粘土など挟在物も多く全体に軟化する。 141.55m以深では挟雑物のない割れ目が主体。 142.31~144.0m:CM 岩片は硬くなる(硬さ「B」)。 143.36m以深では割れ目ぞいに暗緑灰色で幅1m/m程度の砂~粘土をフィルム状にはさむ割れ目が多い 143.93m以深では割れ目周辺が暗緑灰色帯びる。 (孔底)
141.27										212	143.93m以深では割れ目周辺が暗緑灰色帯びる。 (孔底)

記事内容
209 ●139.82~139.88m破砕帯(主せん断面139.82m)
210 139.82m:Hc-1
211 52°で直線的に連続。肉眼的には石英粒、岩片を含まない軟弱粘土(ガウジ)。色調は暗緑灰(5G3/1)~灰褐色(7.5YR4/1)、厚さ0.5~1m/m 139.82~139.88m:Hj 52°で上下端とも直線的に連続。φ3~5m/mに細かく岩片化。岩片間には砂状(粗粒砂主体)。岩片の多くは主せん断面方向に配列している。全体に「砂混じり岩片状」を呈する。色調は暗緑灰色(10G3/1)。厚さ40m/m 139.88~139.95m:D 主せん断面と平行に近い割れ目が多い。岩組織は残留する。 139.95~140.03m:CL 硬さ「C」岩片主体。 140.03~141.27m:CM 坚硬だが割れ目が多い。コア長10cm以下の短棒状コア主体 割れ目挟在物は分布しない。 141.27~142.31m:CL ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目が多い 141.55m以浅では割れ目に風化起因の砂や暗緑灰色粘土など挟在物も多く全体に軟化する。 141.55m以深では挟雑物のない割れ目が主体。 142.31~144.0m:CM 岩片は硬くなる(硬さ「B」)。 143.36m以深では割れ目ぞいに暗緑灰色で幅1m/m程度の砂~粘土をフィルム状にはさむ割れ目が多い 143.93m以深では割れ目周辺が暗緑灰色帯びる。 (孔底)
212 143.93m以深では割れ目周辺が暗緑灰色帯びる。 (孔底)

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	RQD	最大コア長	記事
m	m	m	区分	調	区分	(%)	(cm)	(%)	(cm)	
				灰	CM	100	6	0		135.80~136.00m ・割れ目直に、径10~30mmの岩片化している。
						100	11	11		
						100	6	0		
						100	12	23		
					CL	100	3	0		209~211 ●139.82~139.88m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる ・暗緑灰~灰褐色の粘土状~暗緑灰色の砂混じり層状を呈する。 ・暗緑灰~灰褐色粘土、累計厚1m ・走向・傾斜はN27°E80°である。 ・傾斜は52°である。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は52°である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
209~211	<ul style="list-style-type: none"> ・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し(砂混じり岩片状→砂混じり礫状) ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
212	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・岩組織の残留程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・割れ目の有無、割れ目の密着状態、色調については、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目に砂や粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

深度 (m)	深度 (m)	地層 名称	地層 区分	細区分				RQD	最大 コア長 (cm)	岩級 区分	記事 番号
				崩壊 区分	風化 区分	変質 区分	その他				
139.82	139.82									209	
139.82	139.82									210	
139.82	139.82									211	
139.82	139.82									212	

記事内容
209 ●139.82~139.88m破砕帯(主せん断面139.82m)
210 139.82m:Hc-1
52°で直線的に連続。肉眼的には石英粒、岩片を含まない軟弱粘土(ガウジ)。色調は暗緑灰(5G3/1)~灰褐色(7.5YR4/1)、厚さ0.5~1m/m
211 139.82~139.88m:Hj 52°で上下端とも直線的に連続。φ3~5m/mに細かく岩片化。岩片間は砂状化(粗粒砂主体)。岩片の多くは主せん断面方向に配列している。全体に「砂混じり岩片状」を呈する。色調は暗緑灰色(10G3/1)。厚さ40m/m
139.88~139.95m:D 主せん断面と平行に近い割れ目が多い。岩組織は残留する。
139.95~140.03m:CL 硬さ「C」岩片主体。
140.03~141.27m:CM 堅硬だが割れ目が多い。コア長10cm以下の短棒状コア主体
割れ目挟在物は分布しない。
141.27~142.31m:CL ゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が多い
141.55m以浅では割れ目に風化起因の砂や暗緑灰色粘土など挟在物も多く全体に軟化する。
212 141.55m以深では挟雑物のない割れ目が主体。
142.31~144.0m:CM 岩片は硬くなる(硬さ「B」)。
143.36m以深では割れ目ぞいに暗緑灰色で幅1m/m程度の砂~粘土をフィルム状にはさむ割れ目が多い
143.93m以深では割れ目周辺が暗緑灰色帯びる。
(孔底)

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率	最大コア長	RQD	記事
m	m	m	区分	区分	区分	(%)	(cm)	(%)	
			灰	CM	100	6	0		135.80~136.00m ・割れ目直に、径10~30mmの岩片化している。 ●139.82~139.88m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる ・暗緑灰~灰褐色の粘土状~暗緑灰色の砂混じり層状を呈する。 ・暗緑灰~灰褐色粘土、累計厚1m ・走向・傾斜はN27°E80°である。 ・傾斜は52°である。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は52°である。
					100	11	11		
					100	6	0		
					100	12	23		
					CL	100	3	0	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
209~211	<ul style="list-style-type: none"> ・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し(砂混じり岩片状→砂混じり礫状) ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
212	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・岩組織の残留程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・割れ目の挟在物の有無、割れ目の密着状態、色調については、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目に砂や粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界 濃度 位置	地層 名称	細区分				RQD	最大 コア長 (cm)	岩級 区分	記事
				色	割れ目 状況	コアの 形状	風化 状況				
15.07											
16.00											
17.00											
18.00											
19.00											
20.00											

記事内容
15.00~15.09m スライムのため判別不可
15.62~15.66m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
15.80~16.00m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
16.50~16.51m 割れ目に沿って緑泥石が発達
16.76~16.86m マンガン濃集部が密集している
16.92~16.93m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
17.10m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
17.16m以深は上位に比べ割れ目がやゝ少なくなる
17.57~17.64m 割れ目に沿って緑泥石が発達
17.70~17.80m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
17.90~17.94m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
19.59~19.80m 10m/m程度間隔で割れ目あり。マンガンと石英を伴う。
19.70m以浅は風化が進み軟質化する

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色	岩級 区分	最大 コア長 (cm)	R 採取率 (%)	Q 最大 コア長 (cm)	D 採取率 (%)	記事
15.07										
16.00										
17.00										
18.00										
19.00										
20.00										

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
6	<ul style="list-style-type: none"> マンガン、割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 スライム区間については、ポアホールテレビによる観察結果から、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため、コア写真で示すこととし削除。 割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
7	<ul style="list-style-type: none"> マンガン、割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
8	<ul style="list-style-type: none"> 風化を伴う硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地層名	色	割れ目状態	細区分		RQD	最大コア長	岩級区分	記事
					コアの形状	風化				
15.07		25.5R								
15.09		7/6								15.00~15.09m スライムのため判別不可
15.62										15.62~15.66m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
15.80										15.80~16.00m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
16.50										16.50~16.51m 割れ目に沿って緑泥石が発達
16.76										16.76~16.86m マンガン濃集部が密集している
16.92										16.92~16.93m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
17.10										17.10m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
17.16										17.16m以深は上位に比べ割れ目や少なくなる
17.57										17.57~17.64m 割れ目に沿って緑泥石が発達
17.70										17.70~17.80m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
17.90										17.90~17.94m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
19.59										19.59~19.80m 10m/m程度間隔で割れ目あり。マンガンと石英を伴う。
19.70										19.70m以浅は風化が進み軟質化する

記事内容
15.00~15.09m スライムのため判別不可
15.62~15.66m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
15.80~16.00m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
16.50~16.51m 割れ目に沿って緑泥石が発達
16.76~16.86m マンガン濃集部が密集している
16.92~16.93m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
17.10m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
17.16m以深は上位に比べ割れ目や少なくなる
17.57~17.64m 割れ目に沿って緑泥石が発達
17.70~17.80m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
17.90~17.94m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
19.59~19.80m 10m/m程度間隔で割れ目あり。マンガンと石英を伴う。
19.70m以浅は風化が進み軟質化する

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色	岩級 区分	最大 コア 長 (cm)	R D (%)	最大 コア 長 (cm)	コア採取 率 (%)	記事
15.07						100	3	0		15.53~15.75m ・花崗岩である。
15.09						100	3	0		19.59~19.80m ・10m程度の間隔で、割れ目が分布する。 ・正断層センスである。 ・実地色の砂質シリカ土状〜粗面灰色の硬質粘土状〜近い黄緑〜近い黄色の粘土質シリカ土状を呈する。 ・定向・傾斜は7°/30°である。 ・傾斜は30°である。 ・上盤傾斜の傾斜は20°、下盤傾斜の傾斜は42°である。
15.62						100	4	0		
15.80						100	4	0		
16.50						100	10	10		
16.76						100	6	0		
16.92						100	12	12		
17.10						100	8	0		
17.16						100	23	23		
17.57						100	15	27		
17.70						100	7	0		

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
6	<ul style="list-style-type: none"> マンガン、割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 スライム区間については、ポアホールテレビによる観察結果から、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため、コア写真で示すこととし削除。 割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
7	<ul style="list-style-type: none"> マンガン、割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
8	<ul style="list-style-type: none"> 風化を伴う硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

採尺 分D (m)	深度 (m)	採尺 位置	地質 記号	相区分										硬質 区分	岩級 区分	基盤岩コア観察カード 記事・硬質区分・詳細スケッチ等
				硬質 区分	硬質 区分	硬質 区分	硬質 区分	硬質 区分	硬質 区分	硬質 区分	硬質 区分	硬質 区分	硬質 区分			
80.19															94	80.19~80.48m: CM 一部のコアに密着度の低い割れ目と含れ目 割れ目挟在物は分布しない。
80.48															95	80.48~83.12m: CH 堅硬で概ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物は分布しない。 ゆず割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布をする程度。 全体にφ2~3m/m暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出している。 長石の白濁化は殆んど認められない。
81.10															96	81.10~81.35m φ2~5m/mの斑点状にマンガン鉱染受け灰褐色色調おびる。 劣化は伴わない。
82.10															96	82.10~82.30m 珪化変質によりφ5~10m/m斑点状~幅10m/m脈状の石英 が晶出し上下位よりもさらに硬質となっている。
82.72																82.72~82.86m コア中に密着度の低い割れ目を含む

記事内容	
94	80.19~80.48m: CM 一部のコアに密着度の低い割れ目を含んでいる 割れ目挟在物は分布しない。
95	80.48~83.12m: CH 堅硬で概ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物は分布しない。 ゆず割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布をする程度。 全体にφ2~3m/m暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出している。 長石の白濁化は殆んど認められない。
96	81.10~81.35m φ2~5m/mの斑点状にマンガン鉱染受け灰褐色色調おびる。 劣化は伴わない。
96	82.10~82.30m 珪化変質によりφ5~10m/m斑点状~幅10m/m脈状の石英 が晶出し上下位よりもさらに硬質となっている。
	82.72~82.86m コア中に密着度の低い割れ目を含む



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
94	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 割れ目の密着状態や挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
95	<ul style="list-style-type: none"> “コアの硬さ”欄や“コアの形状”欄に基づき、硬質、柱状と記載。 岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 挟在物の有無、割れ目の密着状態、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
96	<ul style="list-style-type: none"> マンガン、色調、鉱物の晶出、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

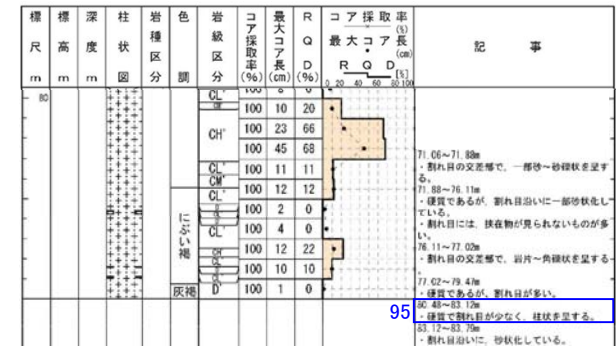
コア観察カード
(H27年8月)

標尺 小口 (m)	深度 (m)	柱状 番号	色調	細区分				岩種 区分	岩級 区分	記事
				CH	CM	CL	CD			
0.0	0.0									
0.5	0.5								94	80.19~80.48m: CM 一部のコアに密着度の低い割れ目を含んでいる 割れ目挟在物は分布しない。
1.0	1.0								95	80.48~83.12m: CH 堅硬で概ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物は分布しない。 ゆ着割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布をする程度。 全体にφ2~3m/m暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出している。 長石の白濁化は殆んど認められない。
1.5	1.5								96	81.10~81.35m φ2~5m/mの斑点状にマンガン鉱染受け灰褐色色調おびる。 劣化は伴わない。 82.10~82.30m 珪化変質によりφ5~10m/m斑点状~幅10m/m脈状の石英 が晶出し上下位よりも更に硬質となっている。 82.72~82.86m コア中に密着度の低い割れ目を含む

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
80.19~80.48m: CM 一部のコアに密着度の低い割れ目を含んでいる 割れ目挟在物は分布しない。
80.48~83.12m: CH 堅硬で概ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物は分布しない。 ゆ着割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布をする程度。 全体にφ2~3m/m暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出している。 長石の白濁化は殆んど認められない。
81.10~81.35m φ2~5m/mの斑点状にマンガン鉱染受け灰褐色色調おびる。 劣化は伴わない。
82.10~82.30m 珪化変質によりφ5~10m/m斑点状~幅10m/m脈状の石英 が晶出し上下位よりも更に硬質となっている。
82.72~82.86m コア中に密着度の低い割れ目を含む

申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
94	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態や挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
95	<ul style="list-style-type: none"> ・“コアの硬さ”欄や“コアの形状”欄に基づき、硬質、柱状と記載。 ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・挟在物の有無、割れ目の密着状態、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
96	<ul style="list-style-type: none"> ・マンガン、色調、鉱物の晶出、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

Table with columns for core depth (m), lithology, and observation notes. Includes a title '基盤岩コア観察カード' and various data points for different core sections.

記事内容 (Article Content) table with columns for depth (m) and detailed lithological descriptions. Includes entries for 102, 103, 104, 105, 106, and 107.

申請書用柱状図 (Application Form Columnar Diagram) table with columns for scale, depth, lithology, and core data. Includes a title '申請書用柱状図' and various data points for different core sections.

Table with columns for '記事' (Article) and 'コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図' (Core Observation Card (Aug 2027) ⇒ Application Form Columnar Diagram). Contains detailed notes and corrections for sections 102, 103~106, and 107.

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

Table with columns for core observation data including depth, lithology, and sampling points. Title: 基盤岩コア観察カード

記事内容 (Article Content) table with numbered entries (102-107) describing geological observations and core characteristics.

申請書用柱状図 (Application Form Columnar Diagram) table showing core data for 103~106, including depth, lithology, and sampling details.

Main summary table with columns for '記事' (Article) and 'コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図' (Core Observation Card to Application Form Columnar Diagram).

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

7.1 標高		7.2 深度		7.3 柱状図		7.4 色		7.5 岩級区分		7.6 コア採取率		7.7 R		7.8 Q		7.9 D		7.10 記事		
標高	深度	柱状図	色	岩級区分	コア採取率	R	Q	D	記事											
95.46	55°	割れ目ぞい幅10~15m/mが褐色化し、硬さ「D」に軟化。上盤側に幅7m/m方解石を脈状に伴うが、動脈は途中で尖滅している。																		
95.90	96.00	割れ目が10~20m/m間隔で交差し、風化で褐色化、硬さ「D」に軟化するが砂状部は分布しない。																		
96.60	96.63	割れ目ぞい幅10m/m程度が淡褐色化し、幅1~2m/m砂状部をはさむ																		
97.36	35°	割れ目に淡緑色シルトから細砂脈はさむ。その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布。																		
97.96	98.48	CM 岩片は硬いが、割れ目ぞいの砂状化も認められる 粘土化部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い																		
98.48	101.31	CL 割れ目ぞいの砂状化部が多くなる。 粘土は殆んど分布しないが、長石は概ね白濁化する 99.44m以下は岩片は硬質、以深は風化で軟化している																		
99.16	99.45	長さ10cm前後の柱状コアが中石的に分布する。																		
99.44	99.90	割れ目ぞいに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟化する。 特に99.76m~99.90mでは40°割れ目ぞい砂状化が進み岩片も一部硬さ「D」まで低下																		

記事内容	
95.46m 55° 割れ目ぞい幅10~15m/mが褐色化し、硬さ「D」に軟化。上盤側に幅7m/m方解石を脈状に伴うが、動脈は途中で尖滅している。	123
95.90~96.00m 割れ目が10~20m/m間隔で交差し、風化で褐色化、硬さ「D」に軟化するが砂状部は分布しない。	
96.60~96.63m 割れ目ぞい幅10m/m程度が淡褐色化し、幅1~2m/m砂状部をはさむ	123
97.36m 35° 割れ目に淡緑色シルトから細砂脈はさむ。その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布。	
97.96~98.48m: CM 岩片は硬いが、割れ目ぞいの砂状化も認められる 粘土化部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い	
98.48~101.31m: CL 割れ目ぞいの砂状化部が多くなる。 粘土は殆んど分布しないが、長石は概ね白濁化する 99.44m以下は岩片は硬質、以深は風化で軟化している	124
99.16~99.45m 長さ10cm前後の柱状コアが中石的に分布する。	
99.44~99.90mは割れ目ぞいに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟化する。 特に99.76m~99.90mでは40°割れ目ぞい砂状化が進み岩片も一部硬さ「D」まで低下	125

標高	深度	柱状図	色	岩級区分	コア採取率 (%)	R (%)	Q (%)	D (%)	記事
100	25	27		CH	100	25	27		・明褐色~灰褐色粘土、厚さ約5mm ・炭化・腐蝕は弱、高層である。 ・傾斜は51°である。 ・上盤境界の傾斜は51°、下盤境界の傾斜は45°である。 ・96.60~97.36m ・硬質で割れ目ぞい少なく、柱状を呈する。 ・98.48~101.31m ・割れ目ぞいに、砂状化している。 ・長石は概ね白濁化している。
100	15	27		CH	100	15	27		
100	7	0		CH	100	7	0		
100	9	0		CH	100	9	0		
100	11	11		CL	100	11	11		
100	4	0		CL	100	4	0		

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
123	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目の傾斜・変色、鉱物脈、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化、シルトや砂の挟在がみられるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・岩級及びその区分については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
124	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
125	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基盤岩コア観察カード									
凡例	採掘	位置	心部	傾斜	層	色	質	硬さ	備考
05									95.46m 55° 割れ目ぞい幅10~15m/mが褐色化し、硬さ「D」に軟化。上盤側に幅7m/m方解石を脈状に伴うが、同脈は途中で尖滅している。95.90~96.00m 割れ目が10~20m/m間隔で交差し、風化で褐色化、硬さ「D」に軟化するが砂状部は分布しない。
96									96.60~96.63m 割れ目ぞい幅10m/m程度が淡褐色化し、幅1~2m/m砂状部をはさむ
05									97.36m 35° 割れ目に淡緑色シルト~細砂脈をはさむ。その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布。
05									97.96~98.48m: CM 岩片は硬いが、割れ目ぞいの砂状化も認められる粘土化部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い
05									98.48~101.31m: CL 割れ目ぞいの砂状化部が多くなる。粘土は殆んど分布しないが、長石は概ね白濁化する99.44mは浅は岩片は硬質、で深は風化で軟化している
05									99.16~99.45m 長さ10cm前後の柱状コアが中石的に分布する。99.44~99.90mは割れ目ぞいに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟化する。特に99.76m~99.90mでは40° 割れ目ぞい砂状化が進み岩片も一部硬さ「D」まで低下

記事内容
95.46m 55° 割れ目ぞい幅10~15m/mが褐色化し、硬さ「D」に軟化。上盤側に幅7m/m方解石を脈状に伴うが、同脈は途中で尖滅している。95.90~96.00m 割れ目が10~20m/m間隔で交差し、風化で褐色化、硬さ「D」に軟化するが砂状部は分布しない。
96.60~96.63m 割れ目ぞい幅10m/m程度が淡褐色化し、幅1~2m/m砂状部をはさむ
97.36m 35° 割れ目に淡緑色シルト~細砂脈をはさむ。その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布。
97.96~98.48m: CM 岩片は硬いが、割れ目ぞいの砂状化も認められる粘土化部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い
98.48~101.31m: CL 割れ目ぞいの砂状化部が多くなる。粘土は殆んど分布しないが、長石は概ね白濁化する99.44mは浅は岩片は硬質、で深は風化で軟化している
99.16~99.45m 長さ10cm前後の柱状コアが中石的に分布する。99.44~99.90mは割れ目ぞいに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟化する。特に99.76m~99.90mでは40° 割れ目ぞい砂状化が進み岩片も一部硬さ「D」まで低下

標尺	標高	深	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	最大コア長 (cm)	記事
100		25	27			CH	100	15	27				・明褐色~灰褐色粘土、厚10mm ・走向・傾斜は不明、高層である。 ・傾斜は51°である。 ・上盤境界の傾斜は51°、下盤境界の傾斜は45°である。 ・96.60~97.36m ・硬質で割れ目ぞい少なく、柱状を呈する。 ・98.48~101.31m ・割れ目ぞいに、砂状化している。 ・長石は概ね白濁化している。
		7	0			CH	100	9	0				
		11	11			CL	100	11	11				
		4	0			CL	100	4	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
123	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の傾斜・変色、鉱物脈、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 一部割れ目沿いに砂状化、シルトや砂の挟在がみられるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 岩級及びその区分については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
124	<ul style="list-style-type: none"> 岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
125	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 一部割れ目沿いに砂状化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

寸法		位置		地層		観察		備考	
高さ	径	層名	層番号	色	質	構造	特徴	備考	備考
134.70	φ50	花崗岩	170	緑灰	軟質	塊状	133.75~133.92m: 破砕帯(主せん断面133.75m) 133.75m: Hc-1 45°で上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片を含まない軟弱粘土(ガウジ)。色調は明緑灰(10G 7/1)、厚さ0.5~1m/m 133.75~133.80m: Hb 上端45°で直線的に、下端35°で波打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」岩片を20~30%含む軟質な「礫質粘土状」呈する。硬さ「D」岩片中には主せん断面と同方向の割れ目が分布する。色調は緑灰(10G 6/1)、厚さ30~40m/m 133.80~133.92m: Hj 上端35°、下端50°でともに波打って連続。大半が粘土化したφ5~10m/m岩片で、岩片間は幅1~2m/m灰白~緑灰色軟質粘土が脈状に分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は上端側が緑灰(10G 6/1)、下端側がオリーブ灰(2.5GY 5/1)、厚さ100m/m 133.92~134.15m: 硬さ「C」主体		
134.15	φ50	花崗岩	171	緑灰	軟質	塊状			
134.15	φ50	花崗岩	172	緑灰	軟質	塊状			

記事内容	
170	●133.75~133.92m: 破砕帯(主せん断面133.75m) 133.75m: Hc-1 45°で上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片を含まない軟弱粘土(ガウジ)。色調は明緑灰(10G 7/1)、厚さ0.5~1m/m 133.75~133.80m: Hb 上端45°で直線的に、下端35°で波打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」岩片を20~30%含む軟質な「礫質粘土状」呈する。硬さ「D」岩片中には主せん断面と同方向の割れ目が分布する。色調は緑灰(10G 6/1)、厚さ30~40m/m
171	133.80~133.92m: Hj 上端35°、下端50°でともに波打って連続。大半が粘土化したφ5~10m/m岩片で、岩片間は幅1~2m/m灰白~緑灰色軟質粘土が脈状に分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は上端側が緑灰(10G 6/1)、下端側がオリーブ灰(2.5GY 5/1)、厚さ100m/m
172	133.92~134.15m 硬さ「C」主体

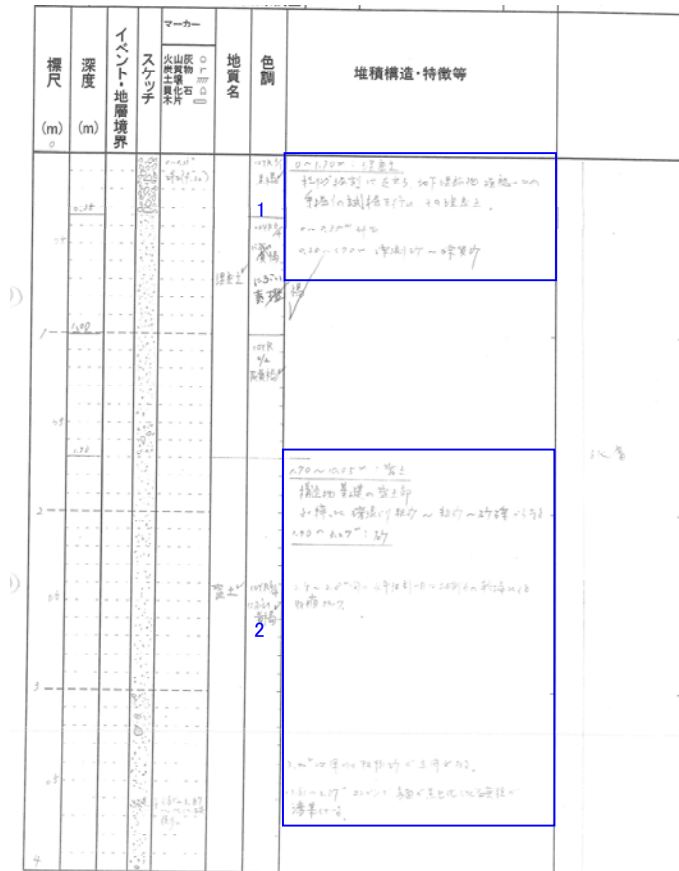
標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長D(cm)	R	Q	コア採取率(%)	最大コア長D(cm)	記事
m	m	m	図									
134.70	0.00		花崗岩	緑灰	CL	100	5	0				・灰白色の粘土状~灰白色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰白色粘土・累計厚1mm ・走向・傾斜は「E」正である。 ・傾斜は50°である。 ・上層境界の傾斜は50°、下層境界の傾斜は50°~60°である。 ●133.75~133.92m ・破砕帯である。カタクレーサイトからなる。
134.15	0.55		花崗岩	明緑灰	CL	100	3	0				・明緑灰色の砂質粘土~灰白色の粘土・砂質粘土を呈する。 ・傾斜は50°である。 ・走向・傾斜は「E」正である。 ・傾斜は50°である。 ・上層境界の傾斜は50°、下層境界の傾斜は62°である。 130.79~131.79m ・割れ目状に、砂状化している。 133.75~134.23m ・アプソイトである。
134.15	1.10		花崗岩	明緑灰	CL	100	3	0				●133.75~133.92m ・破砕帯である。カタクレーサイトからなる。
134.15	1.65		花崗岩	明緑灰	CL	100	5	0				●133.75~133.92m ・破砕帯である。カタクレーサイトからなる。 ・明緑灰色の粘土状~緑灰色の礫質粘土~緑灰~オリーブ灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・厚さ約1mm ・走向・傾斜は「E」正である。 ・傾斜は40°である。 ・上層境界の傾斜は40°、下層境界の傾斜は50°である。
134.15	2.20		花崗岩	明緑灰	D	100	2	0				●134.15~134.23m ・破砕帯である。 ・工期層セツである。 ・オリーブ灰~緑オリーブ灰の粘土状~オリーブ灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・オリーブ灰~緑オリーブ灰色粘土・累計厚20mm ・走向・傾斜は「E」正である。 ・傾斜は70°である。 ・上層境界の傾斜は70°である。 134.23~136.54m ・花崗岩である。
134.15	2.75		花崗岩	明緑灰	CL	100	4	0				
134.15	3.30		花崗岩	明緑灰	CL	100	4	0				
134.15	3.85		花崗岩	明緑灰	CL	100	3	0				
134.15	4.40		花崗岩	明緑灰	D	100	6	0				
134.15	4.95		花崗岩	明緑灰	CL	100	3	0				
134.15	5.50		花崗岩	明緑灰	D	100	2	0				
134.15	6.05		花崗岩	明緑灰	CL	100	4	0				
134.15	6.60		花崗岩	明緑灰	CL	100	5	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
170, 171	<ul style="list-style-type: none"> ・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粘土脈については、いずれも連続性や直線性に乏しいため削除。
172	<ul style="list-style-type: none"> ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

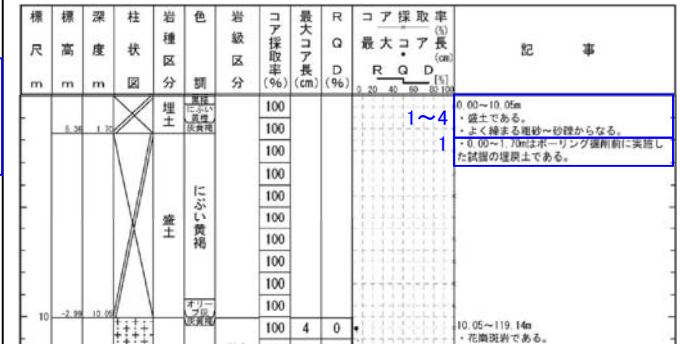
コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



スケッチ: 濃はクサリ ● 半クサリ ○ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭—— 不明瞭----- 亀裂は赤線, 角度, 余線等

記事内容
0~1.70m 埋戻土 ボーリング掘削に先立ち、地下埋設物確認のため手掘りの試掘を行い、その埋戻土。 0~0.35m 砕石 0.35~1.70m 礫混り砂~礫質砂
1.70~10.05m 盛土 構造物基礎の盛土部 よく締まった礫混じり粗砂~粗砂~砂礫からなる 1.70~5.27m 砂 2.4~2.8m間の水平性割れ目は掘削後の乾燥による収縮クラック。 3.5m以深では粗粒砂が主体となる。 3.61~3.67mマンガンで表面が黒色化した石英粒が濃集している。

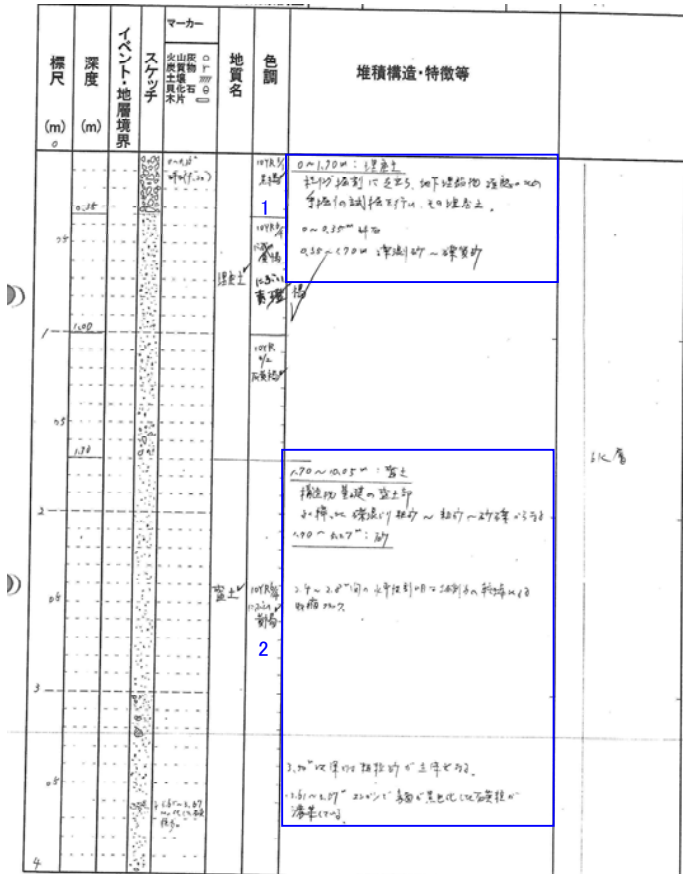


記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
1~4	<ul style="list-style-type: none"> ・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・当該ボーリングの土質区間は、一連が人工層からなるが、土質構成として、良く締まる粗砂~砂礫からなるまとめ書き。

コア観察カード
(H27年8月)

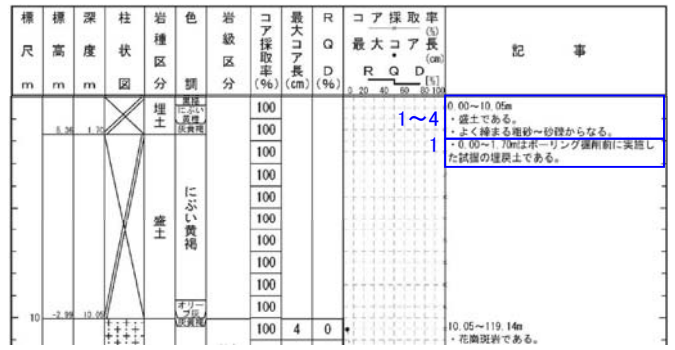
コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



スケッチ: 濃はクサリ ● 半クサリ ○ 硬質 ○ 礫種は風雲母花崗岩Gr. 花崗斑岩Gp. アブライトAp 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - -
亀裂は赤線、角度、赤線等

記事内容
0~1.70m:埋戻土 ボーリング掘削に先立ち、地下埋設物確認のため手掘りの試掘を行い、その埋戻土。 0~0.35m 砕石 0.35~1.70m 礫混り砂~礫質砂
1.70~10.05m:盛土 構造物基礎の盛土部 よく締った礫混じり粗砂~粗砂~砂礫からなる 1.70~5.27m:砂 2.4~2.8m間の水平性割れ目は掘削後の乾燥による収縮クラック。 3.50m以深では粗粒砂が主体となる。 3.61~3.67mマンガで表面が黒色化した石英粒が濃集している。

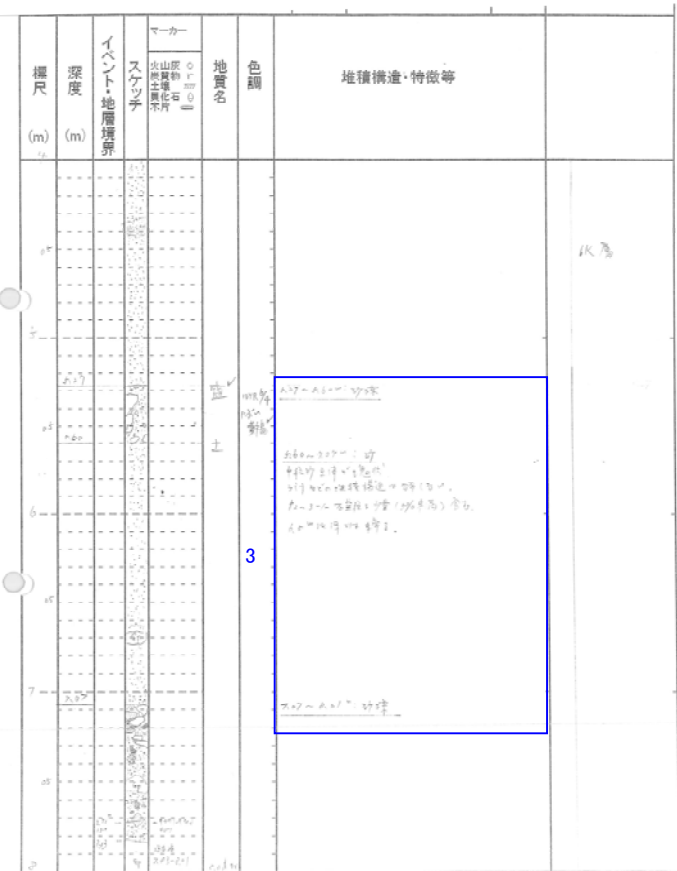


記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
1~4	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・当該ボーリングの土質区間は、一連が人工層からなるが、土質構成として、良く締まる粗砂~砂礫からなるまとめ書き。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



スケッチ: 礫はクサリ●半クサリ○ 硬質○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アブライトAp 等
境界 明瞭— 不明瞭--- 亀裂は赤線, 角度, 糸線等

記事内容
5.27~5.60m 砂礫 5.60~7.07m 砂 中粒砂主体で塊状 ラミナなどの堆積構造は分布しない。 φ2~3m/m石英粒を少量(5%未満)含む。 6.5m以深では締る。 7.07~8.01m 砂礫

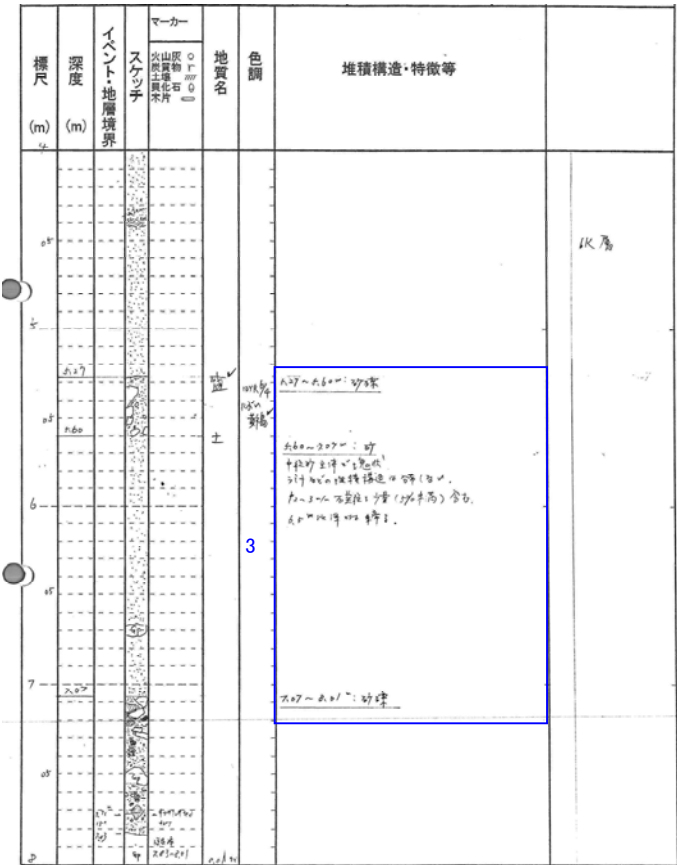


記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
1~4	<ul style="list-style-type: none"> 堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。 当該ボーリングの土質区間は、一連が人工層からなるが、土質構成として、良く締まる粗砂～砂礫からなるとまとめ書き。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



スケッチ: 硬はクサリ●半クサリ○硬質○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アブライトAp 等
境界 明瞭——不明瞭--- 亀裂は赤線, 角度, 条線等

記事内容
5.27~5.60m: 砂礫 5.60~7.07m: 砂 中粒砂主体で塊状 ラミナなどの堆積構造は分布しない。 φ2~3m/m石英粒を少量(5%未満)含む。 6.5m以深では締る。 7.07~8.01m: 砂礫

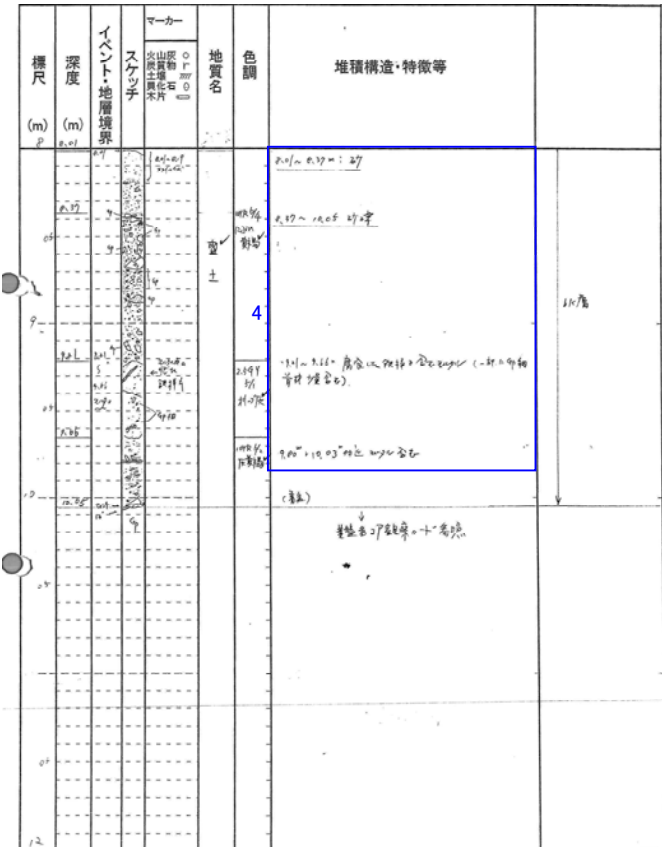
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	記事
10.05	119.14	10.05	花崗斑岩	埋土	黒	100	4	0	0	0	0	10.05~119.14m 花崗斑岩である。
0.00	10.95	0.00	埋土	にふい黄褐	黄	100						0.00~10.95m 埋土である。 よく締まる粗砂~砂礫からなる。 0.00~1.70mはボーリング掘削前に実施した試験の埋戻しである。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
1~4	<ul style="list-style-type: none"> 堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。 当該ボーリングの土質区間は、一連が人工層からなるが、土質構成として、良く締まる粗砂~砂礫からなるとまとめ書き。

コア観察カード
(H27年8月)

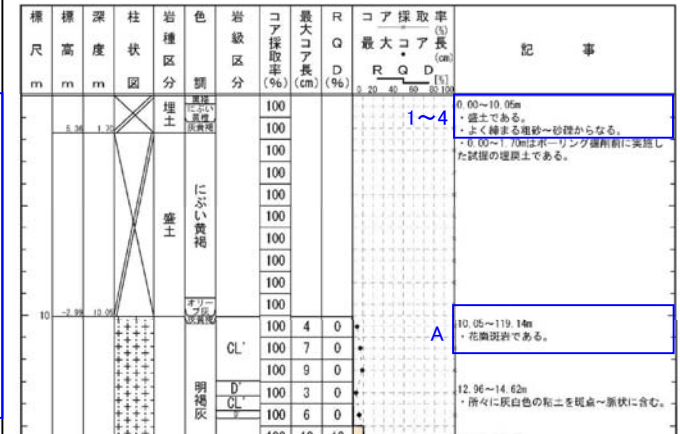
コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



スケッチ: 破はクサリ ● 半クサリ ○ 硬質 ○ 礫は黒雲母花崗岩Gr、花崗斑岩Gp、アブライトAp 等
境界 明瞭 — 不明瞭 --- 亀裂は赤線、角度、赤線等

記事内容
8.01~8.37m: 砂
8.37~10.05 砂礫
9.21~9.66m 腐食した鉄棒を含むモルタル(一部にGp細骨材少量含む)
9.80mと10.03m付近モルタル含む
(着岩)



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
1~4	<ul style="list-style-type: none"> ・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・当該ボーリングの土質区間は、一連が人工層からなるが、土質構成として、良く締まる粗砂~砂礫からなるまとめ書き。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・“地質名”欄に基づき、花崗斑岩とその深度区間を記載。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)		深度 (m)		層位		岩種		色		割れ目		備考	
0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.5
1.0	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5
2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5
3.0	3.5	3.0	3.5	3.0	3.5	3.0	3.5	3.0	3.5	3.0	3.5	3.0	3.5
4.0	4.5	4.0	4.5	4.0	4.5	4.0	4.5	4.0	4.5	4.0	4.5	4.0	4.5
5.0	5.5	5.0	5.5	5.0	5.5	5.0	5.5	5.0	5.5	5.0	5.5	5.0	5.5
6.0	6.5	6.0	6.5	6.0	6.5	6.0	6.5	6.0	6.5	6.0	6.5	6.0	6.5
7.0	7.5	7.0	7.5	7.0	7.5	7.0	7.5	7.0	7.5	7.0	7.5	7.0	7.5
8.0	8.5	8.0	8.5	8.0	8.5	8.0	8.5	8.0	8.5	8.0	8.5	8.0	8.5
9.0	9.5	9.0	9.5	9.0	9.5	9.0	9.5	9.0	9.5	9.0	9.5	9.0	9.5
10.0	10.5	10.0	10.5	10.0	10.5	10.0	10.5	10.0	10.5	10.0	10.5	10.0	10.5

記事内容
12.96~14.62m: D, CL 上端側と下端側はD級、中央部はCL級が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」であるが岩組織や割れ目は残留しているが全体に締った砂状化が進み、処々灰白色の粘土をφ5m/m前後の斑点状~幅1~3m/mの脈状に含んでいる。
13.64~14.30mは硬さ「C」岩片主体で20~40°の密着度の低い割れ目が同方向に1~2cm間隔で分布。 14.22m 43° 幅1m/m軟質黄褐色粘土をはさむ割れ目(sj) 交差する80° 幅1m/m石英脈を切っている(変位置7m/m, 右ズレ) 14.30~14.62mは上端17° 幅1~5m/m軟質赤灰色粘土。 下端50° 割れ目で囲まれ著しく軟化しているが、一部に硬さ「D」も残留。 岩組織や割れ目はわずかに残留している。 処々に幅1~2m/mmの軟質灰白色粘土を脈状に含んでいる。
14.62~20.04m: CL 20~40° 割れ目主体で、割れ目ぞいに風化で砂状化が拡大している部分も含んでいる。

標尺 (m)	深度 (m)	層位	岩種	色	割れ目	備考	
0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.5
1.0	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5
2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5
3.0	3.5	3.0	3.5	3.0	3.5	3.0	3.5
4.0	4.5	4.0	4.5	4.0	4.5	4.0	4.5
5.0	5.5	5.0	5.5	5.0	5.5	5.0	5.5
6.0	6.5	6.0	6.5	6.0	6.5	6.0	6.5
7.0	7.5	7.0	7.5	7.0	7.5	7.0	7.5
8.0	8.5	8.0	8.5	8.0	8.5	8.0	8.5
9.0	9.5	9.0	9.5	9.0	9.5	9.0	9.5
10.0	10.5	10.0	10.5	10.0	10.5	10.0	10.5
11.0	11.5	11.0	11.5	11.0	11.5	11.0	11.5
12.0	12.5	12.0	12.5	12.0	12.5	12.0	12.5
13.0	13.5	13.0	13.5	13.0	13.5	13.0	13.5
14.0	14.5	14.0	14.5	14.0	14.5	14.0	14.5
15.0	15.5	15.0	15.5	15.0	15.5	15.0	15.5
16.0	16.5	16.0	16.5	16.0	16.5	16.0	16.5
17.0	17.5	17.0	17.5	17.0	17.5	17.0	17.5
18.0	18.5	18.0	18.5	18.0	18.5	18.0	18.5
19.0	19.5	19.0	19.5	19.0	19.5	19.0	19.5
20.0	20.5	20.0	20.5	20.0	20.5	20.0	20.5

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
8	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであることから削除。 ・全体に砂状化が進んでいるが、砂状化部の連続性に乏しいことから削除。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態、鉱物脈については、補足的なものであるため削除。 ・14.22mに粘土を挟在し、石英脈を切っているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・14.30~14.62mに粘土を挟在するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化するが、直線性や連続性に乏しいことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基盤岩コア観察カード										
観察・記録性・経過スケッチ簿										
標尺 (m)	深度 (m)	岩種	色	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事
13	12.96			D, CL	100	4	0	0	0	10.05~119.14m ・花崗斑岩である。
14	13.64			C	100	7	0	0	0	12.96~14.62m ・所々に灰白色の粘土を斑状~脈状に含む。
14	14.30			C	100	10	10	10	10	15.33~15.43m ・軟質化著しい。
14	14.62			D	100	5	0	0	0	18.05~18.47m ・珪質化している。
15	20.04			CM	100	14	24	24	24	20.04~20.93m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目を含む。

記事内容
<p>12.96~14.62m: D, CL 上端側と下端側はD級、中央部はCL級が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」であるが岩組織や割れ目は残留しているが全体に締った砂状化が進み、処々灰白色の粘土をφ5m/m前後の斑点状~幅1~3m/mの脈状に含んでいる。</p>
<p>13.64~14.30mは硬さ「C」岩片主体で20~40°の密着度の低い割れ目が同方向に1~2cm間隔で分布。 14.22m 43° 幅1m/m軟質黄褐色粘土をはさむ割れ目(sj) 交差する80° 幅1m/m石英脈を切っている(変位量7m/m, 右ズレ) 14.30~14.62mは上端17° 幅1~5m/m軟質赤灰色粘土。 下端50° 割れ目で囲まれ著しく軟化しているが、一部に硬さ「D」も残留。 岩組織や割れ目はわずかに残留している。 処々に幅1~2m/mの軟質灰白色粘土を脈状に含んでいる。</p>
<p>14.62~20.04m: CL 20~40° 割れ目主体で、割れ目ぞいに風化で砂状化が拡大している部分も含んでいる。</p>

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事
13	12.96				D, CL	100	4	0	0	0	10.05~119.14m ・花崗斑岩である。
14	13.64				C	100	7	0	0	0	12.96~14.62m ・所々に灰白色の粘土を斑状~脈状に含む。
14	14.30				C	100	10	10	10	10	15.33~15.43m ・軟質化著しい。
14	14.62				D	100	5	0	0	0	18.05~18.47m ・珪質化している。
15	20.04				CM	100	14	24	24	24	20.04~20.93m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目を含む。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
8	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであることから削除。 ・全体に砂状化が進んでいるが、砂状化部の連続性に乏しいことから削除。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・硬軟や割れ目の発達の状態については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態、鉱物脈については、補足的なものであるため削除。 ・14.22mに粘土を挟在し、石英脈を切っているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・14.30~14.62mに粘土を挟在するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化するが、直線性や連続性に乏しいことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	細区分				R	Q	D	最大コア長 (cm)	コア採取率 (%)	記事
					硬軟	割れ目	付着	その他						
16.49	16.49		D											11
16.49	16.49		C											12
16.49	16.49		C											13

記事内容
11 上端側の16.49m以浅は硬さ「D」主体、16.49m以深は硬さ「C」主体である。
12 15.33～15.43m 風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟化著しい。上下端とも35°前後の割れ目である。
13 15.73～15.80m 80°割れ目ぞい薄くマンガン鉱染受ける。 16.31m 50°割れ目ぞい5～15m/m半固結状 白色シルト～粘土はさむ。 16.49m 35°割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目を含んでいる。 16.76～16.87m φ10～20m/mの岩片状呈する。岩片間は幅1～2m/m程度砂状化。

標尺 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	最大コア長 (cm)	コア採取率 (%)	記事
16.49	16.49		D			100	3	0					12.96～14.62m 所々に灰白色の粘土を斑状に含む。
16.49	16.49		C			100	6	0					15.33～15.43m 軟化著しい。
16.49	16.49		C			100	10	10					18.05～18.47m 珪質化している。
16.49	16.49		C			100	7	0					20.04～20.93m 硬質であるが、密着度の低い割れ目を含む。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
11	・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
12	・砂状化と粘土化がみられるが、いずれも直線性に乏しいことから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。
13	・割れ目の傾斜、マンガン、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・16.31mにシルト～粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・16.76～16.87mで岩片状を呈し、一部で砂状を呈するが、砂状部の連続性や直線性に乏しいことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	岩種	色調	割れ目 傾斜	細区分				硬軟	備考
					割れ目 傾斜	割れ目 幅	割れ目 長さ	割れ目 形状		
15.96	16.49									11 上端側の16.49m以浅は硬さ「D」主体、16.49m以深は硬さ「C」主体である。
15.33	15.43									12 15.33~15.43m 風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟化著しい。上下端とも35°前後の割れ目である。
15.73	16.87									13 15.73~15.80m 80°割れ目ぞい薄くマンガン鉱染を受ける。 16.31m 50°割れ目ぞい幅5~15m/m半固結状 白色シルト~粘土はさむ。 16.49m 35°割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目を含んでいる。 16.76~16.87m φ10~20m/mの岩片状呈する。岩片間は幅1~2m/m程度砂状化。

記事内容
11 上端側の16.49m以浅は硬さ「D」主体、16.49m以深は硬さ「C」主体である。
12 15.33~15.43m 風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟化著しい。上下端とも35°前後の割れ目である。
13 15.73~15.80m 80°割れ目ぞい薄くマンガン鉱染を受ける。 16.31m 50°割れ目ぞい幅5~15m/m半固結状 白色シルト~粘土はさむ。 16.49m 35°割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目を含んでいる。 16.76~16.87m φ10~20m/mの岩片状呈する。岩片間は幅1~2m/m程度砂状化。

標尺 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 最大コア長 (%) (cm)	記事
			明徳灰		D	100	3	0				12.96~14.62m 所々に灰白色の粘土を斑状~脈状に含む。
					CL	100	6	0				15.33~15.43m 軟化著しい。
					CL	100	10	10				18.05~18.47m 珪質化している。
					CL	100	7	0				20.04~20.93m 硬質であるが、密着度の低い割れ目を含む。
					CM	100	9	0				
					CM	100	14	24				
						100	3	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
11	・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
12	・砂状化と粘土化がみられるが、いずれも直線性に乏しいことから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。
13	・割れ目の傾斜、マンガン、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・16.31mにシルト~粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・16.76~16.87mで岩片状を呈し、一部で砂状を呈するが、砂状部の連続性や直線性に乏しいことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	岩種	色	柱状	RQD		最大コア長		記事
					個数	割合	長さ	割合	
23	22.91~23.49m								22.91~23.49m 40°前後の割れ目が同方向に分布。これらに直交~60°斜交する60~80°割れ目を切ることがある。
24	23.45~23.71m								23.45~23.71mに幅1~3m/m軟質白色粘土脈をはさむ80°割れ目が分布。
24	23.71~23.95m								23.71~23.95mは軟化し硬さ「D」主体。
24	23.95~24.06m								23.95~24.06mは硬さ「C」主体。
24	24.06~24.22m								24.06~24.22mは硬さ「C」主体。
24	24.22~24.37m								24.22~24.37mは厚さ2m/m石英脈
24	24.37~24.53m								24.37~24.53mは厚さ2m/m石英脈
25	24.53~26.70m								24.53~26.70mは硬さ「C」主体。
25	26.70~24.60m								26.70~24.60mは硬さ「C」主体。
25	24.60~24.92m								24.60~24.92m 80~90°割れ目に厚1~5m/mのマンガン鉱染で黒褐色砂をはさむ。

記事内容
23 22.91~23.49m 40°前後の割れ目が同方向に分布。これらに直交~60°斜交する60~80°割れ目を切ることがある。 23.45~23.71mに幅1~3m/m軟質白色粘土脈をはさむ80°割れ目が分布。 23.71~23.95mは軟化し硬さ「D」主体。 23.95~24.06mは硬さ「C」主体。 24.06~24.22mは硬さ「C」主体。
24 24.37m 45°厚さ2m/m石英脈
25 24.53~26.70mは硬さ「C」主体。 上位よりも割れ目がやゝ少なくなる。 24.60~24.92m 80~90°割れ目に厚1~5m/mのマンガン鉱染で黒褐色砂をはさむ。

標尺	深度	岩種	色	柱状	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD (%)	記事
20	18.05~18.43m	明礬灰			CM	100	5	0	18.05~18.43m - 珪質化している。
	20.04~20.93m	明礬灰			CM	100	14	24	20.04~20.93m - 珪質であるが、珪質の低い割れ目を含む。
	22.50~22.64m	明礬灰			CL	100	3	0	22.50~22.64m - 軟質化著しい。 - 上層に褐色の粘土脈、下層に褐色の砂を伴う。 - 一部に灰白色の粘土を帯状に含む。
	25.70~26.90m	明礬灰			CL	100	6	0	25.70~26.90m - 破砕部である。 - 左ずれセンスである。 - 淡黄色の粘土状~灰白色の珪質粘土状を呈する。
	24.60~24.92m	明礬灰			CL	100	10	10	24.60~24.92m - 一部に灰白色の粘土を帯状に含む。 - 左ずれセンスである。 - 淡黄色の粘土状~灰白色の珪質粘土状を呈する。
	24.60~24.92m	明礬灰			CL	100	18	18	24.60~24.92m - 一部に灰白色の粘土を帯状に含む。 - 左ずれセンスである。 - 淡黄色の粘土状~灰白色の珪質粘土状を呈する。
	24.60~24.92m	明礬灰			D	100	8	0	24.60~24.92m - 左ずれセンスである。 - 淡黄色の粘土状~灰白色の珪質粘土状を呈する。
	24.60~24.92m	明礬灰			CL	100	5	0	24.60~24.92m - 左ずれセンスである。 - 淡黄色の粘土状~灰白色の珪質粘土状を呈する。
	24.60~24.92m	明礬灰			CL	100	6	0	24.60~24.92m - 左ずれセンスである。 - 淡黄色の粘土状~灰白色の珪質粘土状を呈する。
	24.60~24.92m	明礬灰			CL	100	4	0	24.60~24.92m - 左ずれセンスである。 - 淡黄色の粘土状~灰白色の珪質粘土状を呈する。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
23	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の傾斜、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 割れ目を切るとの記載については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 23.45~23.71mに粘土脈を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
24	<ul style="list-style-type: none"> 鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
25	<ul style="list-style-type: none"> 硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分に含めて示しているため削除。 マンガンについては、補足的なものであるため削除。 一部割れ目沿いで砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	層位	層名	層厚	層色	層理	組織分				RQD	最大コア長 (cm)	岩級区分	記事
						塊状	層状	粒状	その他				
23												23	22.91~23.49m 40°前後の割れ目が同方向に分布。これらに直交~60°斜交する60~80°割れ目を切ることがある。 23.45~23.71mに幅1~3m/m軟質白色粘土脈をはさむ80°割れ目が分布。 23.71~24.53mは軟化し硬さ「D」主体。 23.71~23.95m 80~90°の高角度割れ目はマンガン鉱染伴う。 24.06~24.22mは硬さ「C」主体。
24												24	24.37m 45°厚さ2m/m石英脈
25												25	24.53~26.70mは硬さ「C」主体。 上位よりも割れ目がやゝ少なくなる。 24.60~24.92m 80~90°割れ目に厚1~5m/mのマンガン鉱染で黒褐色砂をはさむ。

記事内容
23 22.91~23.49m 40°前後の割れ目が同方向に分布。これらに直交~60°斜交する60~80°割れ目を切ることがある。 23.45~23.71mに幅1~3m/m軟質白色粘土脈をはさむ80°割れ目が分布。 23.71~24.53mは軟化し硬さ「D」主体。 23.71~23.95m 80~90°の高角度割れ目はマンガン鉱染伴う。 24.06~24.22mは硬さ「C」主体。
24 24.37m 45°厚さ2m/m石英脈
25 24.53~26.70mは硬さ「C」主体。 上位よりも割れ目がやゝ少なくなる。 24.60~24.92m 80~90°割れ目に厚1~5m/mのマンガン鉱染で黒褐色砂をはさむ。

標尺 (m)	層位	層名	層厚	層色	層理	組織分	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	最大コア長 (cm)	最大コア長 (cm)	記事	
20							明褐色灰 CL	100	5	0	100	9	0	18.05~18.43m ・珪質化している。
							明褐色灰 CL	100	14	24	100	3	0	20.04~20.93m ・珪質であるが、両層の低い割れ目を含む。
							明褐色灰 CL	100	3	0	100	5	0	22.50~22.64m ・軟質化著しい。
							明褐色灰 CL	100	6	0	100	10	10	・上部に褐色の粘土脈、下部に褐色の砂を伴う。
							明褐色灰 CL	100	18	18	100	8	0	・一部に灰白色の粘土を帯状に含む。
							明褐色灰 CL	100	8	0	100	5	0	●25.70~26.90m ・破砕部である。
							明褐色灰 CL	100	5	0	100	6	0	・左ずれセンスである。
							明褐色灰 CL	100	4	0	100	6	0	・淡黄色粘土・1mm ・走向・傾斜はN10°E81°Wである
							明褐色灰 CL	100	4	0	100	4	0	・傾斜は43°である。 ・上部境界の傾斜は43°、下部境界の傾斜は

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
23	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目の傾斜、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・割れ目を切るとの記載については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・23.45~23.71mに粘土脈を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
24	<ul style="list-style-type: none"> ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
25	<ul style="list-style-type: none"> ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

層区	深度	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	最大コア長	記事
26	25.00~25.81m	化燄斑岩	灰白	D'	100	10	10				一部に灰白色の粘土を帯びる。●26.70~26.90m 破砕部である。主せん断面である。淡黄色の粘土状~灰白色の硬質粘土状を呈する。淡黄色粘土 1mm 走向・傾斜はN15° E61° である。上層境界の傾斜は45°、下層境界の傾斜は54°である。
27	26.22m	明礬灰	灰白	CL	100	8	0				
28	26.70~26.90m	破砕帯	灰白	CL	100	5	0				
29	26.70~26.90m	破砕帯	灰白	CL	100	6	0				
28	26.70~26.90m	破砕帯	灰白	CL	100	4	0				
29	26.70~26.90m	破砕帯	灰白	CL	100	26	36				
28	26.70~26.90m	破砕帯	灰白	CL	100	17	40				
29	26.70~26.90m	破砕帯	灰白	CL	100	10	10				
30	26.90~27.57m	砂礫状	灰白	CL	100	5	0				
31	27.57~28.12m	破砕帯	灰白	CL	100	9	0				
32	28.12~28.14m	破砕帯	灰白	CL	100	8	0				
30	27.57~28.12m	破砕帯	灰白	CL	100	19	43				
31	28.12m	HC-1	灰白	CL	100	16	16				
32	28.12~28.14m	破砕帯	灰白	CL	100	10	10				
32	28.12~28.14m	破砕帯	灰白	CL	100	10	10				

記事内容

25.00~25.81m及び25.09~25.28m 85~90° 割れ目に厚さ1~2m/mで一部マンガン鉱染で黒褐色化した砂はさむ。一部で風化により軟化し硬さ「D」の部分も認められる。25.80m以深で割れ目多くなる。割れ目ぞいに砂状化する部分が多い。

26.22m 50° 割れ目は交差する高角度割れ目を切っている。(左ズレ、5m/m)

●26.70~26.90m 破砕帯(主せん断面26.70m)

26.70m: Hc-1
43° で上下端ともに直線的に連続。石英粒、岩片を含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y8/3)、厚さ1m以下。
26.70~26.90m: Hb
上端43° で直線的に下端54° でやや湾曲して連続。φ2~3m/m石英粒、φ5~10m/m粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む軟質な礫質粘土状を呈する。下端は厚さ1~2m/mの粘土脈。
色調は灰白(2.5Y8/2~7.5YR/2)、厚さ16.0~18.0m/m

26.90~27.57m: D
27.00m以浅は砂礫状。27.00m以深はバラけた礫状を呈するが、27.00m以深も本来は砂状の基質を岩片で形成されていると推定される。

27.57~28.12m: CL
硬さ「C」岩片も残留するが、全体的には硬さ「D」に軟化。割れ目ぞいに薄砂や粘土をはさむことが多い。

●28.12~28.14m 破砕帯(主せん断面28.12m)

28.12m: HC-1
43° で上下端ともに直線的に連続。φ1m/m石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は浅黄(7.5YR/3)、厚さ1~3m/m。
28.12~28.14m: Hj
上端43° で直線的に、下端45~55° で波打って連続。粘土化と砂状化の著しいφ3~5m/m岩片からなり、「粘土混じり、ないし粘土質岩片状」呈する。色調はにぶい黄橙(10YR/4)、厚さ1~3m/m。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
26	<ul style="list-style-type: none"> 硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分に含めて示しているため削除。 マンガンについては、補足的なものであるため削除。 一部割れ目沿いで砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
27	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目については、系統的な変位が認められないため削除。
28, 29	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hb及びHj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
30	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 26.90~27.00mで砂礫状を呈するが、劣化に系統性が認められないことから削除。 27.00~27.57mで岩片状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 27.57~28.12mの一部割れ目に砂や粘土を挟在するが、周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
31, 32	<ul style="list-style-type: none"> カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 表現の見直し(粘土混じり、ないし粘土質岩片状→粘土混じり礫状~粘土質礫状) 粘土の累計幅については、最大値を記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界 位置	地層名	細区分										硬さ 区分	備考	
				割れ目 状態	割れ目 長さ	割れ目 角度	風化	変質	RD	RD	RD	RD	RD			RD
	40.14														50	40.14~40.26m 50~60° 割れ目に厚さ1~2m/mの軟質粘土脈はさむ。
	40.42														50	40.42m以深は岩片自身の軟化が進み、割れ目ぞいの砂状化も拡大する。
	40.79														51	40.79~41.83m: CM 一部の割れ目を除き、割れ目の挟在物は分布しない。
	41.30														52	41.30m以深では密着度の低い割れ目が多い。一部ではすでに開口化している。 41.30m 60° 割れ目ぞいにφ2~4m/m石英が多く晶出している。
	41.83														52	41.83~41.95m: D 上端60° 下端55° 割れ目に囲まれ砂状化する。割れ目と岩組織は不明瞭化。
	41.95														53	41.95~42.78m: CL 割れ目は直下の破碎帯主せん断面と同方向の40~50° 割れ目が主体。 割れ目の多くに粘土脈や砂の薄層をはさむ。 長石の一部が白濁化している。 42.36~42.40m 上下端とも40° 割れ目に囲まれて風化・砂状化。

記事内容
40.14~40.26m 50~60° 割れ目に厚さ1~2m/mの軟質粘土脈はさむ。 40.42m以深は岩片自身の軟化が進み、割れ目ぞいの砂状化も拡大する。
40.79~41.83m: CM 一部の割れ目を除き、割れ目の挟在物は分布しない。
41.30m以深では密着度の低い割れ目が多い。一部ではすでに開口化している。 41.30m 60° 割れ目ぞいにφ2~4m/m石英が多く晶出している。
41.83~41.95m: D 上端60° 下端55° 割れ目に囲まれ砂状化する。割れ目と岩組織は不明瞭化。
41.95~42.78m: CL 割れ目は直下の破碎帯主せん断面と同方向の40~50° 割れ目が主体。 割れ目の多くに粘土脈や砂の薄層をはさむ。 長石の一部が白濁化している。 42.36~42.40m 上下端とも40° 割れ目に囲まれて風化・砂状化。

標尺 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア 長 (cm)	記事
					CL	100	11	11					
					CM	100	9	0			51		40.79~41.83m ・硬質であるが、割れ目が多い。
					CL	100	8	0					
					CL	100	13	33					
					CM	100	11	11					●42.95~42.91m ・破碎帯である。 ・右ずれセンスである。 ・灰白色の砂・硬質じり粘土状~明褐色の 粘土質じり層状を呈する。 ・成成粘土 崩れ層5cm ・走向・傾斜はNS71° である。 ・傾斜は45° である。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は 65° である。 46.14~46.61m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ・上部は長石の多くが白濁化する。 ・一部で割れ目ぞいに、砂状~細片化してい る。
					CL	100	11	21					
					CM	100	11	11					
					CL	100	6	0					
					CL	100	7	0					
					CL	100	4	0					
					CL	100	4	0					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
50	・砂や粘土を挟在するが、いずれも周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
51	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質であるが、割れ目が多いと記載。 ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
52	・割れ目の密着状態・開口状況、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・割れ目や岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・41.83~41.95mで割れ目沿いに砂状化するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
53	・岩級およびその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・一部割れ目に砂や粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・42.36~42.40mで割れ目沿いに砂状化するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

Table with columns for core observation data including depth, lithology, and rock classification. Includes handwritten notes and section markers 58, 59, 60.

記事内容 (Article Content) table with three rows corresponding to sections 58, 59, and 60, detailing geological observations and rock characteristics.

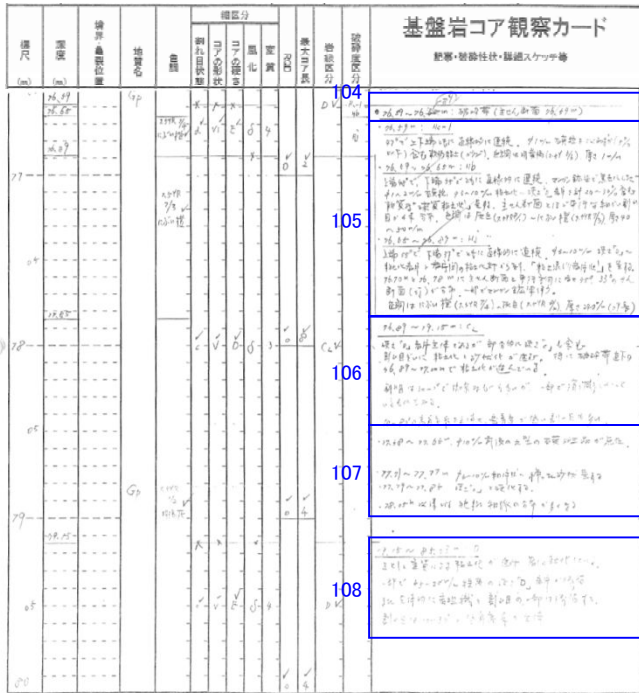
申請書用柱状図 (Application Columnar Diagram) table showing detailed lithological data, including rock type, color, and sampling statistics.

Table with 2 columns: 記事 (Article) and コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図 (Core Observation Card (Aug 2027) ⇒ Application Columnar Diagram). Contains revision notes for sections 58, 59, and 60.

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
104 ●76.59～76.89m 破砕帯(主せん断面76.59m) 76.59m: Hc-1 47°で上下端ともに直線的に連続。φ1m/石英粒をこくわずか(5%以下)含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は明黄褐(2.5Y6/6)、厚さ1m/m。 76.59～76.65m: Hb 上端48°で、下端55°とともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化したφ1～2m/石英粒、φ3～10m/粘土化～硬さ「D」岩片を計20～30%含む軟質な「礫質粘土」呈する。主せん断面とほぼ平行な細かい割れ目が4条分布。色調は灰白(7.5YR8/1)～にぶい橙(7.5YR7/3)、厚さ40～50m/m。 76.65～76.89m: Hj 上端55°で下端37°とともに直線的に連続。φ3～10m/硬さ「D」～粘土化岩片と岩片間の粘土化部からなり、「粘土混じり岩片状」を呈する。 76.70mと76.78mに主せん断面と平行方向に各々55°、33°のせん断面(sj)が分布。一部でマンガン鉱染伴う。 色調はにぶい橙(7.5YR7/4)～灰白(7.5YR8/2)、厚さ240m/m(コア長)。 76.89～79.15m: CL 硬さ「D」岩片主体であるが部分的に硬さ「C」も含む。 割れ目ぞいに粘土化と砂状化が進む。特に破砕帯直下の76.89～77.00mで粘土化が進んでいる。 割れ目はシャープで明瞭なものも多いが、一部で消滅しかかっているものもある。 70～80°の高角度系を主体に、密着度が低い割れ目も多い。 77.58～77.65m φ10m/m前後の大型の石英斑晶が点在。 77.71～77.77m φ5～10m/m細片状～締った砂状呈する。 77.79～77.85 硬さ「C」と硬化する。 78.05m以深では白色粘土細脈の分布が多くなる。 79.15～85.03m: D 主として変質による粘土化が進み、著しく軟化している。 一部でφ5～20m/m程度の硬さ「D」岩片が残留。 また全体的に岩組織と割れ目の一部は残留する。 割れ目は10～30°と低角度系が主体。
105
106
107
108

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	記事
70						明褐色	CL	100	4	0				●59.69～59.75m - 破砕帯である。 - 互ずれ主断面センスである。 - 黄褐色の粘土状～にぶい橙色の砂混じり礫状を呈する。 - 黄褐色粘土: 1mm - 走向・傾斜はN37° E48W°である。 - 傾斜は27°である。 - 上盤境界の傾斜は52°。下盤境界の傾斜は37°である。 69.00～62.23m - 硬質であるが、密着度の低い割れ目が多い。 - 一部割れ目沿いに、砂状化している。 62.82～62.93m - 砂礫状を呈し、白色粘土層を伴う。 64.52～66.39m - 硬質であるが、割れ目が多い。 - 一部割れ目沿いに、薄く砂状化している。 68.06～68.93m - 砂礫状を呈する。 70.10～71.72m - 著しく軟質化している。 - 粘土～砂状化が進み、白色粘土層を伴う。 72.65～73.38m - 著しく軟質化している。 - 一部、細砂礫状を呈する。
						明褐色	D	100	2	0				
						明褐色	D	100	3	0				
						明褐色	D	100	2	0				
						明褐色	D	100	3	0				
						明褐色	D	100	5	0				
						明褐色	D	100	5	0				
						明褐色	D	100	7	0				
						明褐色	D	100	8	0				
						明褐色	D	100	4	0				
						明褐色	D	100	4	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
104, 105	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 表現の見直し(粘土混り岩片状→粘土混じり礫状) ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
106	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 割れ目沿いに砂状化と粘土化が進行しているが、劣化に系統性が認められないことから削除。 割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 割れ目の傾斜、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
107	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 77.71～77.77mで細片状～締まった砂状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 一部で粘土を挟在するが、いずれも連続性や直線性に乏しいため削除。
108	<ul style="list-style-type: none"> 表現の見直し(軟化→軟質化) 岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

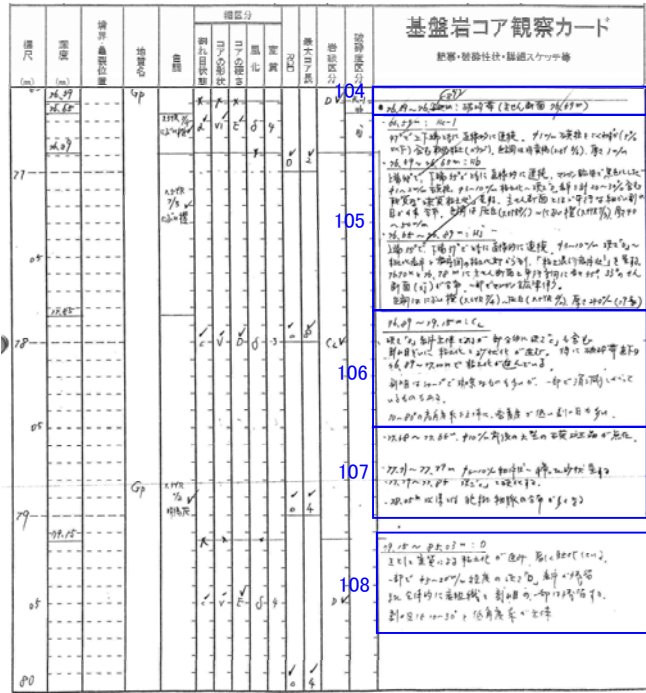


Table with 2 columns: 記事内容 (Article Content) and 記事 (Notes). It lists geological observations for sections 104, 105, 106, 107, and 108, including lithology, grain size, and structural details.

Columnar diagram table with columns for depth (m), lithology, and notes. It provides a visual representation of the core sections and includes detailed handwritten notes for each section.

Summary table with 2 columns: 記事 (Article) and コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図 (Core observation card ⇒ application columnar diagram). It summarizes the key findings and editorial decisions for each section.

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 D.D. (m)	深度 (m)	境界 高さ位置	地層 の 名称	細区分				R Q D	最大 コア 長さ (cm)	記事 番号
				割れ目 の有無	子 粒 の 状態	風 化 度	変 色			
0.5									109	
0.7									110	
2.2									111	
0.9									112	

記事内容	記事番号
80.14~80.31m 幅1m/m、長さ10~20m/mの細脈状にマンガンが密集する。	109
80.36m以深は硬さ「E」「D」(一部「C」)の岩片と、岩片間の粘土化部からなる。	
80.76~81.68m間は割れ目や岩芯の一部がマンガン鉱染を受ける。	
81.70~82.40m 岩片間の基質の一部が風化・褐色化が進む。	110
81.90m~84.40m φ1~2m/mの表面がマンガン化した石英粒(石英斑晶)が黒色で点在する。	
83.30~83.74m 硬さ「C」の硬質岩片が多く残留。	111
83.30~83.50m 岩片間の砂状~粘土化部が風化で褐色化する。	
84.06~84.54m 10~20° 割れ目ぞいに風化で褐色化する。また、硬さ「D」岩片が主体。	
84.54~84.71m砂状化が拡大している。軟質粘土も伴う。岩片部分を除き、岩組織は消滅している。	112

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩 級 区 分	コ ア 採 取 率 (%)	最 大 コ ア 長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	記事
					明徳灰		100	5	0			
					明徳灰	D'	100	4	0			
					明徳灰	D'	100	3	0			
					明徳灰	D'	100	3	0			
					明徳灰	D'	100	3	0			
					明徳灰	D'	100	2	0			
					明徳灰	D'	100	2	0			
					明徳灰	D'	100	3	0			
					明徳灰	D'	100	3	0			

112 84.54~84.71m
・砂状化が進み、軟質粘土も伴う。
85.61~93.25m
・著しく軟質化している。
87.18~91.35m
・砂礫状を呈する。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
109	<ul style="list-style-type: none"> マンガンについては、補足的なものであるため削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 80.36m以深で部分的に粘土化しているが、粘土の連続性や直線性に乏しいことから削除。
110	<ul style="list-style-type: none"> 風化による変色については、補足的なものであるため削除。
111	<ul style="list-style-type: none"> マンガン、変色については、補足的なものであるため削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 83.30~83.50mの一部で砂状~粘土状を呈するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
112	<ul style="list-style-type: none"> 岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標高 SPD (m)	深度 (m)	境界 位置 心位置	地層 名称	色 相	細区分				硬さ RQD	崩壊 区分	崩壊 区分	基盤岩コア観察カード 記事・硬質性状・詳細スケッチ等
					割れ目 の有無	割れ目 の長さ	割れ目 の方向	割れ目 の形状				
81.5											109	80.14~80.31m 幅1m/m、長さ10~20m/mの細脈状にマンガンが密集する。
81.36											109	80.36m以深は硬さ「E」「D」(一部「C」)の岩片と、岩片間の粘土化部からなる。
81.76											110	80.76~81.68m間は割れ目や岩芯の一部がマンガン鉱染を受ける。
81.70											110	81.70~82.40m 岩片間の基質の一部が風化・褐色化が進む。
81.90											111	81.90m~84.40m φ1~2m/mの表面がマンガン化した石英粒(石英斑晶)が黒色で点在する。
83.30											111	83.30~83.74mには硬さ「C」の硬質岩片が多く残留。 83.30~83.50m:岩片間の砂状~粘土化部が風化で褐色化する。
84.06											112	84.06~84.54m 10~20° 割れ目ぞいに風化で褐色化する。 また、硬さ「D」岩片が主体。
84.54											112	84.54~84.71m砂状化が拡大している。軟質粘土も伴う。岩片部分を除き、岩組織は消滅している。

記事内容
80.14~80.31m 幅1m/m、長さ10~20m/mの細脈状にマンガンが密集する。
80.36m以深は硬さ「E」「D」(一部「C」)の岩片と、岩片間の粘土化部からなる。
80.76~81.68m間は割れ目や岩芯の一部がマンガン鉱染を受ける。
81.70~82.40m 岩片間の基質の一部が風化・褐色化が進む。
81.90m~84.40m φ1~2m/mの表面がマンガン化した石英粒(石英斑晶)が黒色で点在する。
83.30~83.74mには硬さ「C」の硬質岩片が多く残留。 83.30~83.50m:岩片間の砂状~粘土化部が風化で褐色化する。
84.06~84.54m 10~20° 割れ目ぞいに風化で褐色化する。 また、硬さ「D」岩片が主体。
84.54~84.71m砂状化が拡大している。軟質粘土も伴う。岩片部分を除き、岩組織は消滅している。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	コア採取率	最大コア長	記事
m	m	m	図	区分	調	区分	(%)	(cm)	(%)	(cm)	
					明徳灰		100	5	0		
					明徳灰		100	4	0		
					明徳灰		100	3	0		
					明徳灰		100	3	0		
					明徳灰		100	3	0		
					明徳灰		100	2	0		
					明徳灰		100	2	0		
					明徳灰		100	3	0		
					明徳灰		100	3	0		

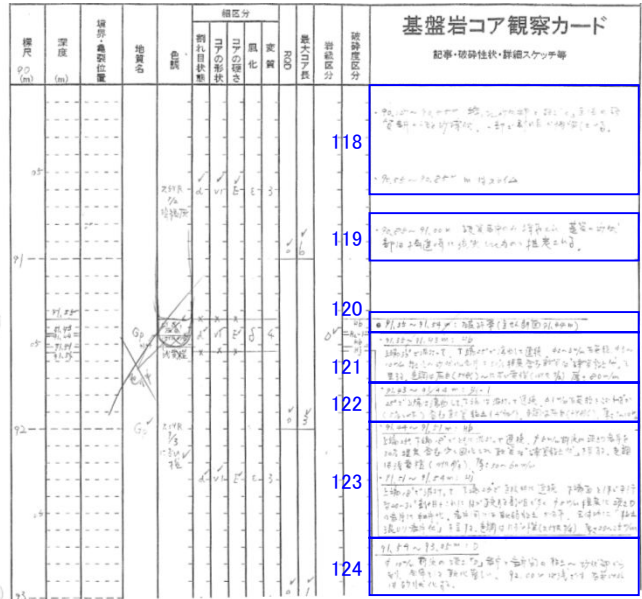
112 84.54~84.71m
・砂状化が進み、軟質粘土も伴う。
85.61~93.25m
・著しく軟質化している。
87.18~91.35m
・砂礫状を呈する。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
109	・マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・80.36m以深で部分的に粘土化しているが、粘土の連続性や直線性に乏しいことから削除。
110	・風化による変色については、補足的なものであるため削除。
111	・マンガン、変色については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・83.30~83.50mの一部で砂状~粘土状を呈するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
112	・岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
118 90.15~90.55m 締った砂状部と硬さ「C」主体の硬質岩片からなる砂礫状。一部で割れ目が残留している。 90.55~90.85mはスライム。
119 90.85~91.00m 硬質岩片のみ採取され、基質の砂状部は掘進時に流失したものと推定される。
120 ●91.35~91.54m 破砕帯(主せん断面91.44m)
121 91.35~91.43m:Hb 上端36°で波打って、下端25°で湾曲して連続。φ2~3m/m石英粒、φ3~10m/m粘土化~砂状化岩片を30%程度含む軟質な「礫質粘土状」を呈する。色調は灰白(5Y8/1)~にぶい黄橙(10YR7/2)、厚さ80m/m
122 91.43~91.44m:Hc-1 25°で上端は湾曲して下端は波打って連続。φ1m/m石英粒をごくわず(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白(5Y8/1)、厚さ7~10m/m
123 91.44~91.51m:Hb 上端25°、下端18°でともに波打って連続。φ5m/m前後の硬さD岩片を30%程度含む少し風化した軟質な「礫質粘土状」を呈する。色調は浅黄橙(10YR8/3)、厚さ30~60m/m
123 91.51~91.54m:Hj 上端18°で波打って、下端20°で直線的に連続。下端面とほぼ平行な20~30°割れ目とこれにほぼ直交する割れ目が多くφ5m/m程度に硬さDの岩片に細片化。岩片間には軟弱粘土が分布。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/4)、厚さ20~25m/m
124 91.54~93.05m:D φ10m/m前後の硬さ「D」岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり、全体として軟化著しい。92.00m以浅では石英以外は砂状化する。

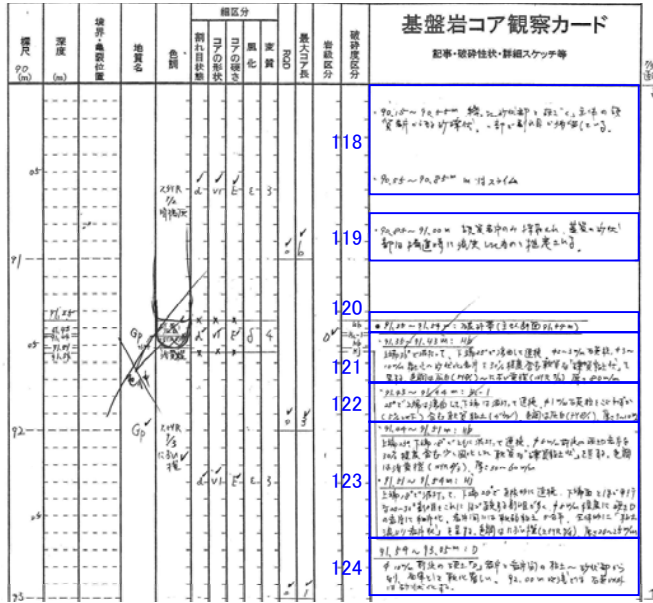
標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア率(%)	記事
90			黄褐色粘岩	にぶい橙	D'	100	3	0				●91.35~91.54m 破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・灰白色の粘土状~灰白~にぶい黄橙~浅黄橙色の礫質粘土状~にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈している。 ・灰白色粘土; 累計厚10mm ・走向・傾斜は約45° 20° 5である。 ・傾斜は25°である。 ・上層境界の傾斜は36°、下層境界の傾斜は20°である。 91.54~92.00m ・石英以外は砂状化している。 92.00~93.05m ・粘土化及び砂状化が著しい。 ●93.00~99.00m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる
						100	6	0				
						100	3	0				
						100	1	0				
						100	3	0				
						100	4	0				
						100	2	0				
						100	2	0				
						100	6	0				
						100	7	0				
100			花崗斑岩	にぶい橙	CL'	100	2	0				
						100	7	0				
						100	2	0				
						100	5	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
118	<ul style="list-style-type: none"> 締まった砂状及び砂礫状を呈するが、記事No.116でまとめ書きしているため削除。 割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 スライム区間については、ポアホールテレビによる観察結果から、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため、コア写真で示すこととし削除。
119	<ul style="list-style-type: none"> 岩片状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
120~123	<ul style="list-style-type: none"> カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなること記載。 表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) 粘土の累計幅については、最大値を記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
124	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
118 90.15~90.55m 締った砂状部と硬さ「C」主体の硬質岩片からなる砂礫状。一部で割れ目が残留している。 90.55~90.85mはスライム。
119 90.85~91.00m 硬質岩片のみ採取され、基質の砂状部は掘進時に流失したものと推定される。
120 ●91.35~91.54m: 波砕帯(主せん断面91.44m)
121 91.35~91.43m:Hb 上端36°で波打って、下端25°で湾曲して連続。φ2~3m/石英粒、φ3~10m/粘土化~砂状化岩片を30%程度含む軟質な「礫質粘土状」を呈する。色調は灰白(5YR/1)~にぶい黄橙(10YR7/2)、厚さ80m/m
122 91.43~91.44m:Hc-1 25°で上端は湾曲して下端は波打って連続。φ1m/石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白(5YR/1)、厚さ7~10m/m
123 91.44~91.51m:Hb 上端25°、下端18°でともに波打って連続。φ5m/前後の硬さD岩片を30%程度含む少し風化した軟質な「礫質粘土状」を呈する。色調は浅黄橙(10YR8/3)、厚さ30~60m/m
123 91.51~91.54m:Hj 上端18°で波打って、下端20°で直線的に連続。下端面とほぼ平行な20~30°割れ目とこれにほぼ直交する割れ目が多くφ5m/m程度に硬さDの岩片に細片化。岩片間には軟弱粘土が分布。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/4)、厚さ20~25m/m
124 91.54~93.05m:D φ10m/m前後の硬さ「D」岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり、全体として軟化著しい。92.00m以浅では石英以外は砂状化する。

標尺	高度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア長(%)	記事
90			黄褐色粘板岩	にぶい橙	D'	100	3	0				●91.35~91.54m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・灰白色の粘土状~灰白~にぶい黄橙~浅黄褐色の礫質粘土状~にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈している。 ・灰白色粘土: 最大径10mm ・走向・傾斜は約45° 20° 5である。 ・傾斜は25°である。 ・上層境界の傾斜は36°、下層境界の傾斜は20°である。 91.54~92.00m ・石英以外は砂状化している。 92.00~92.05m ・粘土化及び砂状化が著しい。 ●92.00~92.05m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる
						100	6	0				
						100	3	0				
						100	1	0				
						100	3	0				
						100	4	0				
						100	2	0				
						100	2	0				
						100	6	0				
						100	7	0				
100			花崗斑岩	にぶい橙	CL'	100	2	0				
						100	7	0				
						100	2	0				
						100	5	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
118	<ul style="list-style-type: none"> ・締まった砂状及び砂礫状を呈するが、記事No.116でまとめ書きしているため削除。 ・割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・スライム区間については、ポアホールテレビによる観察結果から、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため、コア写真で示すこととし削除。
119	<ul style="list-style-type: none"> ・岩片状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
120~123	<ul style="list-style-type: none"> ・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなること記載。 ・表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
124	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、「岩級区分」欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基礎岩コア観察カード										
観察・観察柱状・観測スケッチ等										
孔番号	深度	層名	地質	傾斜	割れ目	割れ目	割れ目	割れ目	割れ目	割れ目
125	93.05~93.66	CL			70~80°					
126	93.66~93.86	D			80°					
127	93.86~99.50	CL			50~70°					
128	95.50~95.71									

記事内容
93.05~93.66m: CL 70~80° 割れ目が多く、割れ目ぞいに厚さ1~3m/m程度の砂状部~粘土化部をはさむ。
93.66~93.86m: D 上下端80° 割れ目に囲まれ粘土化と砂状化が著しい。
93.86~99.50m: CL 50~70° とこれに直交する40~50° 割れ目が多い。 94.43m以浅は硬さ「D」が、94.43m以深は硬さ「C」が主体。 94.25m~94.31mは10~20° 割れ目に囲まれ「砂礫状」を呈する。 94.43m以深では岩片自体は硬さ「B」相当のものも多く含むが割れ目が10~20m/m程度の間隔で交差するため小岩片している。 割れ目の一部はマンガン鉱染受ける。
95.50~95.71mは割れ目から分離、φ10m/m前後に小岩片している。

標尺	高度	柱状	岩種	色	岩級	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア長	記事
90			花崗斑岩	灰褐色	D'		100	3	0				●91.35~91.54m ・破砕部である。カタクレサイトからなる。 ・灰白色の粘土状~灰白~に白い黄緑~淡黄褐色の硬質粘土状~に白い褐色の粘土混じり層状を呈している。 ・灰白色粘土: 累計厚10mm ・走向・傾斜は60° 420° Sである。 ・傾斜は25° である。 ・上層境界の傾斜は36°、下層境界の傾斜は20° である。 91.54~92.00m ・石基以外は砂状化している。 93.16~93.86m ・粘土化及び砂状化が著しい。 ●99.50~99.68m ・破砕部である。カタクレサイトからなる
					D'		100	6	0				
					D'		100	3	0				
					D'		100	1	0				
					D'		100	3	0				
					D'		100	4	0				
					D'		100	2	0				
					D'		100	2	0				
					D'		100	6	0				
					D'		100	7	0				
					D'		100	2	0				
					CL'		100	5	0				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
125	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・一部割れ目に粘土を挟在するが、いずれも連続性に乏しいことから削除。
126	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。
127, 128	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・94.25~94.31mで砂礫状を呈するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・割れ目の傾斜、マンガンについては、補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

凡例	層名	層厚	層位	層位	観察項目		備考
					割れ目	砂礫	
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							

記事内容
125 93.05～93.66m: CL 70～80° 割れ目が多く、割れ目ぞいに厚1～3m/m程度の砂状部～粘土部をはさむ。
126 93.66～93.86m: D 上下端80° 割れ目に囲まれ粘土化と砂状化が著しい。
127 93.86～99.50m: CL 50～70° とこれに直交する40～50° 割れ目が多い。 94.43m以浅は硬さ「D」が、94.43m以深は硬さ「C」が主体。 94.25～94.31mは10～20° 割れ目に囲まれ「砂礫状」を呈する。 94.43m以深では岩片自体は硬さ「B」相当のものも多く含むが割れ目が10～20m/m程度の間隔で交差するため小岩片している。 割れ目の一部はマンガン鉱染を受ける。
128 95.50～95.71mは割れ目から分離、φ10m/m前後に小岩片している。

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	記事
90					D'	100	3	0					
						100	6	0					
						100	3	0					
						100	1	0					
						100	3	0					
						100	4	0					
						100	2	0					
						100	2	0					
						100	6	0					
						100	7	0					
						100	2	0					
						100	5	0					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
125	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・一部割れ目に粘土を挟在するが、いずれも連続性に乏しいことから削除。
126	・岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。
127, 128	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・94.25～94.31mで砂礫状を呈するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・割れ目の傾斜、マンガンについては、補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地層 名	方位	傾度				傾度 計測	傾度 方向	傾度 角度	傾度 説明	傾度 備考	基礎岩コア観察カード	
				傾度	傾度	傾度	傾度						記事	記事
96	95.96											129	95.96m 60° 割れ目に厚さ1m/m灰白色軟質粘土をはさむ。上盤側厚さ約5m/mにマンガン鉱染部を伴う。	
	95.94											130	95.94m~98.05mは硬さ「D」の岩片状コア主体、処々に硬さ「C」も混入する。	
	96.52											130	96.52~97.60m 30~40° と60~70° 割れ目が交差し前者が後者に切られるものもある。(右ズレ3~5m/m)	
	97.07											131	97.07m 幅2~3m/m, 15° 石英脈。劣化は伴わず密着。	
	97.58											132	97.58~97.69m マンガン鉱染が進み黒褐色化。	
	97.69											133	97.69m~97.78m 硬さ「C」岩片中に固結状の幅1~2m/m白色粘土が脈状からφ2~3m/m斑点状で分布する。	

記事内容
129 95.96m 60° 割れ目に厚さ1m/m灰白色軟質粘土をはさむ。上盤側厚さ約5m/mにマンガン鉱染部を伴う。
95.94m~98.05mは硬さ「D」の岩片状コア主体、処々に硬さ「C」も混入する。
130 96.52~97.60m 30~40° と60~70° 割れ目が交差し前者が後者に切られるものもある。(右ズレ3~5m/m)
131 97.07m 幅2~3m/m, 15° 石英脈。劣化は伴わず密着。
132 97.58~97.69m マンガン鉱染が進み黒褐色化。
133 97.69m~97.78m 硬さ「C」岩片中に固結状の幅1~2m/m白色粘土が脈状からφ2~3m/m斑点状で分布する。

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア	最大	R	コア	最大	記事
m	m	m	区分	調	区分	採取	コア	Q	採取	コア	
						率	長	D	率	長	
						(%)	(cm)	(%)		(cm)	
				灰褐色	CL	100	3	0			・灰白色の粘土状~灰白~にふい青緑~黄褐色の硬質粘土状~にふい褐色の粘土混じり層状を呈している。 ・灰白色粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜は64° 82° Sである。 ・傾斜は25° である。 ・上盤境界の傾斜は36°、下盤境界の傾斜は20° である。 91.54~92.00m ・石英以外は砂状化している。 93.06~93.08m ・粘土化及び砂状化が著しい。 ●99.50~99.60m ・硬結部である。カタクレサイトからなる ・灰白色の砂混じり粘土状~珉黄緑~褐色の粘土・砂混じり層状を呈する。 ・灰白色砂混じり粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜は15° 89° Eである。 ・傾斜は25° である。 ・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は37° である。 102.00~104.20m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~塊状を呈する。
				灰褐色	CL	100	4	0			
				灰褐色	CL	100	2	0			
				灰褐色	CL	100	6	0			
				灰褐色	CL	100	7	0			
				灰褐色	CL	100	2	0			
				灰褐色	CL	100	5	0			
				灰褐色	CL	100	8	0			
				灰褐色	CM	100	12	12			
				灰褐色	CM	100	8	0			
				灰褐色	CH	100	12	23			
				灰褐色	CH	100	18	31			
				灰褐色	CM	100	10	10			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
129	<ul style="list-style-type: none"> 粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。 マンガンについては、補足的なものであるため削除。
130	<ul style="list-style-type: none"> 硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 96.52~97.60mで割れ目が切られるとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
131	<ul style="list-style-type: none"> 鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
132	<ul style="list-style-type: none"> マンガン、変色については、補足的なものであるため削除。
133	<ul style="list-style-type: none"> 粘土を挟在するが、系統的でなく、連続性や直線性に乏しいことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基礎岩コア観察カード	
観察・記録責任者・編纂者	
標尺 (m)	深度 (m)
層区分	層区分
色	色
質	質
構造	構造
付帯	付帯
備考	備考
129	95.96m 60° 割れ目に厚1m/m灰白色軟質粘土をはさむ。上盤側厚さ約5m/mにマンガン鉱染部を伴う。
130	95.94m~98.05mは硬さ「D」の岩片状コア主体、処々に硬さ「C」も混入する。
131	97.07m 幅2~3m/m, 15° 石英脈。劣化は伴わず密着。
132	97.58~97.69m マンガン鉱染が進み黒褐色化。
133	97.69m~97.78m 硬さ「C」岩片中に固結状の幅1~2m/m白色粘土が脈状φ2~3m/m斑点状で分布する。

記事内容	
129	95.96m 60° 割れ目に厚1m/m灰白色軟質粘土をはさむ。上盤側厚さ約5m/mにマンガン鉱染部を伴う。
130	95.94m~98.05mは硬さ「D」の岩片状コア主体、処々に硬さ「C」も混入する。
131	97.07m 幅2~3m/m, 15° 石英脈。劣化は伴わず密着。
132	97.58~97.69m マンガン鉱染が進み黒褐色化。
133	97.69m~97.78m 硬さ「C」岩片中に固結状の幅1~2m/m白色粘土が脈状φ2~3m/m斑点状で分布する。

標尺 (m)	深度 (m)	柱状	岩種区分	色	質	構造	付帯	備考
100	95.96	+	CL	灰白色	軟質	割れ目	マンガン	
100	95.94	+	D	灰白色	硬質	岩片状		
100	97.07	+	CL	灰白色	軟質	石英脈		
100	97.58	+	CL	黒褐色	軟質			
100	97.69	+	CH	白色	固結	脈状		

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
129	・粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
130	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・96.52~97.60mで割れ目が切られるとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
131	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
132	・マンガン、変色については、補足的なものであるため削除。
133	・粘土を挟在するが、系統的でなく、連続性や直線性に乏しいことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基盤岩コア観察カード		記事内容	
層号	層厚	記事内容	記事内容
134		98.02m 幅2~5m/m, 30° 石英脈。一部で褐色割れ目化する。	98.02m 幅2~5m/m, 30° 石英脈。一部で褐色割れ目化する。
135		98.19~98.92m 硬さ「C」主体。割れ目の面は褐色化するものが多い。割れ目ぞいに軟化する部分もある。	98.19~98.92m 硬さ「C」主体。割れ目の面は褐色化するものが多い。割れ目ぞいに軟化する部分もある。
136		98.92~99.50m 硬さ「D」主体。全体に軟化しているが風化、変質は弱い。	98.92~99.50m 硬さ「D」主体。全体に軟化しているが風化、変質は弱い。
136		●99.50~99.68m 破碎帯(主せん断面99.56m)	●99.50~99.68m 破碎帯(主せん断面99.56m)
137		99.50~99.56m:Hj 上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。主せん断面とほぼ平行な割れ目数条と、これに直交~60°斜交する割れ目でφ5~10m/m硬さ「E」の岩片に細片化。岩片間に幅1~3m/m白色軟弱粘土が脈状に分布し「粘土混じり岩片状」を呈する。一部にマンガン鉱染伴う。	99.50~99.56m:Hj 上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。主せん断面とほぼ平行な割れ目数条と、これに直交~60°斜交する割れ目でφ5~10m/m硬さ「E」の岩片に細片化。岩片間に幅1~3m/m白色軟弱粘土が脈状に分布し「粘土混じり岩片状」を呈する。一部にマンガン鉱染伴う。
138		色調は明黄褐(10YR6/6)、厚さ45m/m	色調は明黄褐(10YR6/6)、厚さ45m/m
139		99.56~99.57m:Hc-2 38°で上下端とも波打って連続。φ1~3m/mの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒10%程度含む半固結状粘土(ガウジ)。	99.56~99.57m:Hc-2 38°で上下端とも波打って連続。φ1~3m/mの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒10%程度含む半固結状粘土(ガウジ)。
140		99.57~99.68m:Hj 上端45°で波打って、下端37°で直線的に連続。主せん断面と平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目が多く、φ5~20m/mに岩片化。岩片間には粘土は殆んど分布せず砂状部をはさむ「砂混じり岩片状」を呈し、マンガン鉱染の黒っぽい色調の褐灰(10YR4/3)で厚さ85m/m	99.57~99.68m:Hj 上端45°で波打って、下端37°で直線的に連続。主せん断面と平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目が多く、φ5~20m/mに岩片化。岩片間には粘土は殆んど分布せず砂状部をはさむ「砂混じり岩片状」を呈し、マンガン鉱染の黒っぽい色調の褐灰(10YR4/3)で厚さ85m/m

記事内容	記事内容
98.02m 幅2~5m/m, 30° 石英脈。一部で褐色割れ目化する。	98.02m 幅2~5m/m, 30° 石英脈。一部で褐色割れ目化する。
98.19~98.92m 硬さ「C」主体。割れ目の面は褐色化するものが多い。割れ目ぞいに軟化する部分もある。	98.19~98.92m 硬さ「C」主体。割れ目の面は褐色化するものが多い。割れ目ぞいに軟化する部分もある。
98.92~99.50m 硬さ「D」主体。全体に軟化しているが風化、変質は弱い。	98.92~99.50m 硬さ「D」主体。全体に軟化しているが風化、変質は弱い。
●99.50~99.68m 破碎帯(主せん断面99.56m)	●99.50~99.68m 破碎帯(主せん断面99.56m)
99.50~99.56m:Hj 上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。主せん断面とほぼ平行な割れ目数条と、これに直交~60°斜交する割れ目でφ5~10m/m硬さ「E」の岩片に細片化。岩片間に幅1~3m/m白色軟弱粘土が脈状に分布し「粘土混じり岩片状」を呈する。一部にマンガン鉱染伴う。	99.50~99.56m:Hj 上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。主せん断面とほぼ平行な割れ目数条と、これに直交~60°斜交する割れ目でφ5~10m/m硬さ「E」の岩片に細片化。岩片間に幅1~3m/m白色軟弱粘土が脈状に分布し「粘土混じり岩片状」を呈する。一部にマンガン鉱染伴う。
色調は明黄褐(10YR6/6)、厚さ45m/m	色調は明黄褐(10YR6/6)、厚さ45m/m
99.56~99.57m:Hc-2 38°で上下端とも波打って連続。φ1~3m/mの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒10%程度含む半固結状粘土(ガウジ)。	99.56~99.57m:Hc-2 38°で上下端とも波打って連続。φ1~3m/mの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒10%程度含む半固結状粘土(ガウジ)。
99.57~99.68m:Hj 上端45°で波打って、下端37°で直線的に連続。主せん断面と平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目が多く、φ5~20m/mに岩片化。岩片間には粘土は殆んど分布せず砂状部をはさむ「砂混じり岩片状」を呈し、マンガン鉱染の黒っぽい色調の褐灰(10YR4/3)で厚さ85m/m	99.57~99.68m:Hj 上端45°で波打って、下端37°で直線的に連続。主せん断面と平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目が多く、φ5~20m/mに岩片化。岩片間には粘土は殆んど分布せず砂状部をはさむ「砂混じり岩片状」を呈し、マンガン鉱染の黒っぽい色調の褐灰(10YR4/3)で厚さ85m/m

標尺	標高	深度	柱状	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア長	記事
m	m	m	図				(%)	(cm)	(%)			(m)	
				花崗斑岩	灰褐色	CL	100	3	0				・灰白色の粘土状~灰白~にぶい黄緑~淡黄褐色の硬質粘土状~にぶい褐色の粘土混じり層状を呈している。
				花崗斑岩	灰褐色	CL	100	4	0				・灰白色粘土。累計厚10mm
				花崗斑岩	灰褐色	CL	100	2	0				・走向・傾斜は64° 82° Sである。
				花崗斑岩	灰褐色	CL	100	2	0				・傾斜は25°である。
				花崗斑岩	灰褐色	CL	100	6	0				・上盤境界の傾斜は36°、下盤境界の傾斜は20°である。
				花崗斑岩	灰褐色	CL	100	7	0				91.54~92.00m
				花崗斑岩	灰褐色	CL	100	5	0				・石英以外は砂状化している。
				花崗斑岩	灰褐色	CL	100	2	0				93.06~93.08m
				花崗斑岩	灰褐色	CL	100	8	0				・粘土化及び砂状化が著しい。
				花崗斑岩	灰褐色	CL	100	12	12			136~140	●99.50~99.68m
				花崗斑岩	灰褐色	CM	100	8	0				・破碎部である。カタクレーサイトからなる
				花崗斑岩	灰褐色	CH	100	12	23				・灰白色の砂混じり粘土状~明黄緑~褐色の粘土・砂混じり層状を呈する。
				花崗斑岩	灰褐色	CH	100	8	0				・灰白色砂混じり粘土。累計厚10mm
				花崗斑岩	灰褐色	CH	100	12	23				・走向・傾斜は15° 89° Eである。
				花崗斑岩	灰褐色	CH	100	18	31				・傾斜は25°である。
				花崗斑岩	灰褐色	CH	100	10	10				・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は37°である。
				花崗斑岩	灰褐色	CH	100	10	10				102.00~104.28m
				花崗斑岩	灰褐色	CH	100	10	10				・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~層状状を呈する。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
134	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
135	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・割れ目の変色については、補足的なものであるため削除。 ・98.92~99.50mの風化・変質の程度については、周囲と明瞭な差が認められないことから削除。
136~140	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなること記載。 ・表現の見直し(粘土混じり岩片状及び砂混じり岩片状→粘土・砂混じり礫状) ・φ1~3mmの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒10%程度含むとの記載に基づき、砂混じり粘土状と記載。 ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破碎部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・破碎度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基盤岩コア観察カード									
観察・観察柱状・補綴スケッチ等									
層位	層厚	層名	色	質	構造	付帯	備考	層位	層厚
134								134	
135								135	
136								136	
137								137	
138								138	
139								139	
140								140	

記事内容
98.02m 幅2~5m/m, 30° 石英脈。一部で褐色割れ目化する。
98.19~98.92m 硬さ「C」主体。 割れ目の面は褐色化するものが多い。 割れ目ぞいに軟化する部分もある。
98.92~99.50m 硬さ「D」主体。全体に軟化しているが風化、変質は弱い。
●99.50~99.68m 破砕帯(主せん断面99.56m)
99.50~99.56m:Hj 上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。主せん断面とほぼ平行な割れ目数条と、これに直交~60°斜交する割れ目でφ5~10m/m硬さ「E」の岩片に細片化。岩片間に幅1~3m/m白色軟弱粘土が脈状に分布し「粘土混じり岩片状」を呈する。一部にマンガン鉱染伴う。
138 色調は明黄褐(10YR6/6)、厚さ45m/m
99.56~99.57m:Hc-2 38°で上下端とも波打って連続。φ1~3m/mの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒10%程度含む半固結状粘土(ガウジ)。 色調は灰白(7.5YR8/2)、厚さ5~10m/m
99.57~99.68m:Hj 上端45°で波打って、下端37°で直線的に連続。主せん断面と平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目が多く、φ5~20m/mに岩片化。岩片間には粘土は殆んど分布せず砂状部をはさむ「砂混じり岩片状」を呈し、マンガン鉱染のため黒っぽい色調の褐灰(10YR4/3)で厚さ85m/m

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア長	記事	
m	m	m	図	区分			(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(m)		
				花崗斑岩	灰褐色	CL	100	3	0					・灰白色の粘土状~灰白~にぶい黄緑~淡黄褐色の硬質粘土状~にぶい褐色の粘土混じり塊状を呈している。 ・灰白色粘土・累計厚10mm ・走向・傾斜は64° 820° Sである。 ・傾斜は25°である。 ・上盤境界の傾斜は36°、下盤境界の傾斜は20°である。 91.54~92.00m ・石英以外は砂状化している。 93.06~93.08m ・粘土化及び砂状化が著しい。 ●99.50~99.68m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる ・灰白色の砂混じり粘土状~明黄褐色~褐色の粘土・砂混じり岩片状を呈する。 ・灰白色砂混じり粘土・累計厚10mm ・走向・傾斜は15° 899° Eである。 ・傾斜は25°である。 ・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は37°である。 102.00~104.28m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~塊状を呈する。
					灰褐色	CL	100	4	0					
					明褐色	CL	100	2	0					
					にぶい色	CL	100	6	0					
					灰褐色	CL	100	7	0					
					にぶい色	CL	100	2	0					
					灰褐色	CL	100	5	0					
					にぶい色	CL	100	8	0					
					褐灰	CM	100	12	12			136~140		
					にぶい色	CH	100	8	0					
						CH	100	12	23					
						CM	100	18	31					
						CM	100	10	10					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
134	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
135	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・割れ目の変色については、補足的なものであるため削除。 ・98.92~99.50mの風化・変質の程度については、周囲と明瞭な差が認められないことから削除。
136~140	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し(粘土混じり岩片状及び砂混じり岩片状→粘土・砂混じり礫状) ・φ1~3mmの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒10%程度含むとの記載に基づき、砂混じり粘土状と記載。 ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

穴深 (m)	標高 (m)	層位 記号	地質 記号	地質 名称	硬さ		形状		備考
					R	Q	D	形状	
103.24									
103.48									
104.28									
105.88									

記事内容
103.24m, 203.48mのいずれも65° 割れ目は交差する割れ目を切り(変位量不明), 前者で厚さ2~3m/m, 後方で2m/m程度の砂をはさむ。マンガンも伴う。
103.94~104.0m 風化で淡褐色化し軟化する。
104.28~105.88m: CH 堅硬で塊状 一部でゆ着割れ目(白い筋状のもの)が分布するが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	記事
				花崗斑岩		GL	100	2	0								93.06~93.80m ・粘土化及び砂状化が著しい。 ●93.50~99.80m ・破砕部である。カタクレサイトからなる
				花崗斑岩		GL	100	5	0								・灰白色の砂混じり粘土状~明黄緑~褐色の粘土・砂混じり砂状を呈する。
				花崗斑岩		GL	100	8	0	*							・灰白色砂混じり粘土・黒許厚10mm ・走向・傾斜は15° 45' である。
				花崗斑岩		GL	100	12	12	*							・傾斜は33° である。
				花崗斑岩		GL	100	8	0	*							・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は37° である。
				花崗斑岩		GL	100	12	23	*							102.00~104.20m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~粗粒状を呈する。
				花崗斑岩		GL	100	18	31	*							104.28~105.88m ・硬質で割れ目が少なく、塊状を呈する。
				花崗斑岩		GL	100	10	10	*							105.88~110.00m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~粗粒状を呈する。
				花崗斑岩		GL	100	7	0	*							
				花崗斑岩		GL	100	10	10	*							
				花崗斑岩		GL	100	15	25	*							

記事	変更理由
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
143	・103.24mと103.48mで割れ目を切りとの記載があり、一部で砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・マンガン、色調については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
144	・岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・“コアの硬さ”欄、“コアの形状”欄に基づき、硬質、柱状と記載。 ・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

深さ (m)	層名	層の厚さ (m)	層の性状	色調	割れ目		備考	その他
					割れ目の性状	割れ目の方向		
103.24								103.24m, 103.48mのいずれも65° 割れ目は交差する割れ目を切り(変位量不明), 前者で厚さ2~3m/m, 後者で2m/m程度の砂をはさむ。マンガンも伴う。
103.94								103.94~104.0m 風化で淡褐色化し軟化する。
104.28								104.28~105.88m: CH 堅硬で塊状 一部でゆ着割れ目(白い筋状のもの)が分布するが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。

記事内容
103.24m, 103.48mのいずれも65° 割れ目は交差する割れ目を切り(変位量不明), 前者で厚さ2~3m/m, 後者で2m/m程度の砂をはさむ。マンガンも伴う。
103.94~104.0m 風化で淡褐色化し軟化する。
104.28~105.88m: CH 堅硬で塊状 一部でゆ着割れ目(白い筋状のもの)が分布するが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	記事
		100		花崗斑岩		GL	100	2	0			93.06~93.80m		・粘土化及び砂状化が著しい。 ●93.50~99.80m ・破砕部である。カタクレサイトからなる
		100		花崗斑岩		GL	100	5	0			93.80~99.80m		・灰白色の砂混じり粘土状~明黄緑~褐色の粘土・砂混じり硬状を呈する。 ・灰白色砂混じり粘土・累計厚10mm ・走向・傾斜は15° 30° である。 ・傾斜は30° である。
		100		花崗斑岩		CM	100	12	12			102.00~104.20m		・上層境界の傾斜は43°、下層境界の傾斜は37° である。 ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。
		100		花崗斑岩		CH	100	8	0			104.28~105.88m		・硬質で割れ目が少なく、塊状を呈する。
		100		花崗斑岩		CH	100	12	23			105.88~110.00m		・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。
		100		花崗斑岩		CM	100	18	31					
		100		花崗斑岩		CM	100	10	10					
		100		花崗斑岩		CM	100	7	0					
		100		花崗斑岩		CM	100	10	10					
		100		花崗斑岩		CM	100	15	25					

記事	変更理由
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
143	・103.24mと103.48mで割れ目を切りとの記載があり、一部で砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・マンガン、色調については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
144	・岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・“コアの硬さ”欄、“コアの形状”欄に基づき、硬質、柱状と記載。 ・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺		深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	最大コア長	記事
cm	m												
120	119.00	119.00	+	補灰	100	21	36						117.39~119.00m ・短柱~柱状を呈する。 ・下部に割れ目が多いが、該在物は見られない。
	119.11	119.11	+	補灰	100	3	0						119.14~119.30m ・暗緑灰色の礫状を呈する。 ・119.11~119.25m(D-1破砕帯) ・破砕帯である。 ・主層層レンズである。 ・緑灰色の粘土状~にぶい礫~暗緑灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・緑灰色粘土、累計幅10mm ・走向・傾斜は60° E57 Nである。 ・傾斜は60°である50。 ・上盤境界の傾斜は、下盤境界の傾斜は47である。
	119.16	119.16	+	補灰	100	3	0						
	119.18	119.18	+	補灰	100	3	0						
	119.25	119.25	+	補灰	100	3	0						
	120.00	120.00	+	補灰	100	3	0						

記事内容	
160	119.00~119.11m:CL 風化と変質が進み全体が軟化する。
161	●119.11~119.25m 破砕帯(主せん断面119.18m) アブライト(Ap)貫入部の破砕帯
162	119.11~119.16m:Hj 上端50°で直線的、下端60°で波打って連続。φ5~10m/m角礫状岩片からなり、岩片間は幅1m/m以下で白色、1~3m/mで緑灰色のいずれも軟弱粘土をはさみ「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調はにぶい橙(7.5YR7/4)~暗緑灰(10G4/1)、厚さ30m/m
163	119.16~119.18m:Hc-1 60°で上端波打ち、下端は直線的に連続。φ1m/m石英をわずかに含む軟弱粘土(ガウジ)。 色調は緑灰(10G5/1)、厚さ7~10m/m
164	119.18~119.25m:Hj 117~120m コアノ箱なし。
165	上端60°で直線的に、下端43°で波打って連続。主せん断面とほぼ平行~これと斜交する割れ目でφ2~5m/mに細片化。岩片間の一部は幅1m/m緑灰色粘土細脈が多く分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調は暗緑灰(10G4/1)、厚さ40m/m

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	最大コア長	記事
m	m	m	図			(%)	(cm)	(%)				
	117.39		+	補灰	100	21	36					117.39~119.00m ・短柱~柱状を呈する。 ・下部に割れ目が多いが、該在物は見られない。
	119.14		+	補灰	100	3	0					119.14~119.30m ・暗緑灰色の礫状を呈する。 ・119.11~119.25m(D-1破砕帯) ・破砕帯である。 ・主層層レンズである。 ・緑灰色の粘土状~にぶい礫~暗緑灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・緑灰色粘土、累計幅10mm ・走向・傾斜は60° E57 Nである。 ・傾斜は60°である50。 ・上盤境界の傾斜は、下盤境界の傾斜は47である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
160	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、「岩級区分」欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
161~165	<ul style="list-style-type: none"> ・破砕帯名を記載。 ・薄片観察の結果で得られた、最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・「傾斜は60°である50。上盤境界の傾斜は60°」は、「傾斜は60°である。上盤境界の傾斜は50°」の誤り。^{※2} ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・「色調」欄に基づき、暗緑灰色と記載。 ・「コアの形状」欄及び、区間内に破砕部が分布することから、礫状とまとめ書き。

深さ (m)	層名	地質	備考	観察項目		観察結果	備考	深さ (m)	層名	地質	備考	観察項目		観察結果	備考
				割れ目	付着物							割れ目	付着物		
119.25							166								
120.02							167								
121.60							168								
122.61							169								
123.63							170								

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
119.25～120.10m:CL 風化で全体が軟化するが、硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留。 割れ目の一部に厚さ2m/mの緑灰色・緑泥石粘土脈をはさむ。 下端の120.02～120.09mは割れ目ぞいに砂状化進む。 120.09～120.10m 60°、厚さ10～15m/m緑泥石脈で軟化している。
120.10～125.90m:CH 堅硬、塊状。 割れ目挟在物は分布せず、面もほとんど未風化・新鮮。 長石の白濁化は殆んど認められない。 121.60m 仰着割れ目が開口割れ目化している。
122.36m 65° 割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出。
122.61m 60° 割れ目厚さ2m/mの褐色砂はさむ。
123.63～123.67m 割れ目ぞいに片状化するが岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴なわない。

申請書用柱状図



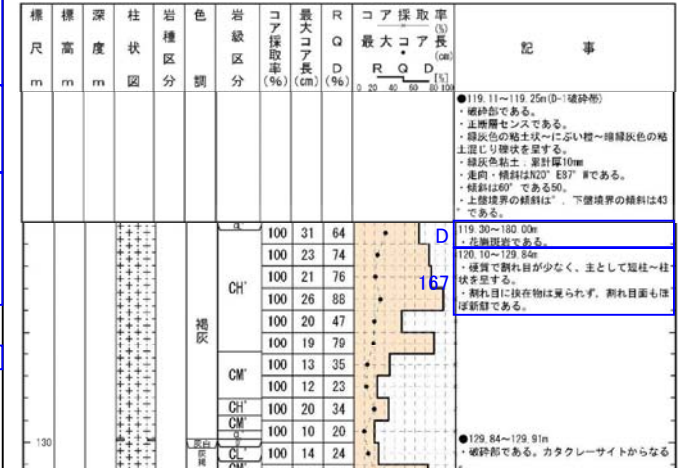
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
166	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化し、粘土を挟在するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
167	<ul style="list-style-type: none"> ・“コアの形状”欄に基づき、下端深度を129.84m、短柱～柱状と記載。 ・“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
168	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目の密着状態・開口状況、割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
169	<ul style="list-style-type: none"> ・砂を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・“地質名”欄に基づき、花崗斑岩及びその深度区間を記載。
170	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目沿いに片状化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

凡例	深度 (m)	地質名	色	状態	割れ目	備考	観察項目		備考
							硬さ	割れ目	
	119.25	CL	緑灰色	粘泥石粘土脈	はさむ		166		
	120.02	CH	堅硬塊状				167		
	121.60	CH	割れ目	開口割れ目	目化している		168		
	122.36	CH	割れ目	一部に黄鉄鉱	が晶出		169		
	122.61	CH	割れ目	厚2m/m	の褐色砂	はさむ	170		
	123.63	CH	割れ目	ぞいに片状化する	が岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴わない				

記事内容
119.25～120.10m: CL 風化で全体が軟化するが、硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留。 割れ目の一部に厚さ2m/mの緑灰色・緑泥石粘土脈をはさむ。 下端の120.02～120.09mは割れ目ぞいに砂状化進む。 120.09～120.10m 60°、厚さ10～15m/m緑泥石脈で軟化している。
120.10～125.90m: CH 堅硬、塊状。 割れ目挟在物は分布せず、面もほとんど未風化・新鮮。 長石の白濁化は殆んど認められない。
121.60m 仰着割れ目が開口割れ目化している。
122.36m 65° 割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出。
122.61m 60° 割れ目厚2m/mの褐色砂はさむ。
123.63～123.67m 割れ目ぞいに片状化するが岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴わない。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
166	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・一部割れ目沿いに砂状化し、粘土を挟在するが、岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。 ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
167	・“コアの形状”欄に基づき、下端深度を129.84m、短柱～柱状と記載。 ・“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
168	・割れ目の密着状態・開口状況、割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
169	・砂を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
D	・“地質名”欄に基づき、花崗斑岩及びその深度区間を記載。
170	・割れ目沿いに片状化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基礎岩コア観察カード									
観察・観察柱・観察スケッチ等									
深さ	層名	層厚	色	状態	特徴	備考	観察者	観察日	観察時間
128.05	CH				堅硬。				
128.05~129.00	CH				128.05~129.00mにゆ着割れ目か開口割れ目化した80~90°割れ目が波打ちながら連続するが一部を除き片状化は認められない。				
128.78	CM				128.78m 33°割れ目に砂、φ2~3m/m細片化岩片を厚さ1~4m/mではさむ。				
128.78~129.47	CM				128.78~129.47m:CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが、大半は密着度高く、ハンマーの強打で分離しない。 割れ目挟在物は殆んど分布しない。				
129.47~129.84	CL				129.47~129.84m:CL 密着度の低いゆ着割れ目が多く分布する。 挟在物は殆んど分布しない。				
129.84~129.91	破砕帯				●129.84~129.91m 破砕帯(主せん断面129.84m)				
129.84~129.85	Hc-2				129.84~129.85m:Hc-2 70°で上端直線的、下端は波打って連続。φ1~3m/m石英粒、φ2~3m/m岩片を10~20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は緑灰(10G5/1)、厚さ2~5m/mで一部厚さ0.5m/mのフィルム状部分もある。				
129.85~129.91	Hj				129.85~129.91:Hj 上端70°で波打って、下端60~70°で少し湾曲して連続。φ2~5m/mに細岩片化し、岩片間は粘土~砂状化する。粘土量は他のHjに比べ多い。全体的に「粘土質岩片状」を呈する。 色調はオリープ灰色をおびた灰白(7.5Y7/1)厚さ25~35m/m				

記事内容
128.05~128.78m:CH 堅硬。
128.05~129.00mにゆ着割れ目か開口割れ目化した80~90°割れ目が波打ちながら連続するが一部を除き片状化は認められない。
128.78m 33°割れ目に砂、φ2~3m/m細片化岩片を厚さ1~4m/mではさむ。
128.78~129.47m:CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが、大半は密着度高く、ハンマーの強打で分離しない。 割れ目挟在物は殆んど分布しない。
129.47~129.84m:CL 密着度の低いゆ着割れ目が多く分布する。 挟在物は殆んど分布しない。
●129.84~129.91m 破砕帯(主せん断面129.84m)
129.84~129.85m:Hc-2 70°で上端直線的、下端は波打って連続。φ1~3m/m石英粒、φ2~3m/m岩片を10~20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は緑灰(10G5/1)、厚さ2~5m/mで一部厚さ0.5m/mのフィルム状部分もある。
129.85~129.91:Hj 上端70°で波打って、下端60~70°で少し湾曲して連続。φ2~5m/mに細岩片化し、岩片間は粘土~砂状化する。粘土量は他のHjに比べ多い。全体的に「粘土質岩片状」を呈する。 色調はオリープ灰色をおびた灰白(7.5Y7/1)厚さ25~35m/m



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
174	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、「岩級区分」欄で示しているため削除。 硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。
175	<ul style="list-style-type: none"> 砂や岩片を挟在するが、連続性に乏しく周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
176	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、「岩級区分」欄で示していることから削除。 割れ目の密着状態、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
177~180	<ul style="list-style-type: none"> カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 表現の見直し(粘土質岩片状→粘土質礫状) φ1~3mm石英粒、φ2~3mm岩片を10~20%含むとの記載に基づき、礫混じり粘土状と記載。 粘土の累計幅については、最大値を記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基礎岩コア観察カード										
観察・観察状況・観察スケッチ等										
深さ	層名	岩種	色	状態	割れ目	割れ目	割れ目	割れ目	割れ目	割れ目
128.05	CH	堅硬								
128.78	CM	白い筋状の								
129.84	Hc-2	70°で								
129.85	Hj	上端70°								

記事内容
128.05~128.78m: CH 堅硬。 128.05~129.00mにゆ着割れ目か開口割れ目化した80~90°割れ目が波打ちながら連続するが一部を除き片状化は認められない。
128.78m 33°割れ目に砂、φ2~3m/m細片化岩片を厚さ1~4m/mはさむ。
128.78~129.47m: CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが、大半は密着度高く、ハンマーの強打で分離しない。 割れ目挟在物は殆んど分布しない。
129.47~129.84m: CL 密着度の低いゆ着割れ目が多く分布する。 挟在物は殆んど分布しない。
●129.84~129.91m: 破砕帯(主せん断面129.84m)
129.84~129.85m: Hc-2 70°で上端直線的、下端は波打って連続。φ1~3m/m石英粒、φ2~3m/m岩片を10~20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は緑灰(10G5/1)、厚さ2~5m/mで一部厚さ0.5m/mのフィルム状部分もある。
129.85~129.91: Hj 上端70°で波打って、下端60~70°で少し湾曲して連続。φ2~5m/mに細岩片化し、岩片間は粘土~砂状化する。粘土量は他のHjに比べ多い。全体的に「粘土質岩片状」を呈する。 色調はオリーブ灰色をおびた灰白(7.5Y7/1)厚さ25~35m/m



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
174	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、「岩級区分」欄で示しているため削除。 硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。
175	<ul style="list-style-type: none"> 砂や岩片を挟在するが、連続性に乏しく周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
176	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、「岩級区分」欄で示していることから削除。 割れ目の密着状態、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
177~180	<ul style="list-style-type: none"> カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 表現の見直し(粘土質岩片状→粘土質礫状) φ1~3mm石英粒、φ2~3mm岩片を10~20%含むとの記載に基づき、礫混じり粘土状と記載。 粘土の累計幅については、最大値を記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。

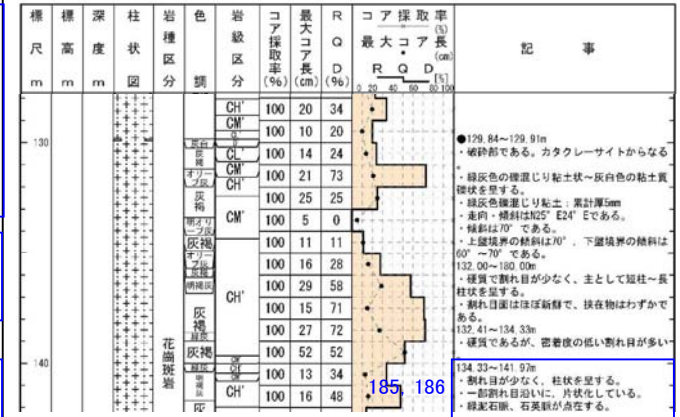
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基盤岩コア観察カード										
観察・製図者・採掘スケッチ等										
標高 (m)	深度 (m)	層位	層名	層厚	観察			備考	採掘者	採掘日
					色	質	割れ目			
133.00	133.00	133.00	133.00	133.00	133.00	133.00	133.00	133.00	133.00	133.00
133.39	133.39	133.39	133.39	133.39	133.39	133.39	133.39	133.39	133.39	133.39
134.35	134.35	134.35	134.35	134.35	134.35	134.35	134.35	134.35	134.35	134.35
134.56	134.56	134.56	134.56	134.56	134.56	134.56	134.56	134.56	134.56	134.56
134.70	134.70	134.70	134.70	134.70	134.70	134.70	134.70	134.70	134.70	134.70
134.85	134.85	134.85	134.85	134.85	134.85	134.85	134.85	134.85	134.85	134.85
135.76	135.76	135.76	135.76	135.76	135.76	135.76	135.76	135.76	135.76	135.76
136.09	136.09	136.09	136.09	136.09	136.09	136.09	136.09	136.09	136.09	136.09
136.33	136.33	136.33	136.33	136.33	136.33	136.33	136.33	136.33	136.33	136.33
136.56	136.56	136.56	136.56	136.56	136.56	136.56	136.56	136.56	136.56	136.56

記事内容
133.00～133.60m間はゆ着割れ目ぞいにφ30m前後に分離し易いが砂や粘土ははさまない。 133.39～133.85m φ2～3m/暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑化(明オリブ灰)する。 区間全体が緑泥石化している。
134.35m 70～80°に暗緑灰色の厚さ1～2m/暗緑色の緑泥石粘土とその上盤に厚さ15m/φ5～10m/岩片をはさむ。
134.33～139.66m:CH 堅硬・塊状で未風化・未変質。 ゆ着割れ目は少量分布するが周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。 134.56～134.70mは緑泥石化により淡緑色化(オリブ灰)する。
134.85m以深では処々にφ10m前後で橙色の長石が晶出する。
135.76m 80°割れ目は鏡肌もち交差する割れ目の一部を切っている(sjと評価される)。
136.09m・60°、136.33m・65°、136.56m・60°で前2者は厚さ1～2m/mmの緑泥石脈、後者は石英脈が密着して分布。粘土化や砂状化は伴わない。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
184	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の密着状態、挟在物の有無、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 134.35mに岩片を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
185, 186	<ul style="list-style-type: none"> “コアの形状”欄に基づき、下端深度を141.97m、柱状と記載。 記事No.191、192に基づき、一部割れ目治いに片状と記載。 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 割れ目の密着状態、変色については、補足的なものであるため削除。 一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 135.76mで割れ目を切っているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

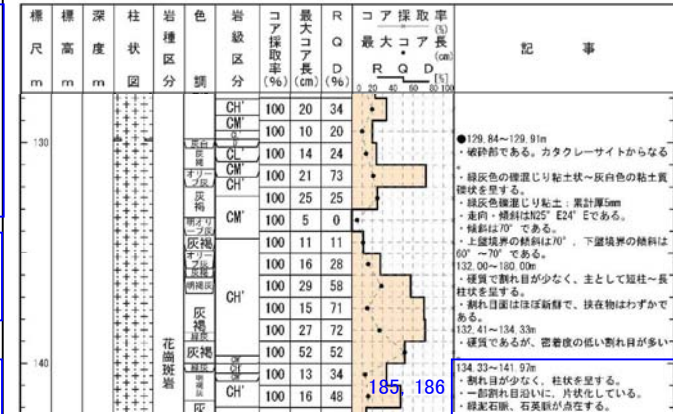
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基盤岩コア観察カード		記事内容	
標尺 (m)	深度 (m)	記事内容	記事内容
133.00	133.60	133.00~133.60m間はゆ着割れ目ぞいにφ30m前後後に分離し易いが砂や粘土ははさまない。	133.00~133.60m間はゆ着割れ目ぞいにφ30m前後後に分離し易いが砂や粘土ははさまない。
133.39	133.85	133.39~133.85m φ2~3m/暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑化(明オリーブ灰)する。区間全体が緑泥石化している。	133.39~133.85m φ2~3m/暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑化(明オリーブ灰)する。区間全体が緑泥石化している。
134.35	134.70	134.35m 70~80°に暗緑灰色の厚さ1~2m/緑泥石粘土とその上盤に厚さ15m/φ5~10m/岩片をはさむ。	134.35m 70~80°に暗緑灰色の厚さ1~2m/緑泥石粘土とその上盤に厚さ15m/φ5~10m/岩片をはさむ。
134.85	134.97	134.85m以深では処々にφ10m前後で橙色の長石が晶出する。	134.85m以深では処々にφ10m前後で橙色の長石が晶出する。
135.76	136.09	135.76m 80°割れ目は鏡肌もち交差する割れ目の一部を切っている(sjと評価される)。	135.76m 80°割れ目は鏡肌もち交差する割れ目の一部を切っている(sjと評価される)。
136.09	136.56	136.09m・60°, 136.33m・65°, 136.56m・60°で前2者は厚さ1~2m/mの緑泥石脈、後者は石英脈が密着して分布。粘土化や砂状化は伴わない。	136.09m・60°, 136.33m・65°, 136.56m・60°で前2者は厚さ1~2m/mの緑泥石脈、後者は石英脈が密着して分布。粘土化や砂状化は伴わない。

記事内容	記事内容
133.00~133.60m間はゆ着割れ目ぞいにφ30m前後後に分離し易いが砂や粘土ははさまない。	133.00~133.60m間はゆ着割れ目ぞいにφ30m前後後に分離し易いが砂や粘土ははさまない。
133.39~133.85m φ2~3m/暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑化(明オリーブ灰)する。区間全体が緑泥石化している。	133.39~133.85m φ2~3m/暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑化(明オリーブ灰)する。区間全体が緑泥石化している。
134.35m 70~80°に暗緑灰色の厚さ1~2m/緑泥石粘土とその上盤に厚さ15m/φ5~10m/岩片をはさむ。	134.35m 70~80°に暗緑灰色の厚さ1~2m/緑泥石粘土とその上盤に厚さ15m/φ5~10m/岩片をはさむ。
134.85m以深では処々にφ10m前後で橙色の長石が晶出する。	134.85m以深では処々にφ10m前後で橙色の長石が晶出する。
135.76m 80°割れ目は鏡肌もち交差する割れ目の一部を切っている(sjと評価される)。	135.76m 80°割れ目は鏡肌もち交差する割れ目の一部を切っている(sjと評価される)。
136.09m・60°, 136.33m・65°, 136.56m・60°で前2者は厚さ1~2m/mの緑泥石脈、後者は石英脈が密着して分布。粘土化や砂状化は伴わない。	136.09m・60°, 136.33m・65°, 136.56m・60°で前2者は厚さ1~2m/mの緑泥石脈、後者は石英脈が密着して分布。粘土化や砂状化は伴わない。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
184	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の密着状態、挟在物の有無、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 134.35mに岩片を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
185, 186	<ul style="list-style-type: none"> “コアの形状”欄に基づき、下端深度を141.97m、柱状と記載。 記事No.191, 192に基づき、一部割れ目沿いに片状と記載。 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 割れ目の密着状態、変色については、補足的なものであるため削除。 一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 135.76mで割れ目を切っているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

基礎岩コア観察カード										
観察・破砕性状・粒度スケッチ等										
深さ (m)	層名	岩種	色	割れ目 径(φ)	割れ目 間隔	割れ目 形状	割れ目 性状	割れ目 性状	割れ目 性状	割れ目 性状
140.13				65°						
140.39				70°						
140.61										
141.40										
141.70										
141.97										
142.32										
142.43										
142.70										
143.48										
143.80										
144.61										

記事内容
140.13m 65° 割れ目ぞいの一部が細片化するが、軟化など劣化はない。 140.39~140.61m: CM 70° 割れ目ぞいに一部片状化する。砂や粘土ははさまない。 140.61~141.97m: CH 堅硬・塊状 一部でゆ着割れ目が多いが密着度が高く周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。
141.40~142.00m φ20m/m前後のまだら模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。 141.70m付近で色調が少し変化する。
141.97~147.08m: CM やゝ割れ目は多いが岩片は堅硬。 白色の筋状を呈するゆ着割れ目が多いが、多くが密着度が高い。 一部では開口割れ目化している。
142.32~142.43m 割れ目が交差しφ20~50m/m程度に岩片化しているが砂や粘土ははさまない。
142.70~142.76m 緑泥石化で淡緑灰色を呈する。
143.48~144.50m φ3~5m/mの橙色のかり長石斑晶が上下位よりも多く析出。かり長石の一部はゆ着割れ目ぞいに50~60°の配列性を示す部分もある。ゆ着割れ目形成時に(流動を伴って)再配列した可能性がある。
143.80~144.00m 割れ目間隔20~70m/mで45° ゆ着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。
144.61~144.68m 40~55° のゆ着割れ目が密集する。 多くが開口化し易い。

申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
192	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 割れ目沿いの細片化については、記事No.185, 186でまとめ書きしていることから削除。 挟在物の有無、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。
193	<ul style="list-style-type: none"> 鉱物の晶出、色調については、補足的なものであるため削除。
194	<ul style="list-style-type: none"> 岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 “コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質、短柱状と記載。 表現の見直し(岩片化→細片状を呈する) 割れ目の密着状態・開口状況、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
195	<ul style="list-style-type: none"> 鉱物の晶出、色調については、補足的なものであるため削除。
196	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
197	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。
198	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。

基礎岩コア観察カード										
記号・略称・詳細スケッチ等										
層位	深度	地層	岩種	色	割れ目	割れ目	割れ目	割れ目	割れ目	割れ目
170	(m)									
140.13	65°									
140.39										
140.61										
141.40										
141.70										
141.97										
142.32										
142.43										
142.70										
143.48										
143.80										
144.61										

記事内容	
192	140.13m 65° 割れ目ぞいの一部が細片化するが、軟化など劣化はない。 140.39~140.61m: CM 70° 割れ目ぞいに一部片状化する。砂や粘土ははさまない。 140.61~141.97m: CH 堅硬・塊状 一部でゆ着割れ目が多いが密着度が高く周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。
193	141.40~142.00m φ20m/m前後のまだら模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。 141.70m付近で色調が少し変化する。
194	141.97~147.08m: CM やゝ割れ目は多いが岩片は堅硬。 白色の筋状を呈するゆ着割れ目が多いが、多くが密着度が高い。 一部では開口割れ目化している。
195	142.32~142.43m 割れ目が交差しφ20~50m/m程度に岩片化しているが砂や粘土ははさまない。 142.70~142.76m 緑泥石化で淡緑灰色を呈する。
196	143.48~144.50m φ3~5m/mの橙色のかり長石斑晶が上下位よりも多く晶出。かり長石の一部はゆ着割れ目ぞいに50~60°の配列性を示す部分もある。ゆ着割れ目形成時に(流動を伴って)再配列した可能性がある。
197	143.80~144.00m 割れ目間隔20~70m/mで45° ゆ着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。
198	144.61~144.68m 40~55° のゆ着割れ目が密集する。 多くが開口化し易い。

申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
192	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目ぞいの細片化については、記事No.185, 186でまとめ書きしていることから削除。 ・挟在物の有無、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。
193	<ul style="list-style-type: none"> ・鉱物の晶出、色調については、補足的なものであるため削除。
194	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質、短柱状と記載。 ・表現の見直し(岩片化→細片状を呈する) ・割れ目の密着状態・開口状況、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
195	<ul style="list-style-type: none"> ・鉱物の晶出、色調については、補足的なものであるため削除。
196	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
197	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。
198	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。

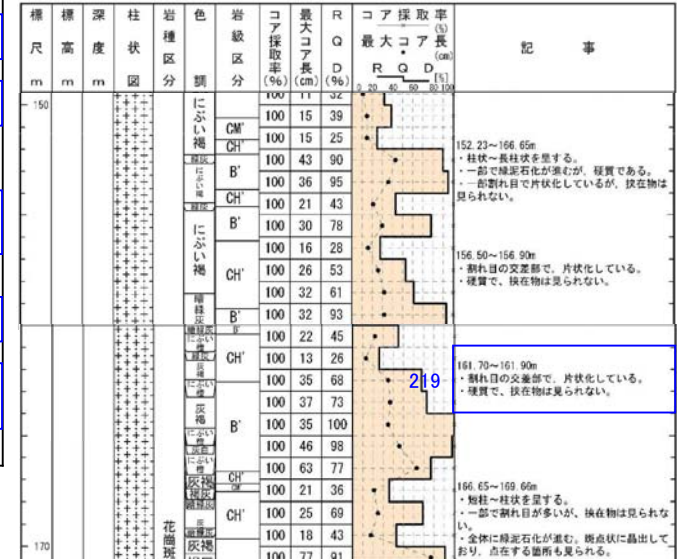
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地質名	色調	割れ目の傾斜	割れ目の長さ	割れ目の密度	割れ目の形状	割れ目の方向	割れ目の状態	割れ目の備考	備考
159.45	160.40										216
160.40	162.57										217
162.57	166.65										218
166.65	169.00										219
169.00	170.00										220

記事内容
216 159.45m 60° 割れ目が交差する65° ゆ着割れ目を切っている。 (見掛け変位量2m/m左ズレ)
217 160.40~162.57m: CH 堅硬、塊状。上下位に比べやゝ割れ目が多い。割れ目挟在物は分布しない。
218 161.10~161.69m φ5m/m前後と大型な暗緑色・緑泥石を斑点状に含む。このうち、上端側の161.10~161.24mは石基も含む全体で緑泥石化が進み、緑灰色を呈する。
219 161.70~161.90m 割れ目交差部の一部で片状化するが岩片は堅硬で、粘土や砂をはさまない。
220 162.12~162.18m φ10m/m前後と大型な橙色のカリ長石が点在する。 162.46~162.57m 80~90°のゆ着割れ目が5~20m/m間隔で平行に分布。 密着度が低く、ハンマーの強打で分離する。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
216	・159.45mで割れ目を切っているとの記載があるが、周囲の岩壁に劣化が認められないことから削除。
217	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟、割れ目の発達程度、挟在物の有無については、記事No. 208~210でまとめ書きしていることから削除。
218	・緑泥石化については、記事No. 208~210でまとめ書きしていることから削除。 ・色調については、補足的なものであるため削除。
219	・表現の見直し(粘土や砂をはさまない→挟在物はみられない)
220	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・割れ目の傾斜、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	細区分		備考	記事番号	記事内容
					岩級区分	色調			
175.15	175.22		B'				233	175.15~175.22m 割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ目面には挟雑物は分布しない。 175.55~176.50m: CH 坚硬、上下位に比べや割れ目が多いがコア長10cm~20cm(Ⅲ)が主体。ゆ着割れ目も含むが大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離しない。 175.45~175.71mは片状化するがコアチューブ引上げ時に片状化した可能性が高い。岩片は硬硬で挟雑物は分布しない。 面の一部は赤褐色化し、断片的に鏡肌も認められる。 赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。	
175.71	176.78		CM				234	175.71~176.78m: CM 割れ目が交差し短柱状~一部岩片状を呈する。 175.59~175.62mは30° 割れ目ぞいに風化(γ)、軟化(D)、砂状~粘土状部ははさまない。	
176.78	179.15		B				235	176.78~179.15m: B 坚硬、塊状でコア長20cm以上の棒状コア主体。 一部に含まれるゆ着割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 上位に比べ緑泥石化が進み、φ2~5m/m暗緑灰色斑点状~厚さ0.5m/m細脈状で分布する。細脈状のものは大半が周囲とよく密着し、開口化していない。	
177.65	177.83		B'				236	177.65m 35° 厚さ2~3m/mの石英脈が分布。周囲と同化している。	
177.83	178.27		B'				237	177.83~178.27m 間にはφ5~10m/mと大型な橙色のカリ長石が晶出・点在する。	
178.31	178.39		B'				238	178.31~178.39m 上端75°、下端70° 割れ目に囲まれ厚さ25m/m、φ5~10m/mに細片化している。厚さは25m/mでごく薄く砂状化する部分がある。上端面には緑泥石がフィルム状に付着している。	
178.45	180.00		CH				239	178.45m以深にはゆ着割れ目が多いが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 179.15~180.00m: CH 179.37~179.68m間の一部は割れ目交差部で片状化するが、岩片は硬硬で面は未風化・未変質で挟雑物も分布しない。 一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する程度。 ゆ着割れ目の多くはすでに開口割れ目化している。	

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
175.15~175.22m 割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ目面には挟雑物は分布しない。 175.55~176.50m: CH 坚硬、上下位に比べや割れ目が多いがコア長10cm~20cm(Ⅲ)が主体。ゆ着割れ目も含むが大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離しない。 175.45~175.71mは片状化するがコアチューブ引上げ時に片状化した可能性が高い。岩片は硬硬で挟雑物は分布しない。 面の一部は赤褐色化し、断片的に鏡肌も認められる。 赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。
175.71~176.78m: CM 割れ目が交差し短柱状~一部岩片状を呈する。 175.59~175.62mは30° 割れ目ぞいに風化(γ)、軟化(D)、砂状~粘土状部ははさまない。
176.78~179.15m: B 坚硬、塊状でコア長20cm以上の棒状コア主体。 一部に含まれるゆ着割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 上位に比べ緑泥石化が進み、φ2~5m/m暗緑灰色斑点状~厚さ0.5m/m細脈状で分布する。細脈状のものは大半が周囲とよく密着し、開口化していない。
177.65m 35° 厚さ2~3m/mの石英脈が分布。周囲と同化している。
177.83~178.27m 間にはφ5~10m/mと大型な橙色のカリ長石が晶出・点在する。
178.31~178.39m 上端75°、下端70° 割れ目に囲まれ厚さ25m/m、φ5~10m/mに細片化している。厚さは25m/mでごく薄く砂状化する部分がある。上端面には緑泥石がフィルム状に付着している。
178.45m以深にはゆ着割れ目が多いが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 179.15~180.00m: CH 179.37~179.68m間の一部は割れ目交差部で片状化するが、岩片は硬硬で面は未風化・未変質で挟雑物も分布しない。 一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する程度。 ゆ着割れ目の多くはすでに開口割れ目化している。

申請書用柱状図

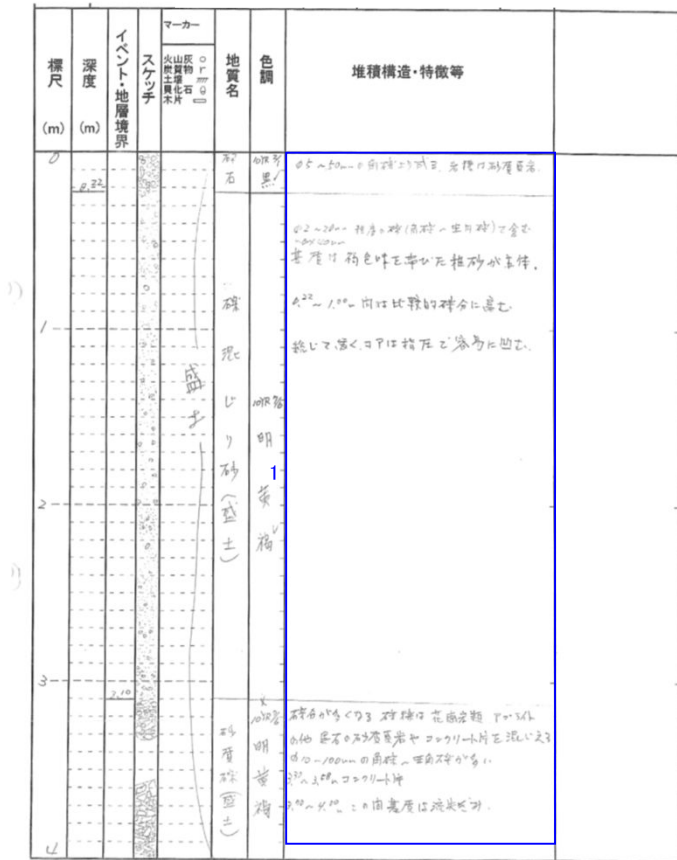
標尺 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)			記事
											最大	R	Q	
170			花崗斑岩	暗緑色 灰褐色	B'	100	18	43	175.15~176.78	233	175.15~176.78m - 全体に緑泥石化が進む。斑点状に晶出しており、点在する箇所も見られる。 - 160~180 00m - 柱状~長柱状を呈する。 - 一部で緑泥石化が進むが、硬質である。 - 一部割れ目で片状化しているが、挟雑物は見られない。			
						100	77	91						
						100	49	87						
						100	37	62						
						100	28	58						
						100	62	100						
						100	28	43						
						100	14	37						
						100	49	79						
						100	33	71						
172	180.00		花崗斑岩	暗緑色 灰褐色	CH	100	15	43	176.50~176.78m - 割れ目の交差部で、岩片状~短柱状を呈する。 - 一部の割れ目ぞいに風化しているが、砂状~粘土状部は見られない。					
						100	15	43						

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
233	・片状化、挟在物の有無、硬軟、割れ目の発達程度については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。 ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態、褐鉄鉱については、補足的なものであるため削除。 ・175.45~175.71mで断片的に鏡肌も認められるとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
234	・岩級及びその区間については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。
235	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟、割れ目の発達程度、緑泥石化については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。
236	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
237	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
238	・割れ目沿いの細片化については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。
239	・割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。 ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・片状化、挟在物の有無、緑泥石については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容

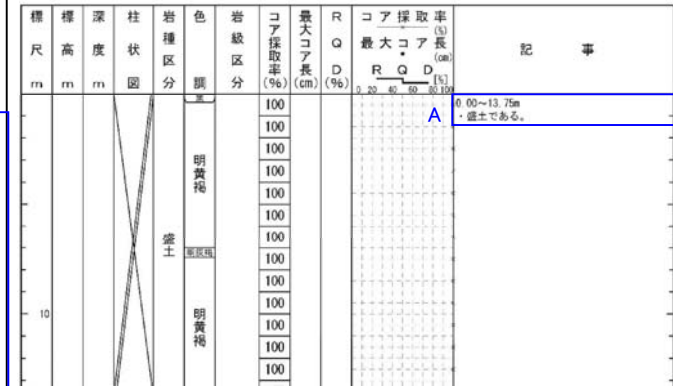
φ5~50mmの角礫より成る。岩種は砂質頁岩。

φ2~20mm程度の礫(角礫~亜円礫)を含む。
max40mm
基質は褐色味を帯びた粗砂が主体。

0.22~1.00m間は比較的礫分に富む

総じて緩く、コアは指圧で容易に凹む。

礫分が多くなる礫様は花崗岩類、アブライトの他黒石の砂質頁岩やコンクリート片を混じえる
φ10~100mmの角礫から亜角礫が多い
3.30~3.58m コンクリート片
3.70~4.00m この間基質は流失済み。

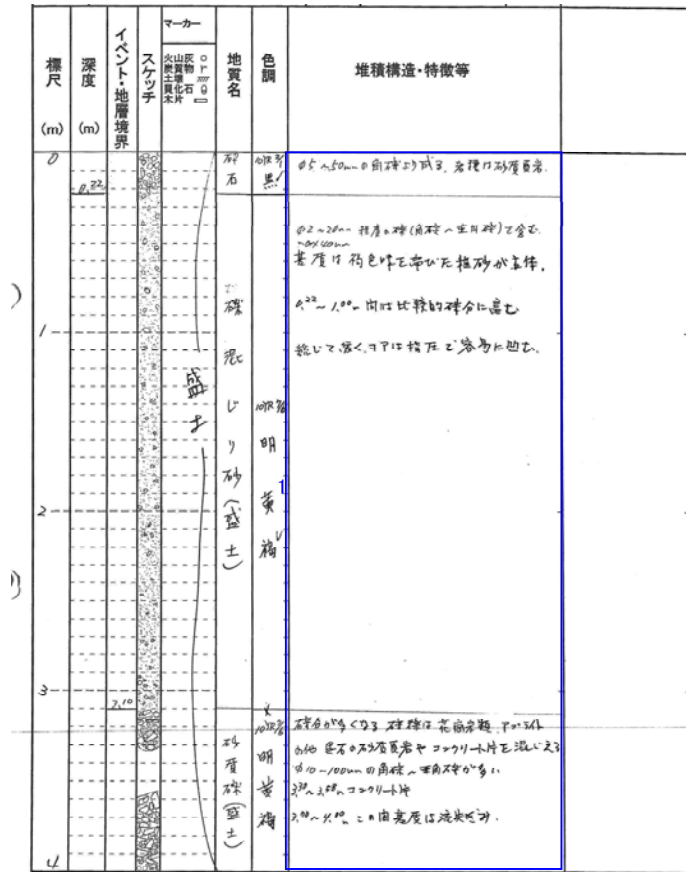


記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
A.1	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容

φ5~50mmの角礫より成る。岩種は砂質頁岩。

φ2~20mm程度の礫(角礫~亜円礫)を含む。
max40mm
基質は褐色味を帯びた粗砂が主体。

0.22~1.00m間は比較的礫分に富む

総じて緩く、コアは指圧で容易に凹む。

礫分が多くなる礫様は花崗岩類、アプライトの他黒石の砂質頁岩やコンクリート片を混じえる
φ10~100mmの角礫~亜角礫が多い
3.30~3.58m コンクリート片
3.70~4.00m この間基質は流しぎみ。

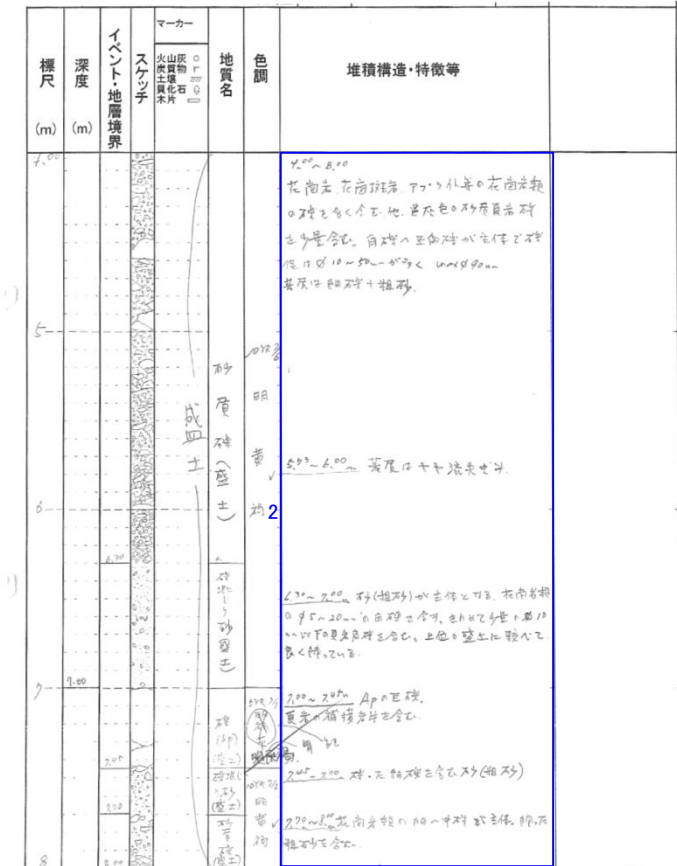
標尺	標高	深度	柱状	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	記事
m	m	m	図				(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
							100					100		φ 00~13.75m ・盛土である。
							100					100		
							100					100		
							100					100		
							100					100		
							100					100		
							100					100		
							100					100		
							100					100		
							100					100		

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
A.1	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。

コア観察カード
(H27年8月)

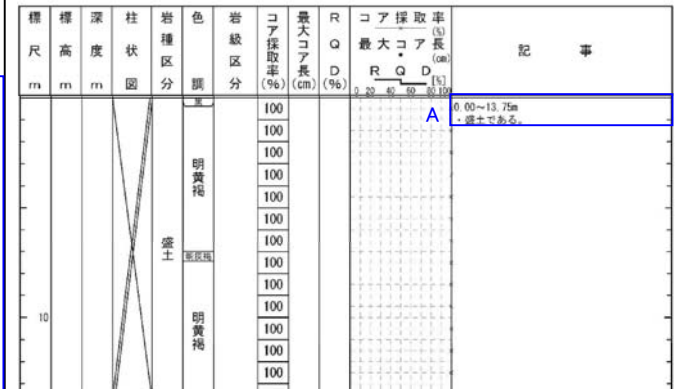
コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



スケッチ: 線はクサリ ● 半クサリ ○ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 衆線等

記事内容
4.00~8.00 花崗岩、花崗斑岩、アプライト等の花崗岩類の礫を多く含む。他、黒灰色の砂質頁岩礫を少量含む。角礫~亜角礫が主体で礫径はφ10~50mmが多くmaxφ90mm 基質は細礫+粗砂
5.73~6.00m 基質はやや流しきみ。
6.30~7.00m 砂(粗砂)が主体となる。花崗岩類のφ5~20mmの角礫を含み、きわめて少量のφ10mm以下の頁岩角礫を含む。上位の盛土に較べて、良く締っている。
7.00~7.45m Apの巨礫。 頁岩の補獲岩片を含む。
7.45m~7.70m 礫った細礫を含む砂(粗砂)
7.70~8.00m 花崗岩類の細~中礫が主体。締った粗砂を含む。

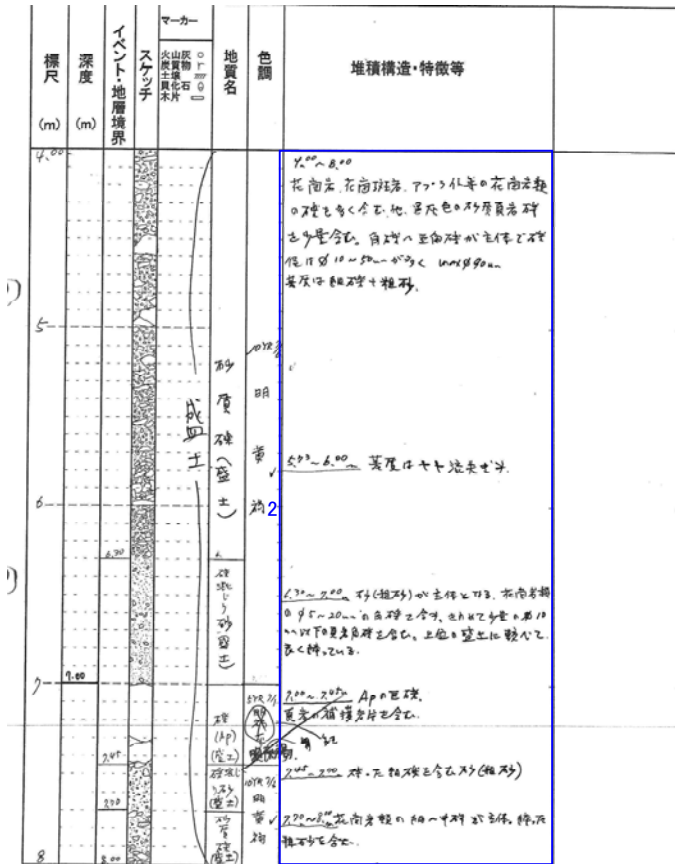


記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
A.2	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
4.00~8.00 花崗岩、花崗斑岩、アブライト等の花崗岩類の礫を多く含む。他、黒灰色の砂質頁岩礫を少量含む。角礫~亜角礫が主体で礫径はφ10~50mmが多くmaxφ90mm 基質は細礫+粗砂
5.73~6.00m 基質はやや流しきみ。
6.30~7.00m 砂(粗砂)が主体となる。花崗岩類のφ5~20mmの角礫を含み、きわめて少量のφ10mm以下の頁岩角礫を含む。上位の盛土に較べて、良く締っている。
7.00~7.45m Apの巨礫。 頁岩の補獲岩片を含む。
7.45~7.70m 礫った細礫を含む砂(粗砂)
7.70~8.00m 花崗岩類の細~中礫が主体。締った粗砂を含む。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	記事
m	m	m	図	区分	類	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	
					明黄褐		100					0.00~13.75m ・埋土である。
				盛土	明黄褐		100					
				明黄褐			100					

スケッチ: 礫はクサリ●半クサリ○ 硬質○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アブライトAp 等
境界 明瞭—— 不明瞭---- 亀裂は赤線、角度、条線等

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
A.2	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。

コア観察カード
(H27年8月)

基礎岩コア観察カード 記事・観察性状・詳細スケッチ等										
深度 (m)	径 (mm)	採取位置	採取方法	採取深度	採取径	採取時間	採取者	採取場所	採取日	備考
16										
17										
18										
19										
20										
21										

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
20.02m付近 付近きわめて小規模な破砕帯(変質帯)副10~20mm 50°
20.07m 小規模な破砕帯(変質帯)幅10~40mm角度30°
20.23~20.37m 割れ目沿いに一部細礫状となる。
20.56~20.55m, 20.87~20.94m 礫状となる。
21.36~21.50m 微細な割れ目に沿ってマンガンの汚染が明瞭
21.50~22.47 割れ目に沿ってマンガンから褐色汚染へと変じる
22.47~22.55m 礫状コア、一部は上部から崩壊物も含まれていると思われる。
23.39~ コアは軟質となり、表面はザラつく
24.13~24.55m 落下したコアを再採取したものと思われる。

申請書用柱状図

標尺	高さ	柱状	岩種	色	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	記事
20		花崗斑岩	淡褐色	CL'	100	15	15								・正断層センスである。 ・緑灰~灰白色の粘土状~オリブ黄色の粘土質シルト状を呈する。 ・緑灰~灰白色粘土、集計厚3mm ・走向・傾斜はN46° E83° である。 ・上盤境界の傾斜は72°、下盤境界の傾斜は76°である。 15.52~17.03m ・一部砂~礫状を呈する。 17.03~17.85m ・低角度の割れ目が多い。 20.23~20.37m ・割れ目沿いに、一部細礫状を呈する。 20.36~20.65m 20.87~20.94m ・礫状を呈する。 22.47~22.55m ・礫状を呈する。 23.39~24.19m 24.96~27.22m ・軟質である。 29.74~29.78m ・破砕部である。カタクレサイトからなる
				CL'	100	9	0								
				CL'	100	5	0								
				CL'	100	11	11								
				CM'	100	7	0								
				CL'	100	5	0								
				CL'	55	5	0								
				CL'	52	18	18								
				CL'	100	14	28								
				CL'	100	9	0								
				CL'	100	15	15								
				CL'	100	11	21								

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
16	・20.02mと20.07mの小規模な破砕帯(変質帯)との記載については、連続性に乏しく、原岩組織の残留の程度に周囲と明瞭な差が認められず、周囲の岩盤の劣化に系統性も認められないことから、破砕部ではないものと判断し削除。
17	・変更なし
18	・深度20.56~20.55m⇒20.55~20.65m ^{※3}
19	・割れ目の発達の種類については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・マンガン、変色については、補足的なものであるため削除。
20	・崩壊物も含まれていると思われるとの記載については、孔壁崩壊による岩片を含んでいる可能性を指摘したものであるが、ボアホールテレビによる観察結果から、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため削除。
21	・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。 ・24.13~24.55mで落下したコアを再採取したものと思われるとの記載については、機械割れによるコアの劣化を指摘したものであるが、ボアホールテレビによる観察結果から、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標高 (m)	深度 (m)	岩種	色	柱状	岩種区分	色調	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	記事
20.02	20.02	花崗斑岩	淡黄色	+	CL'	100	15	15				20.02m付近 きわめて小規模な破砕帯(変質帯)副10~20mm 50°
20.07	20.07	花崗斑岩	淡黄色	+	CL'	100	9	0				
20.23	20.23	花崗斑岩	淡黄色	+	CL'	100	5	0				20.23~20.37m 割れ目沿いに一部細礫状となる。
20.56	20.56	花崗斑岩	淡黄色	+	CL'	100	11	11				20.56~20.55m, 20.87~20.94m 礫状となる。
21.36	21.36	花崗斑岩	淡黄色	+	CL'	100	5	0				21.36~21.50m 微細な割れ目に沿ってマンガンの汚染が明瞭
21.50	21.50	花崗斑岩	淡黄色	+	CL'	100	14	28				21.50~22.47 割れ目に沿ってマンガンから褐色汚染へと変じる
22.47	22.47	花崗斑岩	淡黄色	+	CL'	100	9	0				22.47~22.55m 礫状コア、一部は上部から崩壊物も含まれていると思われる。
23.39	23.39	花崗斑岩	淡黄色	+	CL'	100	15	15				23.39~ コアは軟質となり、表面はザラつく
24.13	24.13	花崗斑岩	淡黄色	+	CL'	100	11	21				24.13~24.55m 落下したコアを再採取したものと思われる。

記事内容
20.02m付近 きわめて小規模な破砕帯(変質帯)副10~20mm 50°
20.07m 小規模な破砕帯(変質帯)幅10~40mm角度30°
20.23~20.37m 割れ目沿いに一部細礫状となる。
20.56~20.55m, 20.87~20.94m 礫状となる。
21.36~21.50m 微細な割れ目に沿ってマンガンの汚染が明瞭
21.50~22.47 割れ目に沿ってマンガンから褐色汚染へと変じる
22.47~22.55m 礫状コア、一部は上部から崩壊物も含まれていると思われる。
23.39~ コアは軟質となり、表面はザラつく
24.13~24.55m 落下したコアを再採取したものと思われる。

標高 (m)	深度 (m)	岩種	色	柱状	岩種区分	色調	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	記事
20.02	20.02	花崗斑岩	淡黄色	+	CL'	100	15	15				正断層センスである。 ・凝灰~灰白色の粘土状~オリブ黄色の粘土質の層状を呈する。 ・凝灰~灰白色粘土、厚計約3mm ・走向・傾斜はN46° E83° である。 ・上層境界の傾斜は72°、下層境界の傾斜は76°である。 15.52~17.03m →一部が層状を呈する。 17.03~17.85m ・傾斜度の割れ目が多い。
20.07	20.07	花崗斑岩	淡黄色	+	CL'	100	9	0				
20.23	20.23	花崗斑岩	淡黄色	+	CL'	100	5	0				20.87~20.94m ・礫状を呈する。
20.56	20.56	花崗斑岩	淡黄色	+	CL'	100	14	28				22.47~22.55m ・礫状を呈する。
21.36	21.36	花崗斑岩	淡黄色	+	CL'	100	9	0				23.39~24.55m ・軟質である。 ●29.74~29.78m ・破砕部である。カタクレサイトからなる。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
16	・20.02mと20.07mの小規模な破砕帯(変質帯)との記載については、連続性に乏しく、原岩組織の残留の程度に周囲と明瞭な差が認められず、周囲の岩盤の劣化に系統性も認められないことから、破砕部ではないものと判断し削除。
17	・変更なし
18	・深度20.56~20.55m⇒20.55~20.65m ^{※3}
19	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・マンガン、変色については、補足的なものであるため削除。
20	・崩壊物も含まれていると思われるとの記載については、孔壁崩壊による岩片を含んでいる可能性を指摘したものであるが、ポアホールテレビによる観察結果から、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため削除。
21	・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。 ・24.13~24.55mで落下したコアを再採取したものと思われるとの記載については、機械割れによるコアの劣化を指摘したものであるが、ポアホールテレビによる観察結果から、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標準 深さ (m)	深度 (m)	岩種 区分	柱状 図	色	岩 級 区 分	最大 コア 長 (cm)	R D	最大 コア 長 (cm)	R Q D	最大 コア 長 (cm)	R Q D	最大 コア 長 (cm)	R Q D	最大 コア 長 (cm)	R Q D	最大 コア 長 (cm)	R Q D	最大 コア 長 (cm)	R Q D	細区分		記事
																				細区分	細区分	
70	70.06																				81	70.06m 付近 60° 幅20mmで局所的に弱く破碎され脆弱となる。
71	71.22																				82	71.22m 60°、71.25m 54° 剪断性の割れ目(節理)。この間、幅20~30mm脆弱となる。 71.25~72.73m この間やや軟質でコア表面はザラつく。
72	72.33																				83	72.33m 32° の割れ目間に、一見腐植土のようなマンガンに汚染された細粒物と破砕物と思われる暗緑灰色の固い砂状のものを挟む。厚さ8~15mm。
73	73.56																				84	73.56m 65° の割れ目に暗褐色に汚染されたシルト質の砂を4~10mm挟む
74	74.16																				85	74.16~74.34m 30~50° の割れ目が密集する。脆弱

記事内容
81 70.06m 付近 60° 幅20mmで局所的に弱く破碎され脆弱となる。
82 71.22m 60°、71.25m 54° 剪断性の割れ目(節理)。この間、幅20~30mm脆弱となる。 71.25~72.73m この間やや軟質でコア表面はザラつく。
83 72.33m 32° の割れ目間に、一見腐植土のようなマンガンに汚染された細粒物と破砕物と思われる暗緑灰色の固い砂状のものを挟む。厚さ8~15mm。
84 73.56m 65° の割れ目に暗褐色に汚染されたシルト質の砂を4~10mm挟む
85 74.16~74.34m 30~50° の割れ目が密集する。脆弱

標準 深さ (m)	深度 (m)	岩種 区分	色	岩 級 区 分	最大 コア 長 (cm)	R D	最大 コア 長 (cm)	R Q D	最大 コア 長 (cm)	R Q D	最大 コア 長 (cm)	R Q D	最大 コア 長 (cm)	R Q D	最大 コア 長 (cm)	R Q D	最大 コア 長 (cm)	R Q D	最大 コア 長 (cm)	R Q D	記事	
70	70.06																					70.06m 付近 60° 幅20mmで局所的に弱く破碎され脆弱となる。
71	71.22																					71.22m 60°、71.25m 54° 剪断性の割れ目(節理)。この間、幅20~30mm脆弱となる。 71.25~72.73m この間やや軟質でコア表面はザラつく。
72	72.33																					72.33m 32° の割れ目間に、一見腐植土のようなマンガンに汚染された細粒物と破砕物と思われる暗緑灰色の固い砂状のものを挟む。厚さ8~15mm。
73	73.56																					73.56m 65° の割れ目に暗褐色に汚染されたシルト質の砂を4~10mm挟む
74	74.16																					74.16~74.34m 30~50° の割れ目が密集する。脆弱

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
81	・弱く破碎され脆弱との記載については、せん断構造や変形構造が不明瞭で、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
82	・剪断性の割れ目との記載があり、割れ目間で脆弱化しているが、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないことから削除。
83	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。 ・72.33mで破砕物と思われるとの記載があるが、割れ目に挟在する砂状部は硬質で、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
84	・シルト質砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
85	・脆弱化の程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目が特に密集する区間として、74.19~74.34mと記載。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺		深度 (m)	層名	岩種	色	柱状	岩級区分	最大コア長 (cm)	R	Q	D	R	Q	D	記事
(m)	(m)														
70	70.06	70.06													70.06m付近 60° 幅20mm~30mmで局所的に弱く破碎され脆弱となる。
71	71.22	71.22													71.22m 60°、71.25m 54° 剪断性の割れ目(節理)。この間、幅20~30mm脆弱となる。 71.25~72.73m この間やや軟質でコア表面はザラつく。
72	72.33	72.33													72.33m 32° の割れ目間に、一見腐植土のようなマンガンに汚染された細粒物と破砕物と思われる暗緑灰色の固い砂状のものを挟む。厚さ8~15mm。
73	73.56	73.56													73.56m 65° の割れ目に暗褐色に汚染されたシルト質の砂を4~10mm挟む
74	74.16	74.16													74.16~74.34m 30~50° の割れ目が密集する。脆弱

記事内容
70.06m付近 60° 幅20mm~30mmで局所的に弱く破碎され脆弱となる。
71.22m 60°、71.25m 54° 剪断性の割れ目(節理)。この間、幅20~30mm脆弱となる。 71.25~72.73m この間やや軟質でコア表面はザラつく。
72.33m 32° の割れ目間に、一見腐植土のようなマンガンに汚染された細粒物と破砕物と思われる暗緑灰色の固い砂状のものを挟む。厚さ8~15mm。
73.56m 65° の割れ目に暗褐色に汚染されたシルト質の砂を4~10mm挟む
74.16~74.34m 30~50° の割れ目が密集する。脆弱

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事
70	70.06					100	2	0			
						100	3	0			
						100	9	0			
						100	5	0			
						100	5	0			
						100	8	0			
						100	7	0			
						100	6	0			
						100	8	0			
						100	13	13			
						100	14	14			
						100	13	24			
						100	15	26			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
81	・弱く破碎され脆弱との記載については、せん断構造や変形構造が不明瞭で、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
82	・剪断性の割れ目との記載があり、割れ目間で脆弱化しているが、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないことから削除。
83	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。 ・72.33mで破砕物と思われるとの記載があるが、割れ目に挟み込む砂状部は硬質で、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
84	・シルト質砂を挟み込むが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
85	・脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目が特に密集する区間として、74.19~74.34mと記載。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基盤岩コア観察カード									
記事・性状・詳細スケッチ等									
層位	層位	層位	層位	層位	層位	層位	層位	層位	層位
深さ	深さ	深さ	深さ	深さ	深さ	深さ	深さ	深さ	深さ
85									
86									
87									
88									
89									
90									

記事内容
98 85.73~85.97m 高角度の2条の割れ目に挟まれた範囲で割れ目が卓越 岩片状となる。
99 86.73~86.83m 上下の割れ目(節理)に挟まれた区間で局所的に砂~礫状となる
100 86.96m~88.03m 割れ目面や割れ目沿いは、褐色やマンガンの汚染が明瞭であるが、狭在物はほとんど見られない。岩質も硬い。
101 88.96m 45°の割れ目の下盤側劣化し局所に非常に脆弱 上盤側は巾20mmマンガンの汚染がコアに明瞭
102 89.27~89.44m 微細な割れ目が卓越する。コアも幾分軟質

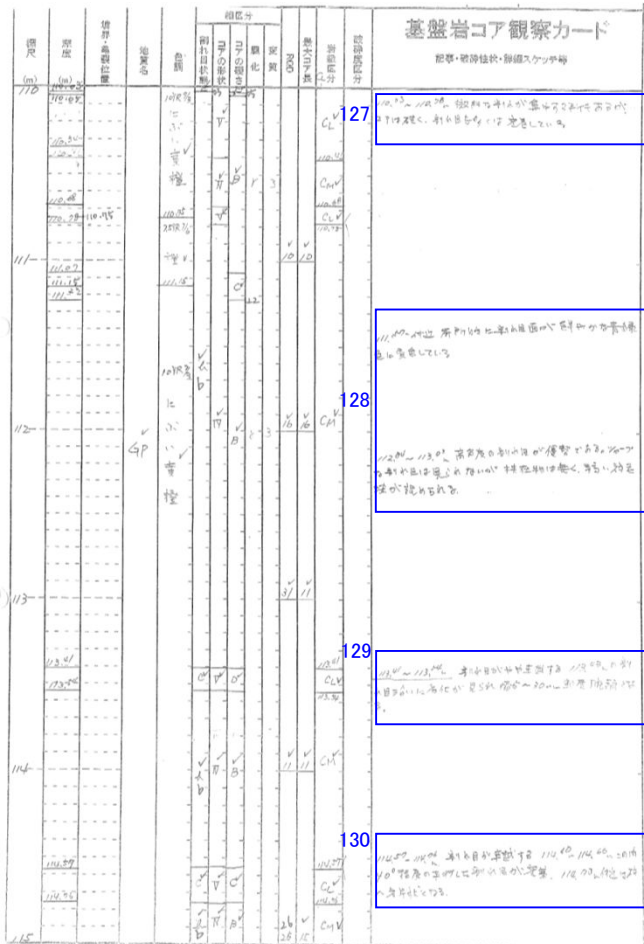
標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	最大コア長	記事
mm	mm	mm	図	顔	区分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
						100	13	13				・砂~礫状を呈する。 74.15~74.34m ・傾斜30°~50°の割れ目が多い。 75.05~75.29m ・傾斜20°~40°の、ほぼ並行する低角度の割れ目が多い。 80.13~80.29m ・傾斜35°~55°の、両方向の割れ目が多い 83.32~84.05m ・硬質であるが、割れ目が多く、短柱~柱状を呈する。 84.09~84.77m ・割れ目が多く、軟質化している。 85.14~86.20m ・硬質である。 ・主として、柱状~長柱状を呈する。 89.27~89.44m ・微細な割れ目が多い。
					CL	100	14	14				
					CL	100	13	24				
					CL	100	15	26				
					CM	100	13	13				
					CM	100	12	34				
					CL	100	8	0				
					CL	100	9	0				
					CM	100	13	23				
					CM	100	23	62				
					CM	100	13	24				
					CM	100	8	20				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
98	・割れ目の発達については、RQD,最大コア長, 岩級区分で示していることから削除。
E	・“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。 ・“コアの形状”欄を見直すとともに最大コア長を踏まえ、柱状~長柱状と記載。
99	・砂~礫状については、掘削時の機械割れと判断し削除。
100	・割れ目の変色、マンガン、狭在物の有無については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
101	・非常に脆弱との記載があるが、劣化部の連続性に乏しいことから削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
102	・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
110.03～110.78m 微細な割れ目が集中する所もあるが、コアは硬く、割れ目も多くは密着している
111.57m付近 局所的に割れ目面が鮮やかな青緑色に変色している
112.84～113.03m高角度の割れ目が優勢である。シャープな割れ目は見られないが狭在物は無く、弱い褐色染が認められる
113.41～113.54m 割れ目がやや卓越する113.43mの割れ目沿いに劣化が沿いに劣化が見られ幅5～30mm軟質脆弱となる。
114.57～114.76m 割れ目が卓越する114.60～114.66mの間40°程度の平行した割れ目が密集、114.73m付近は礫～岩片状となる。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
127	・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
G	・“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。 ・“コアの形状”欄に基づき、短柱状と記載。一部でより割れ目間隔の大きな区間が分布することから、柱状と記載。
128	・割れ目の変色、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
129	・割れ目については、掘削時の機械割れと判断し削除。
130	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。

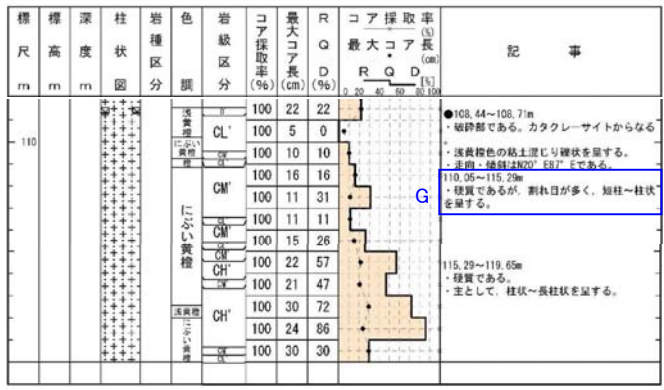
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標高		深度		岩種区分	色	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事	
(m)	(m)	(m)	(m)															
110	110.43	110.43	110.43	CL			100	22	22									
	110.40	110.40	110.40	CL			100	5	0									
	110.37	110.37	110.37	CL			100	10	10									
	110.34	110.34	110.34	CM			100	16	16									
	110.31	110.31	110.31	CM			100	11	31									
	110.28	110.28	110.28	CM			100	11	11									
	110.25	110.25	110.25	CM			100	15	26									
	110.22	110.22	110.22	CH			100	22	57									
	110.19	110.19	110.19	CH			100	21	47									
	110.16	110.16	110.16	CH			100	30	72									
	110.13	110.13	110.13	CH			100	24	86									
	110.10	110.10	110.10	CH			100	30	30									

記事内容	記事
110.03~110.78m 微細な割れ目が集中する所もあるが、コアは硬く、割れ目も多くは密着している	127
111.57m付近 局所的に割れ目面が鮮やかな青緑色に変色している	128
112.84~113.03m高角度の割れ目が優勢である。シャープな割れ目は見られないが狭在物は無く、弱い褐色染が認められる	
113.41~113.54m 割れ目がやや卓越する113.43mの割れ目沿いに劣化が見られ幅5~30mm軟質脆弱となる。	129
114.57~114.76m 割れ目が卓越する114.60~114.66mの間40°程度の平行した割れ目が密集、114.73m付近は礫~岩片状となる。	130

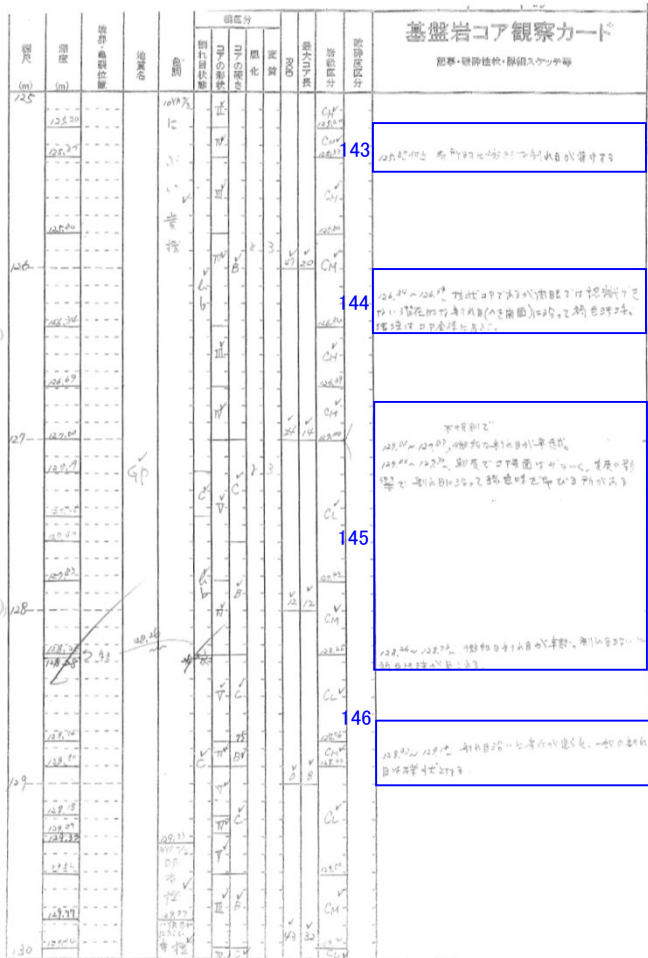


記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
127	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
G	・“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。 ・“コアの形状”欄に基づき、短柱状と記載。一部でより割れ目間隔の大きな区間が分布することから、柱状と記載。
128	・割れ目の変色、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
129	・割れ目については、掘削時の機械割れと判断し削除。
130	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。

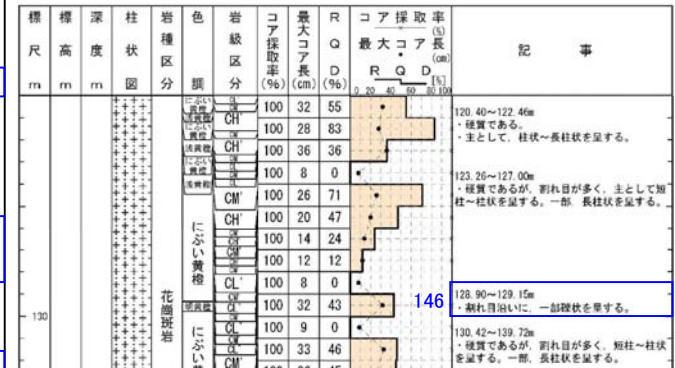
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
143 125.37m付近 局所的に微細な割れ目が集中する
144 126.34~126.69m 柱状コアであるが、肉眼では認識できない潜在的な割れ目(へき開面)に沿って褐色汚染。汚染はコア全体に及ぶ。
145 127.00~127.83m 不規則で微細な割れ目が卓越。 127.06~127.30m 軟質でコア表面はザラつく。変質の影響で割れ目に沿って緑色味を帯びる所がある
128.26~128.76m 微細な割れ目が卓越。割れ目沿いに褐色汚染が見られる。
146 128.90~129.15m 割れ目沿いに劣化が見られ、一部の割れ目は礫状となる。

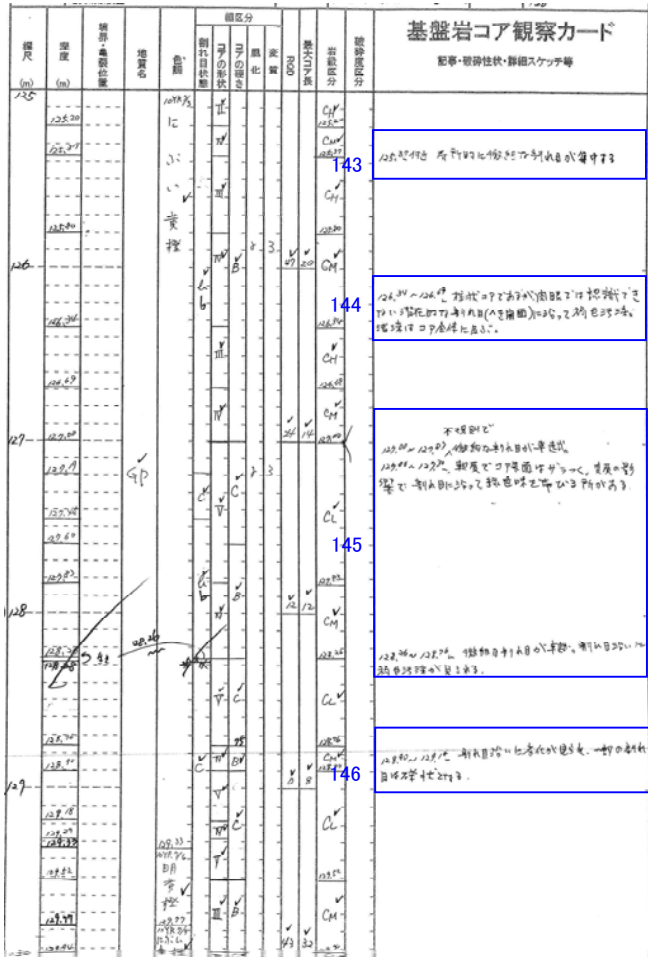


記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
143	・割れ目の発達程度については、周囲の割れ目と差異が認められないため削除。
144	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・変色については、補足的なものであるため削除。
145	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・コア表面の粗さ、割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。
146	・変更なし

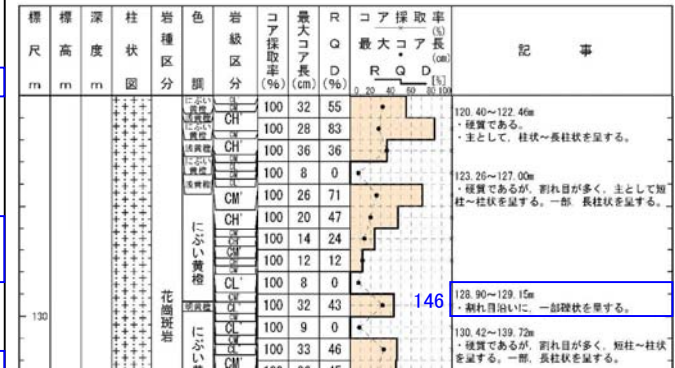
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容	
143	125.37m付近 局所的に微細な割れ目が集中する
144	126.34~126.69m 柱状コアであるが、肉眼では認識できない潜在的な割れ目(へき開面)に沿って褐色汚染。汚染はコア全体に及ぶ。
145	127.00~127.83 不規則で微細な割れ目が卓越。 127.06~127.30m 軟質でコア表面はザラつく。変質の影響で割れ目に沿って緑色味を帯びる所がある
	128.26~128.76m 微細な割れ目が卓越。割れ目沿いに褐色汚染が見られる。
146	128.90~129.15m 割れ目沿いに劣化が見られ、一部の割れ目は礫状となる。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
143	・割れ目の発達程度については、周囲の割れ目と差異が認められないため削除。
144	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・変色については、補足的なものであるため削除。
145	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・コア表面の粗さ、割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。
146	・変更なし

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	標準 高位置	地層名	色調	割れ目性状				RQD	最大コア長	岩級区分	観察区分	記事
					割れ目の形状	割れ目の長さ	割れ目の密度	割れ目の方向					
5	8.22										12	記事	
6	8.50										13	記事	
7	8.80										14	記事	
8	9.00										15	記事	
9	9.30										16	記事	

記事内容
5.04~5.08m 褐色強風化部 5.08~5.25m 割れ目沿いにマンガン濃集(汚染)顕著 コアは軟質 岩片状を呈する
5.40~5.50m 割れ目沿いにマンガン濃集顕著
5.80~5.95m 割れ目面はフィルム状(1mm程度)のマンガンを挟在する同方向の割れ目(45°~55°)密に発達 径2~5mmの石英、表石の斑晶の含有率は5~7%
6.45~6.55m 割れ目沿いにMnおよび酸化鉄を挟在する(1~4mm) 6.50~7.78m ピンク長石多い
7.35~7.80m 高角度(∠80°以上)の割れ目にMnをフィルム状(1mm程度)に挟在する。
7.80~8.32m 斑晶少なく、含有率は1%以下 構成鉱物は細粒
9.44m 割れ目の挟在物は幅6cmのチョコレート状粘土(半固結)
9.78m 割れ目の挟在物は幅4cmの砂混じり粘土(固結)

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	最大コア長	記事
m	m	m	図	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
10						100	15	15				4.80~5.50m ・風化が進み、軟質化している。
						100	11	11				5.05~5.50m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。
						100	14	14				12.35~12.70m ・風化が進み、軟質化している。
						100	6	0				
						100	19	19				
						100	12	12				14.30~14.65m ・風化が進み軟質化している。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
12	・色調、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・風化の程度、硬軟、割れ目の発達の程度については、記事No.11, No.Aで示していることから削除。
13	・割れ目沿いのマンガン、酸化鉄については、補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
14	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
15	・粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
16	・砂混じり粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地層名称	C/D/E	観察項目				備考	
				色調	風化	割れ目	構成		
5	5.04							12	褐色強風化部 5.08~5.25m 割れ目沿いにマンガン濃集(汚染)顕著 コアは軟質 岩片状を呈する
6	5.80							13	5.80~5.95m 割れ目面はフィルム状(1mm程度)のマンガンを挟在する同方向の割れ目(45°~55°)密に発達 径2~5mmの石英、長石の斑晶の含有率は5~7% 6.45~6.55m 割れ目沿いにMnおよび酸化鉄を挟在する(1~4mm) 6.50~7.78m ピンク長石多い
7	7.35							14	7.35~7.80m 高角度(∠80°以上)の割れ目にMnをフィルム状(1mm程度)に挟在する。
8	7.80							15	7.80~8.32m 斑晶少なく、含有率は1%以下 構成鉱物は細粒
9	9.44							16	9.44m 割れ目の挟在物は幅6cmのチョコレート状粘土(半固結) 9.78m 割れ目の挟在物は幅4cmの砂混じり粘土(固結)

記事内容
5.04~5.08m 褐色強風化部 5.08~5.25m 割れ目沿いにマンガン濃集(汚染)顕著 コアは軟質 岩片状を呈する
5.40~5.50m 割れ目沿いにマンガン濃集顕著
5.80~5.95m 割れ目面はフィルム状(1mm程度)のマンガンを挟在する同方向の割れ目(45°~55°)密に発達 径2~5mmの石英、長石の斑晶の含有率は5~7% 6.45~6.55m 割れ目沿いにMnおよび酸化鉄を挟在する(1~4mm) 6.50~7.78m ピンク長石多い
7.35~7.80m 高角度(∠80°以上)の割れ目にMnをフィルム状(1mm程度)に挟在する。
7.80~8.32m 斑晶少なく、含有率は1%以下 構成鉱物は細粒
9.44m 割れ目の挟在物は幅6cmのチョコレート状粘土(半固結)
9.78m 割れ目の挟在物は幅4cmの砂混じり粘土(固結)

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
10						100	15	15					4.80~5.50m ・風化が進み、軟質化している。
						100	11	11					5.05~5.50m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。
						100	14	14					12.35~12.70m ・風化が進み、軟質化している。
						100	6	0					
						100	19	19					
						100	12	12					14.30~14.65m ・風化が進み軟質化している。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
12	・色調、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・風化の程度、硬軟、割れ目の発達の程度については、記事No.11, No.Aで示していることから削除。
13	・割れ目沿いのマンガン、酸化鉄については、補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
14	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
15	・粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
16	・砂混じり粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	層名	岩種	色	柱状	細区分		R	Q	D	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事
						1	2								
7.0	10.10														
	10.13														17
	10.40														18
	10.48														18
	10.59														18
11															
	11.20														19
	11.70														20
12															
	12.35														21
	12.66														21
13															

記事内容
17 10.13m 割れ目にフィルム状(1mm)のMnを挟在する 割れ目周囲のコア表面、褐色汚染顕著
18 10.40~10.60m 構成鉱物は周囲のものより粗粒、コア肌荒れ状 この上下コア表面 褐色汚染顕著
18 10.48~10.59m 割れ目にフィルム状(1~2mm)のMnを挟在する
19 11.20~11.30m 構成鉱物は粗粒
20 11.70~11.95m 割れ目沿い及びコア表面に白色鉱物が晶出
21 12.35~12.70m コアは肌荒れ状。指で鉱物粒子が崩せる。
21 12.66m 鉱物脈(石英)幅6mmあり 変質し脱色している粒子含む

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	記事
m	m	m	固	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	
10						100	15	15								4.80~5.50m ・風化が進み、軟質化している。
						100	11	11								5.05~5.50m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。
						100	14	14								12.35~12.70m ・風化が進み、軟質化している。
						100	6	0								
						100	19	19								
						100	12	12								14.30~14.65m ・風化が進み軟質化している。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
17	・マンガン、褐色汚染、構成鉱物の粒度については、補足的なものであるため削除。
18	・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
19	・構成鉱物の粒度については、補足的なものであるため削除。
20	・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
21	・“風化”欄及び“コアの硬さ”欄に基づき、風化が進み、軟質化していると記載。 ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界 位置	境界 位置	細区分	基盤岩コア観察カード	
					記事・観察性状・詳細スケッチ等	
7b	10.10			17	10.13m 割れ目にフィルム状(1mm)のMnを挟在する 割れ目周囲のコア表面、褐色汚染顕著	
	10.40			18	10.40~10.60m 構成鉱物は周囲のものより粗粒、コア肌荒れ状 この上下コア表面 褐色汚染顕著	
	10.48			18	10.48~10.59m 割れ目にフィルム状(1~2mm)のMnを挟在する	
11				19	11.20~11.30m 構成鉱物は粗粒	
	11.70			20	11.70~11.95m 割れ目沿いおよびコア表面に白色鉱物が晶出	
12				21	12.35~12.70m コアは肌荒れ状。指で鉱物粒子が崩せる。 12.66m 鉱物脈(石英)幅6mmあり 変質し脱色している粒子含む	

記事内容
17 10.13m 割れ目にフィルム状(1mm)のMnを挟在する 割れ目周囲のコア表面、褐色汚染顕著
18 10.40~10.60m 構成鉱物は周囲のものより粗粒、コア肌荒れ状 この上下コア表面 褐色汚染顕著
18 10.48~10.59m 割れ目にフィルム状(1~2mm)のMnを挟在する
19 11.20~11.30m 構成鉱物は粗粒
20 11.70~11.95m 割れ目沿いおよびコア表面に白色鉱物が晶出
21 12.35~12.70m コアは肌荒れ状。指で鉱物粒子が崩せる。 12.66m 鉱物脈(石英)幅6mmあり 変質し脱色している粒子含む

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	最大コア長	コア採取率	記事
m	m	m	固	調	分	(%)	(cm)	(%)	(cm)	(%)	
10						100	15	15			4.60~5.50m ・風化が進み、軟質化している。
						100	11	11			5.05~5.50m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。
						100	14	14			12.35~12.70m ・風化が進み、軟質化している。
					変換	100	6	0			
					灰白	100	19	19			
					変換	100	12	12			14.30~14.65m ・風化が進み軟質化している。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
17	・マンガン、褐色汚染、構成鉱物の粒度については、補足的なものであるため削除。
18	・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
19	・構成鉱物の粒度については、補足的なものであるため削除。
20	・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
21	・“風化”欄及び“コアの硬さ”欄に基づき、風化が進み、軟質化していると記載。 ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地層名	岩種	割れ目性状				風化	硬軟	最大コア長 (cm)	硬軟度区分	記事内容
				割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状					
7.3	13.00										22 13.00~15.00m ピンク長石を多く含む。コアはやゝ肌荒れ状。全体に中硬質で指で鉱物粒子は崩せない。	
	13.30										23 13.05~13.30m 高角度厚割れ目(70°)沿いにMn汚染酸化鉄汚染が見られる	
	14.20										24 14.30~14.65m 酸化鉄汚染目立つ、割れ目沿いにコアはやゝ軟質 14.49m 鉱物脈(石英)幅4.8mm 14.59m 鉱物脈(石英)幅2.4mm	
	14.80										25 14.80~14.95m 中角度の割れ目(40~50°)多く、変質(脱色)した石英脈幅1~2mmを挟在する。	

記事内容
22 13.00~15.00m ピンク長石を多く含む。コアはやゝ肌荒れ状。全体に中硬質で指で鉱物粒子は崩せない。
23 13.05~13.30m 高角度厚割れ目(70°)沿いにMn汚染酸化鉄汚染が見られる
24 14.30~14.65m 酸化鉄汚染目立つ、割れ目沿いにコアはやゝ軟質 14.49m 鉱物脈(石英)幅4.8mm 14.59m 鉱物脈(石英)幅2.4mm
25 14.80~14.95m 中角度の割れ目(40~50°)多く、変質(脱色)した石英脈幅1~2mmを挟在する。

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	記事
					CM'	100	12	12			24	14.30~14.65m ・風化が進み軟質化している。				
				灰白	CM'	100	6	0	*			17.47~17.91m ・割れ目沿って、灰白色シルトを挟む。				
					CM'	100	7	0	*							
					CM'	100	3	0	*							
				淡黄	CM'	100	6	0	*			17.70~18.00m ・風化が進み、軟質化している。				
					CM'	100	6	0	*			19.15~19.55m ・風化が進み軟質化している。				
				花崗	CM'	100	14	34	*			20.80~22.35m				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
22	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。
23	・マンガン、酸化鉄汚染については、補足的なものであるため削除。
24	・“風化”欄及び“コアの硬さ”欄に基づき、風化が進み、軟質化していると記載。 ・酸化鉄汚染、鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
25	・割れ目の発達程度については、周囲の割れ目と差異が見られないため削除。 ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地層名	柱状	色	岩種区分	細区分				硬軟	割れ目	備考
						割れ目	割れ目	割れ目	割れ目			
13.00												
13.40												
13.80												
14.20												
14.60												
15.00												
15.40												
15.80												
16.20												
16.60												
17.00												
17.40												
17.80												
18.20												
18.60												
19.00												
19.40												
19.80												
20.20												
20.60												
21.00												
21.40												
21.80												
22.20												
22.60												
23.00												

記事内容
22 13.00~15.00m ピンク長石を多く含む。コアはやゝ肌荒れ状。全体に中硬質で指で鉱物粒子は崩せない。
23 13.05~13.30m 高角度割れ目(∠70°)沿いにMn汚染酸化鉄汚染が見られる
24 14.30~14.65m 酸化鉄汚染目立つ、割れ目沿いにコアはやゝ軟質 14.49m 鉱物脈(石英)幅4.8mm 14.59m 鉱物脈(石英)幅2.4mm
25 14.80~14.95m 中角度の割れ目(∠40~∠50°)多く、変質(脱色)した石英脈幅1~2mmを挟在する。

標尺	深度	柱状	岩種区分	色	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	記事
						100	12	12					
				灰白	CM'	100	6	0	*		24		14.30~14.65m ・風化が進み軟質化している。
					CM'	100	7	0	*				17.47~17.91m ・割れ目によって、灰白色シルトを挟む。
				淡黄	CM'	100	3	0	*				17.70~18.00m ・風化が進み、軟質化している。
					CM'	100	6	0	*				19.15~19.55m ・風化が進み軟質化している。
				花崗	CM'	100	14	34	*				20.80~22.35m

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
22	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。
23	・マンガン、酸化鉄汚染については、補足的なものであるため削除。
24	・“風化”欄及び“コアの硬さ”欄に基づき、風化が進み、軟質化していると記載。 ・酸化鉄汚染、鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
25	・割れ目の発達程度については、周囲の割れ目と差異が見られないため削除。 ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基礎岩コア観察カード									
記事・性状・詳細スケッチ等									
層番号	層名	層厚	性状	色	岩種	割れ目	開口	備考	スケッチ
20	20.00~20.07	7cm	花崗斑岩	灰白	CH'	高角度	閉鎖	36	20.10~21.00m 高角度(70°以上)の割れ目は、挟在物を有するものも含めて開口していない。コアは見掛け長柱状を呈するが開口していない割れ目があるためRQDは低下している。
21	20.80~22.35	155cm	花崗斑岩	灰白	CL'	高角度	開口	37	20.80~22.35m 硬質である。
22	21.10~21.60	50cm	花崗斑岩	灰白	CL'	高角度	閉鎖	38	21.10~21.60m 高角度(70°以上)の割れ目は開口していない。高角度割れ目の密集部では、割れ目沿いに砂状化している。

記事内容
36 コアは硬質 風化程度 上位の層より弱い。 20.10~21.00m 高角度(70°以上)の割れ目は、挟在物を有するものも含めて開口していない。 コアは見掛け長柱状を呈するが開口していない割れ目があるためRQDは低下している。
37 20.80~22.35m 硬質である。
38 21.10~21.60m 高角度(70°以上)の割れ目は開口していない。 高角度割れ目の密集部では、割れ目沿いに砂状化している。

層番号	層名	層厚	性状	色	岩種	割れ目	開口	備考	スケッチ
20	20.00~20.07	7cm	花崗斑岩	灰白	CH'	高角度	閉鎖	36	20.10~21.00m 高角度(70°以上)の割れ目は、挟在物を有するものも含めて開口していない。コアは見掛け長柱状を呈するが開口していない割れ目があるためRQDは低下している。
21	20.80~22.35	155cm	花崗斑岩	灰白	CL'	高角度	開口	37	20.80~22.35m 硬質である。 21.10~21.60m 高角度(70°以上)の割れ目は開口していない。高角度割れ目の密集部では、割れ目沿いに砂状化している。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
36	・硬軟、割れ目の発達程度、風化については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の開口状況については、補足的なものであるため削除。
37	・“コアの形状”欄に基づき、柱状~長柱状と記載。
38	・割れ目の傾斜、割れ目の開口状況については、補足的なものであるため削除。 ・一部の割れ目沿いで砂状化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

22.92~23.23 r4と3 風化、変質の記載ナシ		22.91~23.23m ●22.91~23.23m 破碎帯 主せん断面22.91m		22.91~22.92m:Hc-1		22.92~23.23m:Hj		23.83m ∠42°		24.20~24.30m ∠60°		24.65~25.00m	
22	22.92	22.91	22.92	22.92	22.92	22.92	22.92	23.83	24.20	24.30	24.65	25.00	

記事内容
22.91~23.23 r4と3 風化、変質の記載ナシ
39 ●22.91~23.23m 破碎帯 主せん断面22.91m
40 22.91~22.92m:Hc-1 上端は28°で直線的、下端は一部波打つが概ね34°で連続厚さ2~10mmの軟質粘土。石英粒、岩片はほとんど含まない(5%以下) 上盤側には主せん断面と20°程度で交差する直線的な割れ目(Si)が分布 色調は灰オリーブ(5Y6/2)
41 22.92~23.23m:Hj 上端34°、下端35°でほぼ直線的に連続、径5~20mmの岩片(一部粘土化)と岩片間の粘土からなる。粘土混り岩片状を呈する。厚さ310mm(コア長)下端との境界に厚さ1~3mmの灰白色(5Y8/2)の軟弱粘土を挟む。 上端側の22.97mは、主せん断面と平行~20°で斜交する直線的な割れ目(Sj:2次せん断面)が3本分布する。色調は淡黄(5Y8/2)
42 23.83m ∠42°の割れ目(Sj)が交差する∠78°の割れ目を切っている(変位量3mm、右ズレ)
24.20~24.30m ∠60°程度の同方向の密着した割れ目が発達
43 24.65~25.00m 縦方向(∠70°以上)の割れ目により、半割れ状を呈する。 割れ方向には厚さ1mm程度のMn、砂粒子を挟む。

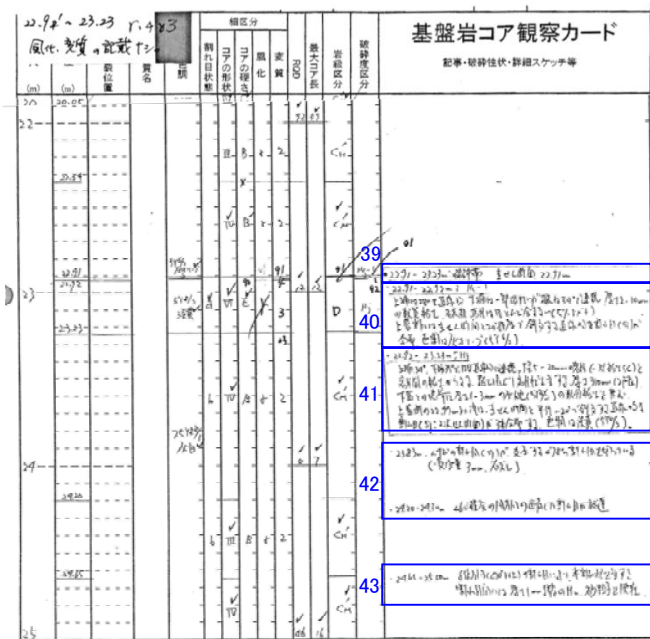


記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
39~41	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 表現の見直し(粘土混り岩片状→粘土混じり礫状) 粘土の累計幅については、最大値を記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破碎部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破碎度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
42	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目を切っているとの記載については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 割れ目の傾斜、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
43	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の傾斜、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 割れ目沿いの砂粒子の挟在については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容	
22.91~23.23 r4と3 風化, 変質の記載ナシ	
39 ●22.91~23.23m: 破砕帯 主せん断面22.91m 22.91~22.92m: Hc-1 上端は28°で直線的、下端は一部波打つが概ね34°で連続厚さ2~10mmの軟質粘土。石英粒、岩片はほとんど含まない(5%以下) 上盤側には主せん断面と20°程度で斜交する直線的な割れ目(Si)が分布 色調は灰オリーブ(5Y6/2)	
40 22.92~23.23m: Hj 上端34°、下端35°でほぼ直線的に連続、径5~20mmの岩片(一部粘土化)と岩片間の粘土からなる。粘土混り岩片状を呈する。厚さ310mm(コア長) 下端との境界に厚さ1~3mmの灰白色(5Y8/2)の軟弱粘土を挟む。 上端側の22.97mは、主せん断面と平行~20°で斜交する直線的な割れ目(Sj: 2次せん断面)が3本分布する。色調は淡黄(5Y8/2)	
42 23.83m ∠42°の割れ目(Sj)が交差する∠78°の割れ目を切っている(変位量3mm、右ズレ) 24.20~24.30m ∠60°程度の同方向の密着した割れ目が発達	
43 24.65~25.00m 縦方向(∠70°以上)の割れ目により、半割れ状を呈する。 割れ目面には厚さ1mm程度のMn、砂粒子を挟む。	



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
39~41	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 表現の見直し(粘土混り岩片状→粘土混じり礫状) 粘土の累計幅については、最大値を記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
42	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目を切っているとの記載については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 割れ目の傾斜、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
43	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の傾斜、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 割れ目沿いの砂粒子の挟在については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

層区分		基盤岩コア観察カード	
記事	層区分	記事	層区分
44	25.17~25.44m	25.17~25.44m	25.17~25.44m
45	25.17~25.44m	25.17~25.44m	25.17~25.44m
46	25.65~25.77m	25.65~25.77m	25.65~25.77m
47	25.65~25.77m	25.65~25.77m	25.65~25.77m
48	25.65~25.77m	25.65~25.77m	25.65~25.77m
49	25.77~26.12m	25.77~26.12m	25.77~26.12m

記事内容
25.17~25.44 r3 25.65~25.77 r3 風化、変質の記載なし
44 ●25.17~25.44m 破碎帯 主せん断面25.17m 25.17~25.18m:Hc-2 上端は48°で直線的、下端は25~48°で波打って連続。厚さ5~15mmの軟質粘土、径1~2mmの石英粒と径2~3mmのGPの角礫片を10%程度含む。色調は灰白(2.5Y8/2)~淡黄(2.5Y8/3)
45 25.18~25.44m:Hj 上端25~48°、下端36°とも波打って連続、主せん断面に対し60~90°に斜交~直交する割れ目が多く岩片は径5~10mmに細片化。岩片間の一部は粘土化し幅1mm以下の白色~淡色粘土が網状に分布。全体に粘土混じり岩片状を呈する。厚さは230mm(コア長280mm) 色調はにぶい橙(7.5YR7/9)
46 ●25.65~25.77m 破碎帯 主せん断面25.76m 25.65~25.74m:Hj 上端は30~60°で湾曲し一部不明瞭。下端は28°で波打って連続 径3~10mmの岩片と岩片間の幅1~2mmの軟質灰色粘土脈からなる。粘土混じり岩片状を呈する。厚さ80mm。色調は明褐灰(7.5YR7/2)
47 25.74~25.76m:Hb 上端28°で波打ち下端40°で直線的に連続 径3~10mmのGP岩片30%程度含む。縮った礫質粘土、幅20mm。色調は明褐灰(7.5YR7/2)
48 25.76~25.77m:Hc-1 上端は40°で直線的。下端はよ波打って連続、軟質粘土で径1mm程度の石英粒を10%程度含むが径2mm以上の石英粒や岩片は含まない。厚さは10~12mm。色調は灰黄褐(10YR6/2)
49 25.77~26.12m 粘土化著しく軟質



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
44, 45	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) 径1~2mmの石英粒と径2~3mmのGpの角礫片を10%程度含むとの記載に基づき、礫混じり粘土状と記載。 粘土の累計幅については、膨縮が大きいことから、平均値を記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破碎部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破碎度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
46~48	<ul style="list-style-type: none"> 破碎帯名を記載。 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) 粘土混じり礫状→粘土混じり礫※1 粘土の累計幅については、最大値を記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破碎部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破碎度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
49	<ul style="list-style-type: none"> 変更なし

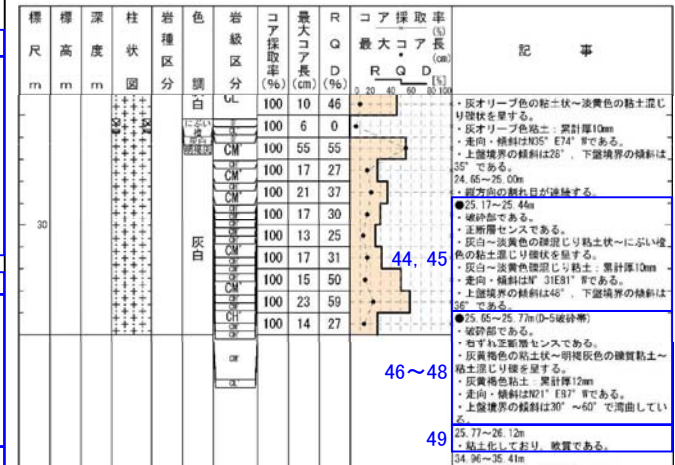
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

Table with columns for core ID, depth, and lithological descriptions. Includes handwritten notes and a legend for core types.

Table with columns for article content (記事内容) and core details. Lists core intervals like 25.17~25.44m and 25.65~25.77m with their respective lithological descriptions.



Summary table with columns for '記事' (Article) and 'コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図' (Core observation card...). It summarizes the key findings and corrections for core intervals 44, 45, 46~48, and 49.

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

25.77~25.94 m		25.65~25.77 m		25.47~25.64 m		25.29~25.46 m		25.11~25.28 m		24.93~25.10 m		24.75~24.92 m		24.57~24.74 m		24.39~24.56 m		24.21~24.38 m		24.03~24.20 m		23.85~24.02 m		23.67~23.84 m		23.49~23.66 m		23.31~23.48 m		23.13~23.30 m		22.95~23.12 m		22.77~22.94 m		22.59~22.76 m		22.41~22.58 m		22.23~22.40 m		22.05~22.22 m		21.87~22.04 m		21.69~21.86 m		21.51~21.68 m		21.33~21.50 m		21.15~21.32 m		20.97~21.14 m		20.79~20.96 m		20.61~20.78 m		20.43~20.60 m		20.25~20.42 m		20.07~20.24 m		19.89~20.06 m		19.71~19.88 m		19.53~19.70 m		19.35~19.52 m		19.17~19.34 m		18.99~19.16 m		18.81~18.98 m		18.63~18.80 m		18.45~18.62 m		18.27~18.44 m		18.09~18.26 m		17.91~18.08 m		17.73~17.90 m		17.55~17.72 m		17.37~17.54 m		17.19~17.36 m		17.01~17.18 m		16.83~17.00 m		16.65~16.82 m		16.47~16.64 m		16.29~16.46 m		16.11~16.28 m		15.93~16.10 m		15.75~15.92 m		15.57~15.74 m		15.39~15.56 m		15.21~15.38 m		15.03~15.20 m		14.85~15.02 m		14.67~14.84 m		14.49~14.66 m		14.31~14.48 m		14.13~14.30 m		13.95~14.12 m		13.77~13.94 m		13.59~13.76 m		13.41~13.58 m		13.23~13.40 m		13.05~13.22 m		12.87~13.04 m		12.69~12.86 m		12.51~12.68 m		12.33~12.50 m		12.15~12.32 m		11.97~12.14 m		11.79~11.96 m		11.61~11.78 m		11.43~11.60 m		11.25~11.42 m		11.07~11.24 m		10.89~11.06 m		10.71~10.88 m		10.53~10.70 m		10.35~10.52 m		10.17~10.34 m		9.99~10.16 m		9.81~9.98 m		9.63~9.80 m		9.45~9.62 m		9.27~9.44 m		9.09~9.26 m		8.91~9.08 m		8.73~8.90 m		8.55~8.72 m		8.37~8.54 m		8.19~8.36 m		8.01~8.18 m		7.83~8.00 m		7.65~7.82 m		7.47~7.64 m		7.29~7.46 m		7.11~7.28 m		6.93~7.10 m		6.75~6.92 m		6.57~6.74 m		6.39~6.56 m		6.21~6.38 m		6.03~6.20 m		5.85~6.02 m		5.67~5.84 m		5.49~5.66 m		5.31~5.48 m		5.13~5.30 m		4.95~5.12 m		4.77~4.94 m		4.59~4.76 m		4.41~4.58 m		4.23~4.40 m		4.05~4.22 m		3.87~4.04 m		3.69~3.86 m		3.51~3.68 m		3.33~3.50 m		3.15~3.32 m		2.97~3.14 m		2.79~2.96 m		2.61~2.78 m		2.43~2.60 m		2.25~2.42 m		2.07~2.24 m		1.89~2.06 m		1.71~1.88 m		1.53~1.70 m		1.35~1.52 m		1.17~1.34 m		0.99~1.16 m		0.81~0.98 m		0.63~0.80 m		0.45~0.62 m		0.27~0.44 m		0.09~0.26 m	
25.77	25.94	25.65	25.77	25.47	25.64	25.29	25.46	25.11	25.28	24.93	25.10	24.75	24.92	24.57	24.74	24.39	24.56	24.21	24.38	24.03	24.20	23.85	24.02	23.67	23.84	23.49	23.66	23.31	23.48	23.13	23.30	22.95	23.12	22.77	22.94	22.59	22.76	22.41	22.58	22.23	22.40	22.05	22.22	21.87	22.04	21.69	21.86	21.51	21.68	21.33	21.50	21.15	21.32	20.97	21.14	20.79	20.96	20.61	20.78	20.43	20.60	20.25	20.42	20.07	20.24	19.89	20.06	19.71	19.88	19.53	19.70	19.35	19.52	19.17	19.34	18.99	19.16	18.81	18.98	18.63	18.80	18.45	18.62	18.27	18.44	18.09	18.26	17.91	18.08	17.73	17.90	17.55	17.72	17.37	17.54	17.19	17.36	17.01	17.18	16.83	17.00	16.65	16.82	16.47	16.64	16.29	16.46	16.11	16.28	15.93	16.10	15.75	15.92	15.57	15.74	15.39	15.56	15.21	15.38	15.03	15.20	14.85	15.02	14.67	14.84	14.49	14.66	14.31	14.48	14.13	14.30	13.95	14.12	13.77	13.94	13.59	13.76	13.41	13.58	13.23	13.40	13.05	13.22	12.87	13.04	12.69	12.86	12.51	12.68	12.33	12.50	12.15	12.32	11.97	12.14	11.79	11.96	11.61	11.78	11.43	11.60	11.25	11.42	11.07	11.24	10.89	11.06	10.71	10.88	10.53	10.70	10.35	10.52	10.17	10.34	9.99	10.16	9.81	9.98	9.63	9.80	9.45	9.62	9.27	9.44	9.09	9.26	8.91	9.08	8.73	8.90	8.55	8.72	8.37	8.54	8.19	8.36	8.01	8.18	7.83	8.00	7.65	7.82	7.47	7.64	7.29	7.46	7.11	7.28	6.93	7.10	6.75	6.92	6.57	6.74	6.39	6.56	6.21	6.38	6.03	6.20	5.85	6.02	5.67	5.84	5.49	5.66	5.31	5.48	5.13	5.30	4.95	5.12	4.77	4.94	4.59	4.76	4.41	4.58	4.23	4.40	4.05	4.22	3.87	4.04	3.69	3.86	3.51	3.68	3.33	3.50	3.15	3.32	2.97	3.14	2.79	2.96	2.61	2.78	2.43	2.60	2.25	2.42	2.07	2.24	1.89	2.06	1.71	1.88	1.53	1.70	1.35	1.52	1.17	1.34	0.99	1.16	0.81	0.98	0.63	0.80	0.45	0.62	0.27	0.44	0.09	0.26

記事内容
26.45~26.75m 60° 程度の同方向の密着した割れ目が発達 27.10~30.00m コアは硬質。29.00mまでピンク長石多い。 径3~5mmの石英、長石、黒雲母の斑晶を含む。 含有率は5%程度。 27.31m(∠54°)27.41m(∠52°)に見られる割れ目の上側に同じ方向とこれと斜交する割れ目が亀甲に発達する。 27.51~27.60m 40° 前後の数本の割れ目と、これと斜交する割れ目が亀甲状に発達する。
28.20~28.55m 開口していない縦方向の割れ目あり 所々にMn(1mm)を挟在する
28.60~29.00m 割れ目は少なく、開口していない。
29.00~29.45m ヘアークラック発達、同方向は40° 前後の傾斜で分布する。
29.80~30.00m 40°、45° の同方向の割れ目が発達。
30.00~33.00m コアは硬質 径3~5mmの石英、長石、黒雲母の斑晶を5%程度含む。 30.04m 30.50m 割れ目(それぞれ40°、64°)の酸化鉄汚染およびMn汚染顕著。 30.40~30.60m コアにMn汚染がみられる。この周囲酸化鉄汚染程度大きい。 30.72m 割れ目(64°)に幅2mmの酸化鉄および砂粒子(石英粒多い)を挟む。
31.04~31.15m 割れ目およびコアにMn汚染がみられる。
31.30~31.40m 50° 前後の割れ目とこれに斜交する割れ目が発達 31.40m付近 同じ系統の割れ目が2~5mm間隔で発達 この部分のコアは軟質
32.20~32.40m 不規則なヘアークラックが発達

標尺	深度	柱状	岩種区分	色	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	最大コア長(cm)	Q	D	最大コア長(cm)	R	Q	D	記事
30				灰白		100	17	30								●25.17~25.44m ・破砕部である。 ・主層層セシスである。 ・灰白~淡黄色の輝石じり粘土状~にぶい黄色の粘土質じり輝石を呈する。 ・灰白~淡黄色輝石じり粘土: 厚計厚10mm ・走向・傾斜はN31E37°である。 ・上層境界の傾斜は40°、下層境界の傾斜は36°である。 ●25.65~25.77m(D-5破砕帯) ・破砕部である。 ・右すれ正断層セシスである。 ・灰黄褐色の粘土状~明褐色の硬質粘土~粘土質じり輝石を呈する。 ・灰黄褐色粘土: 厚計厚12mm ・走向・傾斜はN21°E37°である。 ・上層境界の傾斜は30°~60°で湾曲している。 25.77~26.12m ・粘土化しており、軟質である。 34.96~35.41m ・割れ目が多く、薄片状を呈する。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
50, 51	<ul style="list-style-type: none"> ・硬軟や割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・マンガン、割れ目の開口状況、酸化鉄汚染については、補足的なものであるため削除。 ・一部の割れ目に砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

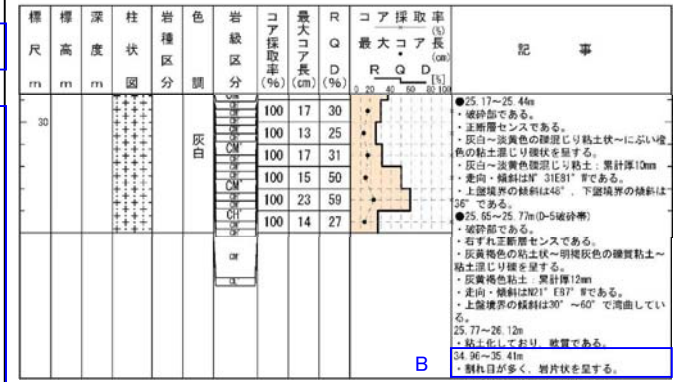
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

層位 (m)	深度 (m)	層名	地質	傾斜		RQD	最大コア長	岩級区分	色調	記事																																																																																																																																																																																																							
				傾斜	方位					記事	記事																																																																																																																																																																																																						
32.39	32.53	32.92	32.94	32.95	32.96	32.97	32.98	32.99	33.00	33.01	33.02	33.03	33.04	33.05	33.06	33.07	33.08	33.09	33.10	33.11	33.12	33.13	33.14	33.15	33.16	33.17	33.18	33.19	33.20	33.21	33.22	33.23	33.24	33.25	33.26	33.27	33.28	33.29	33.30	33.31	33.32	33.33	33.34	33.35	33.36	33.37	33.38	33.39	33.40	33.41	33.42	33.43	33.44	33.45	33.46	33.47	33.48	33.49	33.50	33.51	33.52	33.53	33.54	33.55	33.56	33.57	33.58	33.59	33.60	33.61	33.62	33.63	33.64	33.65	33.66	33.67	33.68	33.69	33.70	33.71	33.72	33.73	33.74	33.75	33.76	33.77	33.78	33.79	33.80	33.81	33.82	33.83	33.84	33.85	33.86	33.87	33.88	33.89	33.90	33.91	33.92	33.93	33.94	33.95	33.96	33.97	33.98	33.99	34.00	34.01	34.02	34.03	34.04	34.05	34.06	34.07	34.08	34.09	34.10	34.11	34.12	34.13	34.14	34.15	34.16	34.17	34.18	34.19	34.20	34.21	34.22	34.23	34.24	34.25	34.26	34.27	34.28	34.29	34.30	34.31	34.32	34.33	34.34	34.35	34.36	34.37	34.38	34.39	34.40	34.41	34.42	34.43	34.44	34.45	34.46	34.47	34.48	34.49	34.50	34.51	34.52	34.53	34.54	34.55	34.56	34.57	34.58	34.59	34.60	34.61	34.62	34.63	34.64	34.65	34.66	34.67	34.68	34.69	34.70	34.71	34.72	34.73	34.74	34.75	34.76	34.77	34.78	34.79	34.80	34.81	34.82	34.83	34.84	34.85	34.86	34.87	34.88	34.89	34.90	34.91	34.92	34.93	34.94	34.95	34.96	34.97	34.98	34.99	35.00

記事内容
52 32.39、32.53、32.92、32.94m 割れ目に石英粒子および10Y8/2 灰白色シルトを挟む。幅1~2mm
32.95m付近 同じ系統の割れ目が4~6mm間隔で発達。 この部分のコアは軟質
33.20~33.30m 70° 前後の密着した不連続な割れ目が少数発達。
33.85m 62° の割れ目に幅1~2mm、砂粒子を挟在 割れ目周囲は酸化鉄褐色汚染される。
34.68~34.82m 40°、45° の同系統の割れ目が発達 割れ目面はいずれもMn鉱染され黒色化
34.96m、34.98m 割れ目沿いに幅2mmの黒色粘土(Mn)を挟在。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
52	・シルトを挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
53	・硬軟や割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜、割れ目の密着状態、マンガ、褐色汚染については、補足的なものであるため削除。 ・一部の割れ目に砂や粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
B	・“コアの形状”欄に基づき、岩片状と記載。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

層位 (m)	深度 (m)	層名	地質	割れ目		RQD	最大コア長	岩級区分	色調	記事
				傾斜	幅					
32.39	32.53	32.92	32.94	33.20	33.30	33.85	34.68	34.82	34.96	34.98
<p>52 32.39、32.53、32.92、32.94m 割れ目に石英粒子および10Y8/2 灰白色シルトを挟在。幅1~2mm</p> <p>32.95m付近 同じ系統の割れ目が4~6mm間隔で発達。この部分のコアは軟質</p> <p>33.20~33.30m 70° 前後の密着した不連続な割れ目が少数発達。</p> <p>33.85m 62° の割れ目に幅1~2mm、砂粒子を挟在 割れ目周囲は酸化鉄褐色汚染される。</p> <p>53 34.68~34.82m 40°、45° の同系統の割れ目が発達 割れ目面はいずれもMn鉱染され黒色化</p> <p>34.96m、34.98m 割れ目沿いに幅2mmの黒色粘土(Mn)を挟在。</p>										

記事内容
32.39、32.53、32.92、32.94m 割れ目に石英粒子および10Y8/2 灰白色シルトを挟在。幅1~2mm
32.95m付近 同じ系統の割れ目が4~6mm間隔で発達。この部分のコアは軟質
33.20~33.30m 70° 前後の密着した不連続な割れ目が少数発達。
33.85m 62° の割れ目に幅1~2mm、砂粒子を挟在 割れ目周囲は酸化鉄褐色汚染される。
34.68~34.82m 40°、45° の同系統の割れ目が発達 割れ目面はいずれもMn鉱染され黒色化
34.96m、34.98m 割れ目沿いに幅2mmの黒色粘土(Mn)を挟在。

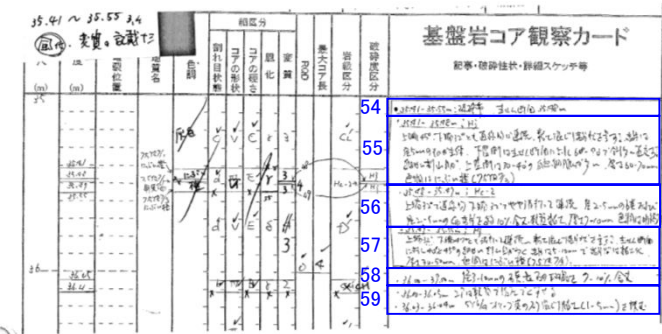


記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
52	・シルトを挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
53	・硬軟や割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜、割れ目の密着状態、マンガ、褐色汚染については、補足的なものであるため削除。 ・一部の割れ目に砂や粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
B	・“コアの形状”欄に基づき、岩片状と記載。

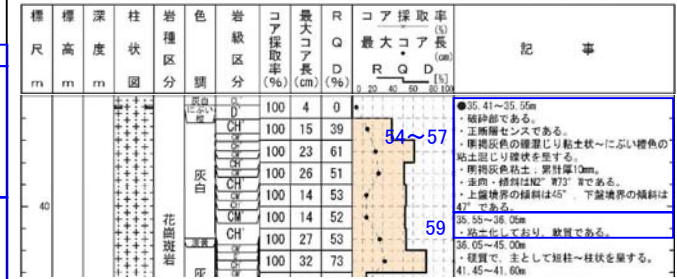
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容	
35.41~35.55 3, 4	風化、変質の記載ナシ
54	●35.41-35.55m:破砕帯 主せん断面35.48m 35.41-35.48m; Hj 上端45° 下端32° とも直線間に連続、粘土混じり岩片状を呈する。岩片は径5mmのものが主体。下盤側は主せん断面に対し60°~90°で斜交~直交する
55	細かい割れ目が上盤側は30~40°の白色細脈が多い。厚さ60~70mm 色調はにぶい橙(7.5YR7/3)。
56	35.48-35.49m; Hc-2 上端32°で直線の下端32°でやや波打って連続。径2~5mmの石英および径2~5mmのGp岩片を約10%含む軟質粘土。厚さ7~0mm色調は明褐灰(7.5YR7/1)。
57	35.49-35.55m; Hj 上端32° 下端47° とも波打って連続。粘土混じり岩片状を呈する。主せん断面に対し40°と45°の細かい割れ目が多く岩片は5~10mmで岩片間は粘土化厚さ30~50mm。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)
58	36.00-39.00m 径3~10mmの石英、長石の斑晶を7~10%含む
59	36.00-36.05m コアは軟質で指圧でくずせる。 36.03-36.04m 5Y6/4オリーブ黄の砂混じり粘土(1~5mm)を挟む



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
54~57	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 径2~5mmの石英および径2~5mmのGp岩片を約10%含むとの記載に基づき、礫混じり粘土状と記載。 表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) 粘土の累計幅については、最大値を記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
58	一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
59	<ul style="list-style-type: none"> “コアの硬さ”欄に基づき、35.55~36.05m、粘土化しており、軟質であると記載。 粘土の幅については、ばらつきがあるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

記事内容	
35.41~35.55	3, 4 風化, 変質の記載ナシ
54	●35.41-35.55m:破砕帯 主せん断面35.48m 35.41-35.48m; Hj 上端45° 下端32° とも直線間に連続、粘土混じり岩片状を呈する。岩片は径5mmのものが主体。下盤側は主せん断面に対し60°~90°で斜交~直交する
55	細かい割れ目が上盤側は30~40°の白色細脈が多い。厚さ60~70mm 色調はにぶい橙(7.5YR7/3)。
56	35.48-35.49m; Hc-2 上端32°で直線の下端32°でやや波打って連続。径2~5mmの石英および径2~5mmのGp岩片を約10%含む軟質粘土。厚さ7~10mm色調は明褐灰(7.5YR7/1)。
57	35.49-35.55m; Hj 上端32° 下端47° とも波打って連続。粘土混じり岩片状を呈する。主せん断面に対し40°と45°の細かい割れ目が多く岩片は5~10mmで岩片間は粘土化厚さ30~50mm。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)
58	36.00-39.00m 径3~10mmの石英、長石の斑晶を7~10%含む
59	36.00-36.05m コアは軟質で指圧でくずせる。 36.03-36.04m 5Y6/4オリーブ黄の砂混じり粘土(1~5mm)を挟む

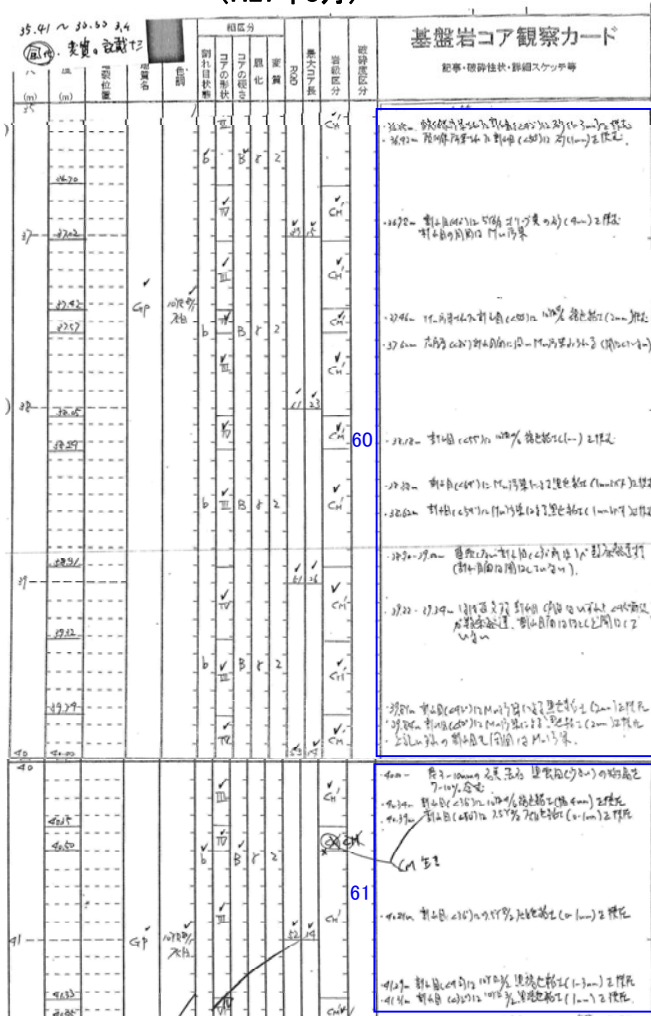
標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	コア採取率	最大コア長	記事
m	m	m	図	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
				灰白	CH	100	4	0					●35.41~35.55m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・標準灰色の微細じり粘土状~にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈する。 ・標準灰色粘土、実粒径10mm。 ・走向・傾斜はN27°Eである。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は47°である。
				花崗斑岩	CH	100	15	39					●35.55~36.00m ・砂土としており、軟質である。
					CH	100	23	61					●36.05~45.00m ・硬質で、主として短柱~柱状を呈する。 ・41.45~41.60m

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
54~57	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 径2~5mmの石英および径2~5mmのGp岩片を約10%含むとの記載に基づき、礫混じり粘土状と記載。 表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) 粘土の累計幅については、最大値を記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
58	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
59	<ul style="list-style-type: none"> “コアの硬さ”欄に基づき、35.55~36.05m、粘土化しており、軟質であると記載。 粘土の幅については、ばらつきがあるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
36.35m 酸化鉄汚染された割れ目(∠42°)に砂(1~3mm)を挟む。 36.42m 酸化鉄汚染された割れ目(∠50°)に砂(1mm)を挟む。
36.78m 割れ目(40°)に5Y6/3オリーブ黄の砂(4mm)を挟む 割れ目の周囲はMn汚染
37.46m Mn汚染された割れ目(∠50°)に10YR4/6褐色粘土(2mm)挟む 37.62m 高角度(∠80°) <u>割れ目面</u> に沿いMn汚染みられる。(開口していない)
38.18m 割れ目(∠55°)に <u>10YR4/6</u> 褐色粘土(1mm)を挟む
38.38m 割れ目(∠64°)にMn汚染による黒色粘土(1mm以下)を挟む 38.62m 割れ目(∠59°)にMn汚染による黒色粘土(1mm以下)を挟む
38.90-39.00m 連続しない割れ目(∠30°前後)が数条発達する。 (割れ目面は開口していない) 39.22-39.34m ほぼ直交する割れ目(角度はいずれも∠45°前後)が数条発達、 割れ目面はほとんど開口していない。
39.81m 割れ目(∠42°)にMn汚染による黒色粘土(2mm)を挟在 39.84m 割れ目(∠50°)にMn汚染による黒色粘土(2mm)を挟在 上記いずれの割れ目も周囲はMn汚染
40.00- 径3~10mmの石英、長石、黒雲母(少ない)の斑晶を7~10%含む 40.34m 割れ目(∠36°)に10YR4/6褐色粘土(幅4mm)を挟在 40.39m 割れ目(∠30°)に7.5Y8/2灰白色粘土(0~1mm)を挟在
40.81m 割れ目(∠36°)に7.5Y8/2灰白色粘土(0~1mm)を挟在 41.29m 割れ目(∠42°)に10YR3/2黒褐色粘土(1~3mm)を挟在 41.31m 割れ目(∠32°)に10YR3/2黒褐色粘土(1mm)を挟在

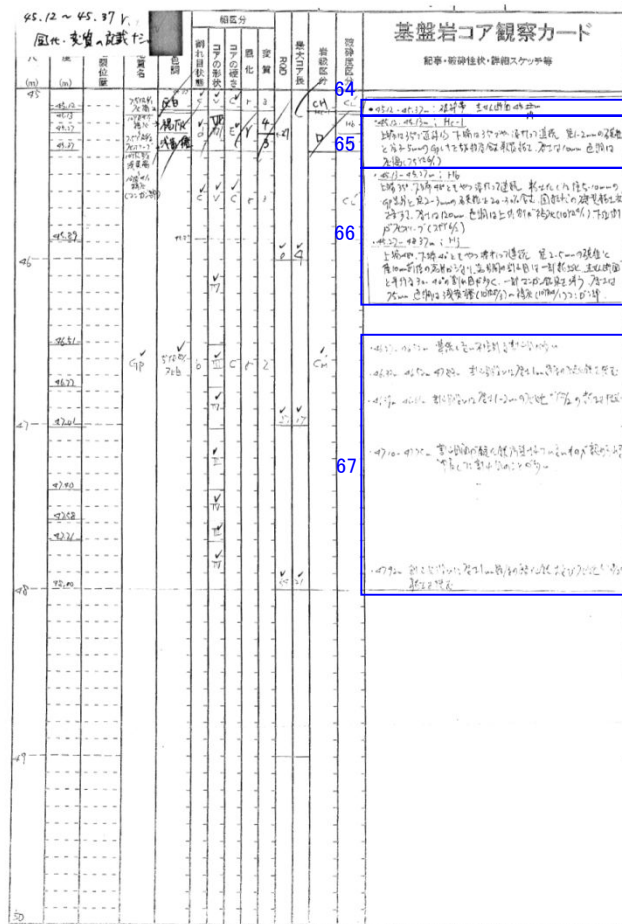


記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
C	<ul style="list-style-type: none"> “コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。 “コアの形状”欄に基づき、短柱~柱状と記載。
60, 61	<ul style="list-style-type: none"> 一部の割れ目に砂や粘土を挟在するが、いずれも周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 酸化鉄汚染、マンガ、割れ目の開口状況については、補足的なものであるため削除。 一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容	
45.12~45.37 r	風化・変質の記載ナシ
64	●45.12~45.37m破砕帯 主せん断面45.14m 45.12~45.13m:Hc-1 上端は35°で直線の下端は35°でやや波打って連続 径1~2mmの石英粒と径3~5mmのGpレキを5%程度含む軟質粘土。厚さは10mm色調は灰褐(7.5YR6/1)
65	45.13~45.27m:Hb 上端35° 下端48°ともやや波打って連続 粘土化した径5~10mmのGp岩片と径2~3mmの石英粒を20~30%含む固結状の礫質粘土状を呈する。厚さは120mm色調は上端側が褐灰(10YR4/1), 下端側が灰オリブ(7.5Y6/2)
66	45.27~48.37m:Hj 上端48° 下端40°ともやや波打って連続 径2~5mmの石英粒と径10mm前後の岩片からなり、岩片間の割れ目は一部粘土化。主せん断面と平行な30~40°の割れ目が多く一部でマンガン鉱染を伴う。厚さは75mm色調は浅黄橙(10YR8/3)~褐灰(10YR4/1)マンガン部
67	46.27~46.52m 連続しない不規則な割れ目が多い。 46.32m 46.52m 47.83m 割れ目沿いに厚さ1mm程度の酸化鉄を挟む。 46.39m 46.61m 割れ目沿いに厚さ1~2mmの灰白色5Y5/2の粘土を挟む。 47.10~47.75m 割れ目面が酸化鉄汚染されているものが認められる。 ゆ着した割れ目のことが多い。 47.92m 割れ目沿いに厚さ1mm程度の酸化鉄および灰白色5Y8/2の粘土を挟む。

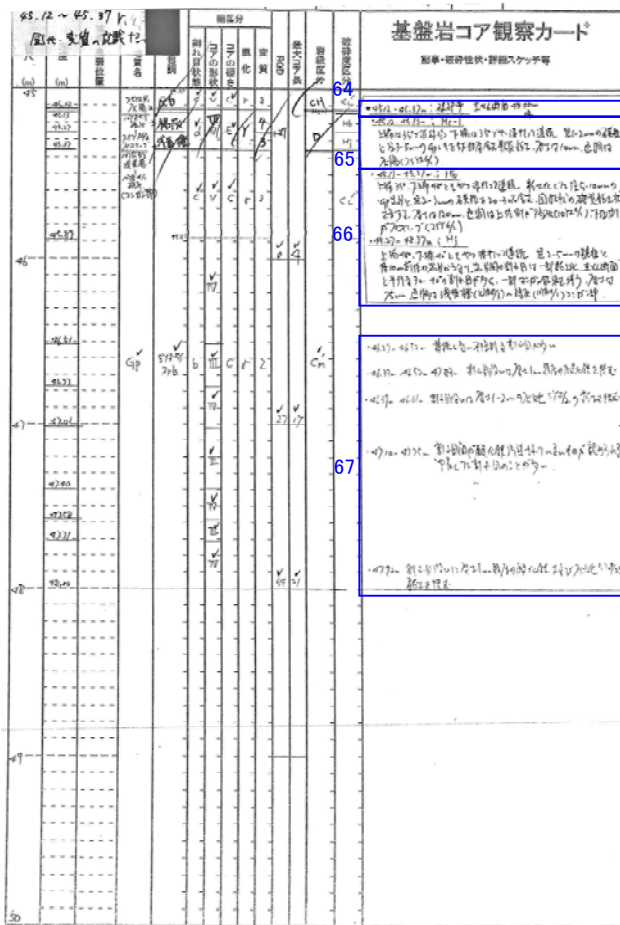
標尺	深度	柱状	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	コア採取率 (%)				記事
								R	Q	D	最大コア長 (cm)	
40			花崗斑岩	灰白	CH	100	14	52				47°である。 35.55~36.05m ・粘土化しており、軟質である。 36.05~45.00m ・礫質で、主として短柱~柱状を呈する。 41.45~41.60m ・風化が顕み、砂状を呈する。
			花崗斑岩	灰白	CH	100	27	53				●45.12~45.37m ・破砕帯である。 ・上層層センスである。 ・灰褐色の粘土状~褐灰~灰オリブ色の礫質粘土~浅黄橙~褐灰色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰褐色粘土 累計厚10mm ・走向・傾斜はN30°E72°である。 ・上層境界の傾斜は35°、下層境界の傾斜は40°である。
			花崗斑岩	灰白	CH	100	32	73				
			花崗斑岩	灰白	CH	100	14	14				
			花崗斑岩	灰白	CH	100	15	49				
			花崗斑岩	灰白	CH	100	4	0				
			花崗斑岩	灰白	CH	100	17	27				
			花崗斑岩	灰白	CH	100	21	54				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
64~66	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 表現の見直し(岩片間の割れ目は一部粘土化→粘土混じり礫状) ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
67	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 割れ目沿いの酸化鉄、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 一部の割れ目に粘土を挟むが、いずれも直線性に乏しいことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容	
45.12~45.37 r	風化・変質の記載ナシ
64	●45.12~45.37m:破砕帯 主せん断面45.14m 45.12~45.13m:Hc-1
65	上端は35°で直線の下端は35°でやや波打って連続 径1~2mmの石英粒と径3~5mmのGpレキを5%程度含む軟質粘土。厚さは10mm色調は灰褐(7.5YR6/1)
66	45.13~45.27m:Hb 上端35° 下端48°ともやや波打って連続 粘土化した径5~10mmのGp岩片と径2~3mmの石英粒を20~30%含む固結状の礫質粘土状を呈する。厚さは120mm色調は上端側が褐灰(10YR4/1), 下端側が灰オリーブ(7.5Y6/2)
66	45.27~48.37m:Hj 上端48° 下端40°ともやや波打って連続 径2~5mmの石英粒と径10mm前後の岩片からなり、岩片間の割れ目は一部粘土化。主せん断面と平行な30~40°の割れ目が多く一部でマンガン鉱染を伴う。厚さは75mm色調は浅黄橙(10YR8/3)~褐灰(10YR4/1)マンガン部
67	46.27~46.52m 連続しない不規則な割れ目が多い。 46.33m 46.52m 47.83m 割れ目沿いに厚さ1mm程度の酸化鉄を挟む。 46.39m 46.61m 割れ目沿いに厚さ1~2mmの灰白色5Y5/2の粘土を挟む。 47.10~47.75m 割れ目面が酸化鉄汚染されているものが認められる。 ゆる着した割れ目のことが多い。 47.92m 割れ目沿いに厚さ1mm程度の酸化鉄および灰白色5Y8/2の粘土を挟む。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
64~66	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 表現の見直し(岩片間の割れ目は一部粘土化→粘土混じり礫状) ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
67	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 割れ目沿いの酸化鉄、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 一部の割れ目に粘土を挟み込むが、いずれも直線性に乏しいことから削除。

- 今回、第865回審査会合でご指示いただいた事項についての確認、検討結果についてとりまとめた。

審査会合	指示事項	説明箇所
第865回	(1)申請書案の元データが提示されていない10孔について再度確認し、元データと申請書柱状図との比較を行うこと。	5頁
	(2)調査会社の報告書柱状図にある“K断層”との破砕部名称が申請書で記載されていないことについて、経緯・根拠を説明すること。	8頁
	(3)調査会社の報告書柱状図を起点として申請書柱状図でどのような変更があったのかを分かりやすく整理すること。申請書柱状図で反映すべきデータを明確にすること。(①) 調査会社の報告書柱状図の肉眼観察結果を一次データとして柱状図に残すこと。(②) 審査資料においては、断層岩区分の評価として固結、未固結との用語は使用せずに、カタクレーサイト、断層ガウジ等の用語を用いること。(③)	10頁
	(4)誤記については過去分も含めてリスト化して整理し、また、誤記の箇所も含めて、変位センス等の破砕部性状については観察結果等のエビデンスと紐づけした資料として提示すること。	17頁
	(5)総点検の体制、不適合管理の内容について示すこと。原因分析が表面的に見えるので、更に深掘りして検討すること。	18頁

■ 今回、第865回審査会合でご指示いただいた事項についての確認、検討結果についてとりまとめた。

審査会合	指示事項	説明箇所
第865回	(1)申請書案の元データが提示されていない10孔について再度確認し、元データと申請書柱状図との比較を行うこと。	5頁
	(2)調査会社の報告書柱状図にある“K断層”との破碎部名称が申請書で記載されていないことについて、経緯・根拠を説明すること。	8頁
	(3)調査会社の報告書柱状図を起点として申請書柱状図でどのような変更があったのかを分かりやすく整理すること。申請書柱状図で反映すべきデータを明確にすること。(①) 調査会社の報告書柱状図の肉眼観察結果を一次データとして柱状図に残すこと。(②) 審査資料においては、断層岩区分の評価として固結、未固結との用語は使用せずに、カタクレーサイト、断層ガウジ等の用語を用いること。(③)	10頁
	(4)誤記については過去分も含めてリスト化して整理し、また、誤記の箇所も含めて、変位センス等の破碎部性状については観察結果等のエビデンスと紐づけした資料として提示すること。	17頁
	(5)総点検の体制、不適合管理の内容について示すこと。原因分析が表面的に見えるので、更に深掘りして検討すること。	18頁

■ 本日の審査会合のために令和2年9月24日に提出した資料に誤記があったことに関しては、敦賀発電所2号炉の審査資料の記載の不備に関する不適合がこれまでに4件発生していることを踏まえ、これらの共通原因の分析を進めている。

3. まとめ

■ 今回の一連のご指摘を当社として重く受け止め、一次データの重要性に対する理解の徹底、記録の識別の徹底、審査資料のレビューの強化、品質保証に係る教育の実施等の是正処置を行い、再発防止を確実に実施していく。

また、社長によるマネジメントレビューを含む品質保証活動を通じて、継続的にPDCAを回し、審査対応業務の改善に取り組んでいく。

■ ボーリング柱状図はコアの肉眼観察による一次データを記録するものであることを明確にし、本日お示しした内容に基づき、柱状図以外の資料も含めて、修正した資料を早急に取りまとめて提出する。

3. まとめ

- 今回の一連のご指摘を当社として重く受け止め、一次データの重要性に対する理解の徹底、記録の識別の徹底、審査資料のレビューの強化、品質保証に係る教育の実施等の是正処置を行い、再発防止を確実に実施していく。

敦賀発電所 2 号炉の審査資料の記載の不備に関する不適合がこれまでに 4 件発生していることを踏まえ、これらの共通原因の分析を進めている。

また、社長によるマネジメントレビューを含む品質保証活動を通じて、継続的にPDCAを回し、審査対応業務の改善に取り組んでいく。

- ボーリング柱状図はコアの肉眼観察による一次データを記録するものであることを明確にし、本日お示した内容に基づき、柱状図以外の資料も含めて、修正した資料を早急に取りまとめて提出する。

余白